



いろいろといろ

この本は

この本は、主に、ツイッターで書いているツイノベ、#twnovelをまとめたものです。基本、140字以内の短編ですがたまに勢い余ってはみ出します。でも短編です。随時更新する予定です。

球体X

ぼくを育んだ愛しい球体から今、放たれる。

ぼくはどこへ行くんだろう。目の前に広がる暗黒。ここはなんてあつさだ。

でも負けるわけにはいかない。ぼくにはやるべきことがある。

「目玉焼きできたわよー」「いただきます」わーブラックホールに吸い込まれるー。

#twnovel

夏一夜

あれは、暑い暑い、夏の夜。あの人が、私に火をつけたんだ。

こんなこと、始めてだった。なんて熱く、そして切ない。

ねえ、これが恋なの？こんなにも身を焦がす、これが。

「あ、落ちる」ぽとっ。「俺、線香花火って好きなんだよなあ。」

ありがとう、私もよ。

#twnovel

7月7日晴れ

花火大会の誘いのメールを別れた妻へ送った。

OKの返事を貰ったその日、彼女と会うことはなかった。

翌日、彼女からメールが来た。

「川向こうにあなたを見つけた。でも近くに橋がなかったの。だから帰ったわ。運命だと思ったの。」

来年は、川辺じゃない花火大会を選ぼう。

#twnovel

未来への

俺ってやつはなんて無能なんだ。チビな上に仕事まで遅い。

「背が低くても私は好きよ？」彼女はそう言って笑う。

同期の彼女。俺の10倍も12倍も速く仕事する。

「そういうけど、結婚してとか言ったら断るんだろう。」

彼女は俯いて、「一緒に時を刻みましょう。」チクタク

#twnovel

犯人はお前だ

「死因は窒息。犯人は指紋ふき取ってますね。」探偵は告げた。

「完全密室。邸内の我々は彼女を殺すのは不可能。彼女を殺せるのは貴方です。」
指さされたのは私。このドールハウスの持ち主。

そうだ。このハウスを掃除するのに、確かに首もって動かしたわ。

犯人は私。私…でいいの？

#twnovel

「…というわけで被害者は窒息死。犯人は殺害後、綺麗に掃除していったようです。」
探偵はそう告げた。

「完全なる密室。屋敷内の我々には到底彼女を殺害することなど出来ません。」
意味深な言葉にざわつく室内。

「この密室を破れるのはただ1人。それはそう。」

ぴしっ。

「あなたです！！」

「ええっ??」

指をさされたのは、私だった。

私、そうこの人形劇を見つめるドールハウスの持ち主。

そうだ、確かにそうだった。

このハウス掃除するのに、人形の首をもって動かしたっけ。

犯人は確かに私、で、いいの？

俺は夢の管理人。

夜に潜み、お前のその夢を操る闇の魔道師。

この悪夢は俺の愛。そして哀。

「夏は悪夢ばっかでやだなー。きっと夢担当の小人さんが、
『夏っす。ホラーっす。』とか言って流してるんだよー。ランニングとか着ちゃってー。」
お、俺は夢の管理人。俺は俺は闇のまま魔道師。

#twnovel

小説より奇なの？

「面白い本もないし夢でも見るわ。」

そう言って妻は眠りについた。どれ程の時間が経ったか。

毎日彼女を見舞う親友に、僕が恋心を抱いた所で何の罪に問われよう。

ノック。来た。

「君が好きなんだ。」

驚く彼女。

「私も」「楽しそうなお話ね。」

起き上がる妻。面白い物語の幕開け、なの？

#twnovel

小説より奇なの？ AFTER

「や、やあ、おはよう眠り姫。」起き上がる妻に言う間抜けな僕は、彼女の手を握っていた。

「あらー、てっきり私、人魚姫になったのかと思ったわ。」ニコニコ。怖い。

「ごめん、悪いけどジュリエットでもやっててよ。でもロミオは私が貰っていく。」

そう言って彼女の手が僕を引いた。

「ちょっと！あーあ、もう。行っちゃったー。」

私ホントは知ってたんだ。彼女があの人のこと好きなの。知らない振りして彼と結婚しちゃったのは私。

結婚は思ったようにはうまくいなくて、はやく開放してあげたかったのに、なかなかできなくてゴメンナサイ。

「罪悪感とか持たないといいんだけど。」

あの間抜けな僕ちゃん、優しさだけが取り柄だから。まーただの優柔不断って言えばそれまでなんだけどね。

私も新しい王子様、探さなくっちゃ。

塔の上で髪伸ばして待つのとガラスの靴を仕掛けに行くのって、どっちが効率いいかなあ。

塔

塔①

そっか、とうとうできちゃったんだ。
もう私、君の一番じゃないのね。ちょっと寂しいな。
でもね、私忘れないよ。
君の視線の先にはいつも私がいて、私もいつも君を見てた。
忘れないよ。
だから私の事、時々思い出してね、東京。
「スカイツリー見に行かないの?」「んー今日はこっち。」

#twnovel

塔②

ちょっとーどういうこと?
この、あ・た・しがいながらそういうことなの?
なによう。
あんな子ちょっとモデル体系なくらいでたいしたことないじゃない。
あっあたしのほうがずっと、あんたの事す、好きなんだからっ。好きなんだからねっ、東京。
「なんか東京タワーの上だけ雨雲が……」

#twnovel

塔③

私が全部やってたの。
この塔の上から。
笑わせる事、慰める事、泣かせる事、考えさせる事。
全て信号にして送り出した。
それもおしまい。
悲しい事?いえ、それはただの進歩。
そしてまだ、役割は残ってる。
私は今日も、歌ってる。話してる。
「今日のTOKYO FM、なんか切ない。」

#twnovel

天才発明家

声発電を発明し、愛玩動物ロボを作った。

飼主がロボに話かけることで動く。

売れに売れたので新商品を開発した。

「これすぐ動かなくなるんだ」

「お客様エネルギー切れです。話かけ……」

「返品きく？」

返品の山をみて溜息をつく。作ったのは奥様ロボ。

愛してる、で1時間は動くのに。

#twnovel

スノウホワイト

もう、嫌。何度も何度も同じ展開。

毒リンゴとか食べ飽きたわ。いい加減耐性ついてんじゃない？

だいたい遺体にキスする王子とかってどうなの？まじひくわ。

もう無理。

そうだ、私が書き換えてしまえばいいのよ。

1年後、白雪姫は薄い本を作った。

「王子と小人の八角関係とか新しいかも」

#twnovel

リストラ

「リストラされました。あんな風に思われてたなんて。

私はただ純粋に励ましたかっただけなのに。」

そう言って彼は肩を震わせた。

「大丈夫、きっとわかってもらえる日は来る。頑張っ。」

「呼び捨てすんな！！」

イケナイ。

そう彼は、「頑張っ」。

ここは禁じられた言葉達の収容所。

#twnovel

あなただけみつめてる

いつでも君を見てるよ。とても温かな君。

ボクには手の届かない遠い存在だけど、君だけを見てる。

ああ、いつかボクの羽で、君の元へ飛んでゆけるといいのに。

だって、君はボクだけの太陽。

「うーん、なぜか扇風機から熱い風が…故障??」

愛を込めて。

#twnovel

ギザギザハートの子守唄

あたしがやったの。

仕方ないじゃない。

あたしがあたしである限り、やるしかなかった。

だって、そこら辺の果物も人も、あたしにとっては同じようなものだもの。

「凶器はこのナイフのようですね。」

違うでしょ、あたしは「犯人」なのっ。

「こんな小さな果物ナイフで……」

やんのかっ。

#twnovel

きみがすき

きみがすきな。

彼女はそう呟くと瞳を潤ませた。

可愛い。

ベイベ今日から君がマイハニーだ。

知り合ったばかりだけどね。

彼女の可憐な唇が近づく。

積極的だな。

そういうのも嫌いじゃ

「何この白身。何この目玉なし焼き！きみのない目玉焼きって何の罰ゲームよ。

私は黄身が好きなのにー」

#twnovel

「これは愛情を量る装置なの。

私のいう全てに行動で同意して。いいわよ、田中」

天才 科学者の妻がそういと、助手の田中は僕になにやら電極のようなものををつけた。

「この書類にサインを。」

僕の前には一枚の書類が。

「へ、りこん、届？」

僕を見守る妻と田中。どうする、僕。

#twnovel

金の斧銀の斧

差し出された金の斧と銀の斧をマニュアル通り袖にする。

そして3回目、女神が持ってきたのは俺の斧。

それをやはりマニュアル通り笑顔で受け取り礼を言う。

さあこい。こいよ。おい、女神。俺を引き止めろ。どうなってんだ。

「私、マニュアル君嫌いなのよね。顔は好みだったのに。」

#twnovel

人の不幸は蜜の味

私は、蜜を食べて暮らしてる。

甘い蜜。これだけで十分生きていける。

そう思った。

「これ、どーぞ。そのままよりおいしいかもよ？」

ある日、彼は私にパンをくれた。おいしいパンだった。

麦の匂い。お腹が満たされて安心する。

人の不幸は蜜の味。そうか、所詮主食にはなれないのね。

#twnovel

夏休み

蝉の声が遠くに聞こえる。

君の真白な首筋がまるで溶けていくみたいに、汗が胸元に吸い込まれてゆく。

こらえきれず君に口つけ、その首筋を舐めた。

ホームランバー(バニラ)、僕は君を誰よりもアイス。

「って妄想しちゃいました。」

「阿呆だな。」

「はい。」

「次はチョコ味でいけ。」

#twnovel

ああ、夏休み

波の音が遠くに聞こえる。

君の小麦色の首筋がまるで溶けていくみたいに、汗が胸元に吸い込まれてゆく。

こらえきれず、君に口つけ、その首筋を舐めた。

ホームランバー(チョコ)、僕は君を誰よりもアイス。

「こんなんでもうすかね、先輩。」

「かわりばえしないな。」

「はい。」

「そうだよな萌えポイントはそうそう変わんないよな。」

ダイイングメッセージ

ダイイングメッセージ①

「残された血文字『 π 』は3.14。

そこからホワイトデーが導き出されます。従って犯人は貴方です白石さん。」

「何言ってんだ、 π は3だろ。ホワイトデーとか意味不。」

「逮捕します。」

…「ってな事がないようにしっかり覚えとけよ、 π は3.14だぞ白石。」 「え、俺？」

#twnovel

ダイイングメッセージ②

「これダイイングメッセージなんじゃ。」

最悪だ。

「血文字だな。かつお？」

ああっ。

あ、どうも。僕死体です。

アホな死に方でした。転んだだけなのに打ち所悪くて。

血が出たからつい出来心で書きちゃったんですよね。

意味とかないんです。死ぬと思ってなかったし。

「魚屋をあたれ！」

#twnovel

残暑

忘れない、あの温度を。

忘れない、あの眩しさを。

君の事が好きだった。

あまりにも情熱的な君と向き合えなくて、

逃げてしまったこともあったけれど、

でも僕は君が好きだった。

「とか言って毎年忘れるんだ、夏がどれだけ暑かったのか。」

最後の線香花火がぼたっと落ちた。また来年。

#twnovel

ナンバーワンにならなくてもいい？

「君、フォロワ少ないよね。」

「うるっさ。私ツイッター界のガラパゴスになって独自の進化を遂げるからいいの！オンリーワンになるの！」

「シャープのガラパゴスはついに終わったよね。」

「うるっさい！」

(ホントはフォローしてもいいかなって言いたかったただけなのにバカ俺(泣))

#twnovel

不老長寿のお薬

不老長寿薬が開発されたらしい。

作成に数年を要し、注文時に臍帯血の提供が必要。

って事で皆こぞって出産した。

けれど、待てど暮らせど薬は出来上がってこない。

クレームが殺到した。

「おかげ様で、出生率が上がり、我国の寿命が延びました。」

そう言うと、社長は恭しく頭をたれた。

#twnovel

神様への手紙

神様、私達をおすくい下さい。

いつもそう願ってた。

けれどすくいの手が差し伸べられた今、それは恐怖でしかない。

逃げ惑う私達。未知への不安に震える。

そして、私を選ばれた。

さよなら世界。

「金魚救い燃えるわー。ゴッドハンドで救っちゃうぜ！的な？」

「救う、ではないような。」

#twnovel

タイムマシンはこない

タイムマシンできちゃった。行ってくるね。

そう言って同棲中の彼女が旅立った。

乙女にはそこまでして修正したい黒歴史があるらしい。

1ヵ月経過。まだ彼女は帰らない。

そう言えば最近彼女の私物を彼女の男友達を持ち出していくんだけど、

これって黒歴史修正と何か関係あるのかな？

#twnovel

自転車に乗って

可愛いあの子を後ろに乗せて帰り道。

「うお、つめたっ！」

「おー、気持ちよくて寝ちゃってた。よだれごめーん。」

「とんでもねーな。」

彼女送って部屋に帰って、洗わなくちゃとシャツ脱いだ。

冷たかった背中にマジックで、「スキです」とかもうとんでもねーな。

メール、しなきゃ。

#twnovel

オムライス女子

「お嬢様は容疑者になりえません。」

私を庇い執事が言う。

「このトリック、美しいオムライス形成が必須。

つまりお嬢様は天地がひっくり返ろうとも犯人になり得ないのです。」

そんな理由通じるわけないっていうか失礼な。

「なるほど容疑者から外しましょう。」

絶対容疑者になってやる！

#twnovel

あっぷるあっぷる

あっぷるあっぷる①

「雨にも風にも負けんで、新しいりんごをどんどん作れよ。」

イタコがそう言うと、男達は涙を流し頷いた。

「最近、あっぷるのすちーぶさんよべってよく言われんだ。」

「わもだ。」

「きっとリンゴ農家の社長だべな。」

「んだ。」

「いいりんごできるといいべな。」

#twnovel

あっぷるあっぷる②

天国と地上をネットで結ぶ方法が開発された。

次々と送られてくる天才技術者が悠久の時をかけ開発に専念できる天国は、まさに最高の環境と言えよう。

「問題は地上側に受信機がないことだったのに、君まで天国にきちゃうとは。」
天国技術社の新入社員はりんごをかじるとにこりと笑った。

#twnovel

理系男子

彼は理系男子。

メールしてもなかなか返事をくれない。

誘ってもものってこない。

二人きりで会話できるようになりたいのに。

「問い：計算せよ。『 $l+o+v+e$ 』。」

2日後、なんと返事がきた。

「 v の解釈について質問があるんだけど会える？」

かかったな。計算どおり。

#twnovel

素敵な空気

いつも何かに躓く君。

問うてみたら「在る」のだって。

怒りや悲しみは地に喜びや楽しさは天に、形をとって在るのだと言う。

怪我しないようにお姫様抱っこするのは簡単だけど、

僕は君と手を繋いで歩こう。

嫌なことから逃げてみたいと感じたら、憂いに埋もれてしまうかもしれないから。

twnovel

鉄道

鉄道①

それでは皆様よい眠りを。
照明が落ちると、車内の客全てが眠りにつく。
目的地表記のないその列車の進む音だけが響いた。
誰も行ったことのない場所へ。
そんな彼らが見つけた最後の目的地は自分の中だった。
旅とは非日常との邂逅。
良質な睡眠へ。
ガタンゴトン。

#twnvday #twnovel

鉄道②

「あげるっ」
そう言うと彼女は僕の手小さな紙を押し付け走り去った。
3つ年下の僕は、書いてある字を読むこともできずに転校した。
あれから5年。鉄道で繋がるあの街へと向かう。
「大好き」
あの日読めなかった言葉が君への切符となりますように。

#twnvday #twnovel

鉄道③

「線路って私達みたい。」
「にこいちなところが？」
「ずっと一緒にいるくせにどこまでいっても平行線なところが。」
「枕木で手を繋いでいるんだよ。重ならないのは相手を見つめるためでしょう。
そういうわけで結婚しませんか。」
「思いがけない終点ね。悪くないわ。」

#twnvday #twnovel

鉄道④

祖母は歩道の両脇に花を植え続けている。

不思議に思い訊ねると、

「ここは昔鉄道で、おじいちゃんはこちらから戦争に行ったの。

いつか帰ってくる時に、迷ってしまったら可哀想でしょう？」

そう言って、他の人にはナイショよと笑った。

薄紫の線路は美しく響る。

#twnvday #twnovel

鉄道⑤

昔ここには鉄道が走っていたの。

もう線路すらない木立の谷間、

手を繋いで歩いた緑の歩道に、

走る列車を想像するのは容易いことだった。

この道に今、独り。

思い出が君の輪郭をくりぬく。

なるほど僕こそが君がいた証か。

僕の手は君と繋がっている。今も。

#twnvday #twnovel

鉄道⑥

発車いたします。

大嫌いな故郷から列車に乗った。

永遠の列車。

おいしい食事と快適な居住空間が保障され、降りることはできない。

一周目、ずっとこうしてたい。

二週目、あの本気？

三週目、飽きた下ろして。

四週目、ダーイブ。

大嫌いな故郷は僕の目的地となった。

#twnvday #twnovel

化粧を落とした彼女の顔には何もなかった。

「貴方を見つめる目、貴方の好きな眼鏡娘になる為の鼻、貴方にぷにぷにされる頬、貴方に口付ける唇。

欲しくて作り出してきたの。」

零れる。

「そのままの貴方を愛してますよ。」

顔をあげた彼女の見覚えのない笑顔は、今までで一番可愛かった。

#twnovel

満ち欠け

満月を過ぎると悲しくなるのという彼女。

月がどんどん減って行って、からっぽになるのを見てらんないって。

それじゃあこういう考え方はどうかな。

月が減ってゆくんじゃないくて、夜が増えてくただけだって。

子供だまし？だまされてよ。

君の笑顔が減っていくと、僕の心配が増えるんだから。

#twnovel

うさぎどろっぷ

月のうさぎは、地に落ちた。
帰れない月を、まずぐにみあげる赤い瞳。
鮮明に写るとがった月。
泣くわけがない。
こんなに月が美しいと、今知ることができたのに。
帰れないくらい、なんだっていうの？

#twnovel

君は僕の太陽だ

私はあなたの太陽なの。

そうでしょう？

私なしではあなたは生きていけないわ。

眩いばかりの私をいつも正視できない草食系のあなた。

でもそれは仕方のないことね。

美しさって罪なもの。

「あ！電気つけっぱなしだった。でんこちゃんに怒られるわ。」

あら浮気？ほどほどにね。

#twnovel

秘密

段ボール箱の底に、ひっそり佇む妻の秘密を発見した。

息を潜める秘密を取り出す。

全くもって妻らしい、こんなものが秘密とは。

私は秘密を箱の底へとそっと戻した。

これでお前は妻と私、もはや二人の秘密となった。

だから安心して眠るといい。

秘密の正体？そんなの秘密に決まっています。

#twnovel

どちらにしようかな

この温泉はデトックス効果がございます。
こちらの入浴着にお着替えになってご入浴下さい。
お嬢様方は我先にと温泉にお入りになりました。
その5分後でございます。
お嬢様方は入浴着を残し消失なされました。
これはミステリーかファンタジーか。
それは神のみぞ知るのでございます。

#twnovel

神様のいうとおり→ファンタジー

皆様ご存知の通り、デトックスの意味は解毒でございます。

お嬢様方は解毒の結果消失なされたのです。

お解りいただけますか？

大変申し上げにくいのですが、

お嬢様方の成分が「毒100%」であった、というわけなのでございます。

ファンタジーとは恐ろしいものでございますね。

#twnovel

神様のいうとおり→ミステリー

これは事件です。通りすがりの名探偵が宣言致しました。こうなってしまった以上、お嬢様方消失は事件なのです。いずれ谷底から全裸の遺体が発見されるに違いありません。そうなりますと容疑者は当然私なのでございます。面倒はまっぴらごめんです。それでは皆様、ごきげんよう。

#twnovel

これは殺人事件です。

残念ながらお嬢さん方は殺され、遺体を隠されたに違いありません。

そう言って、通りすがりの名探偵様が現れました。

名探偵様でございますので、神出鬼没なのは仕方のないことなのでございます。

名探偵様が出てきてしまった以上は殺人事件は確定的。

犯人の存在は必要不可欠となります。

となれば、疑わしきは私、という展開となるのは目に見えております。

何しろ他にどなたも登場してございませんので、犯人になりうるのは私、場合によっては死んだはずのお嬢様方、もしくは奇をてらえば読者様ということになります。

読者様に犯人を押し付けるつもりは毛頭ございませんが、

私自身が犯人となるのはまっぴらごめんなのでございます。

時間もそれほどございません。ごきげんよう。よいご逃亡を。

月が綺麗ですね

月が綺麗ですね①

月が綺麗ですねって、あーあれね。漱石の。
で、だから何だって言うの。それで察しろと。
へー、あなたってどんだけ偉いの？
はいはい月は綺麗ですよ。誰と見てもね。
え、何？好きです？
あー言えるじゃない。最初からそう言えばいいのよ。
私もあなたとみる月は一等綺麗だと思うわ。

#twnovel

月が綺麗ですね②

女友達に誘われて屋形船貸切デート。
のはずなんだけど。
なぜ彼女のご両親が座っている。
「今日は月見日和なんだよ。」
注がれる酒に満月が映る。
「綺麗ですね。」「何が？」「月です。」「続けて言って。」
怖いんですけど。
月が綺麗ですね、って言ったら、俺、いったいどうなるの？

#twnovel

好みのタイプ

可愛がってくれてありがとう。

私が一番ご主人様と仲良しみたい。

恥ずかしくて隅っこにしかいられない私なのに、

たくさん撫でてくれるよね。

それってすごい嬉しいの。

「なんで俺、すぐ間違えんの？バックスペースキーまじ壊れそうだ。」

私のこと心配してくれるの？ご主人様大好きよ。

#twnovel

世界の終わり

世界の終わり①

世界が終わると教えてくれた少女は、怖がって泣く僕に、
ずっと傍にいてあげると言った。

その日僕らは2人で隠れ、次の日散々叱られたっけ。

あれから幾年月。ネットでは隕石落下の噂。

「小さい時の世界の終わり、原因は何だったの？」

妻に問う。

「あんなの嘘に決まってるじゃない。」

#twnovel

世界の終わり②

もうすぐ世界が終わるって。

そう切り出したところで、特別なことは何も起こらない気がする。

君が切り出してこないのも、大方同じような理由だろう。

だけど終わりってどんなものかわからないから、

一応手だけは繋いでおこうか。

君がいないことよりも、悲しいことなんか何もないから。

#twnovel

妻のついでとを見た。

「博多駅なう。」お、珍しい。

「ランチなう。」行きたいって言ってた新店舗か。

「ドライブなう。」運転しながら書くなよ危ない。

「浮気なう。#twnovel」

そーか、うわき。浮気？ついのべ？え？おい、妻。解って書いてるか？

ついのべは、つい述べてしまったの略じゃないぞ。

迷惑メール

「何このメール。別れましょ。」
彼女に見せられたメールは酷い内容だった。
僕からのメールだって？覚えがない。
けれど確かに僕のアドレスからだった。
混乱していると、僕にメールが。
あれ？僕のアドレスから？
「私、携帯。貴方と付き合うことにしたの。」
はい？
「大好きよ。ちゅ。」

#twnovel

私の名はベータ。空から降ってきた少女は答えた。

「私たちは流れ星の成れの果て。

私は少女の形をしていますが、葉っぱ型、雪型、蛙型等種類形状は様々です。

人間が見つけられないにすぎません。私達は発見者の願いを実現します。

さあ願い事を言いなさい。」

僕の大冒険が始まった。

#tnovel

ビューティフルネーム

薫、良子、珠子。

昔遊び人今認知症のお爺ちゃんは、お婆ちゃんをいろんな名前と呼ぶ。

その度笑顔で答えるお婆ちゃん。

間違えられて嫌じゃないのって聞いたら、呼んでくれるのならば何だっていいのよって。

いいなこういうの。

でも僕は名前は間違えない。同じ名前の女とだけ付き合うよ。

#twnovel

乙女心ツイート

好きな子のツイートが鬱々で心配。
彼女惚げだし、思いつめちゃうところありそうだからな。
まーだからこそ僕が守ってあげたいなって///コホン。
お、RT。笑ったら負け？お。またRT。下ネタww
良かった回復したみたい、あ、また鬱イト。
乙女心わっかんね。まじわっかんね。

#twnovel

妄想する機械

私は死を恐れる要人を機械化する機械師。

承った通りに機械化、するわけがない。

100以上の要人が私の手の内にある今、

各人のプログラム如何では戦争をも

「やっばこの捨てロボ壊れてる。天才のあたしがお茶汲みくらいはできるように直してあげるね。」

せ かいを 手ニ

#twnovel

優しさに包まれたなら

小さい頃は神様がいた。

大きな手、背中。

神様は私が大好きで、何でも願いを叶えてくれた。

そしてある日、突然居なくなった。

ママに聞いたら困った顔で、「それより新しいパパと仲良くしてね。」って。

時間が経って、再び神様と会う。

「僕の天使会いたかった。」

やっぱりパパは神様よね。

#twnovel

沈黙のツイート

4分33秒みたいに沈黙のツイートとか新しくない？

ってことでぼちっとあれ押せない。

機械さん解ってないな。ま、俺様が気を利かせてあげますよっと空白いれて。

「あなたのアカウントは、このアクションを実行することが許可されていない可能性……」

解ってないのは俺だったかも。

#twnovel

「貴方の子よ。」

目の前の彼女の手には鶏卵。

「抱いてあげて。」

微笑んで差し出す。

戸惑う僕。

「あっ！」落下する卵。「ちょ、割れて！ここ子供！」

取り乱す僕に彼女は、

「合格。」

と笑った。

「子供できたって言ったらどう反応するかと思って。」

「嘘だったの？」

「本物はここよ。」

ハツコイ

初恋の人を紹介するよ、と彼が言う。

どういうつもりなのかしら。

複雑な胸中を悟られたくなくて、気のない素振りで了解した。

翌日、待ち合わせの図書館に向かう。

「この本、僕の初恋なんだ。」

それは古ぼけた本だった。

2人で読んだその本のお姫様は、ちょっとだけ私に似ていた。

#twnovel

彼はいつも梯子をかけて、私に会いにきた。

かわり映えしない私の話を喜んで聞いてくれたの。

彼がこなくなってどれくらい経つかしら。

と、ふいに体が浮いた。

「懐かしい。」この人は。

「この本、僕の初恋なんだ。」彼なのね？

さあ、もう一度、貴方の好きなお姫様のお話をしてあげるわ。

#twnovel

恋の病

私って性質の悪い女なの。

飽きるまで貴方から離れないわ。

こんなに熱くなって、顔も真っ赤ね。潤んだ瞳が素敵よ。

ドキドキしてるの？可愛いわ。

会社なんか行かなくたっていいじゃない。

「40度越えた。今年の風邪性質悪すぎるよ。」

今度は震えてるの？はやくベットに行きましょう。

#twnovel

恋の方程式

恋が方程式ならきちんと解けて、切ない思い長引かせなくて済むのにね。

なんて片想いの彼にしてみた。だって好きとか言えないし。

「場合によっては解けない場合もあるみたいだし、現状通り恋は恋でいんじゃない？」

「現状はよくない！付き合いたいもん！」

「あはい。」

あれ成功？

#tnovel

おしまいは君と一緒に

メールで目が覚めた。

「世界は滅びました自室待機願います」

何を企んでる妻。

窓から見える滅びた世界はいつも通りの長閑さだ。時が過ぎる。再びメール。

「居間へ来い」

って事なんで従う。

「お誕生日おめでとう！」

「誕生日、昨日だよ？」

凄い顔だね妻。その顔が一番の贈り物だよ。

#twnovel

文学少女

彼女は文学少女ってヤツだ。

本に書いてあることこそが彼女の正義。

ネットなんか嘘ばかりよ、それが口癖だ。

そんな彼女が本をくれた。

「この本凄いの。これこそ真実よ。」

薦められた本の帯には

「あの巨大掲示板が本に！」。

掲示板とか思い当たらないよね。

僕はそっと帯を外した。

#twnovel

ながれぼし

ままがねおしえてくれたんだ。

ながれぼしにおねがいをするとねがいがかなうのよって。

そんなうらわざしらなかった。

だからねぼく、おねがいをしたよ。

ねえねえながれぼしさん、

うせろ、てめーのねがいはてめーでかなえんのがおとこってもんなんだ、じゃましねーでそこ
みてろよ。

#twnovel

月に帰ります。

そんなメールを最後に彼女は消えた。

何一つ説明しない美しいだけの別れの言葉は、

もう永遠に会えないのだという事だけを僕に印象付けた。

「ただいまー。」

彼女？

「ゴメン。急に出張入ったの。あー忙しかった。」

はい？

「メール、したよね？月曜日に帰りますって。」

#twnovel

適材適所

私こんなことしてていい存在じゃないわ。
美白美肌の私だから肌見せ温泉レポートも上手にこなせるわよ。
でもね、もっと知的でクリエイティブな仕事がしたいの。
私の中身を評価してくれる方と、一緒に何かを創りだしたいの。
「このおでん玉子、味染みてない。」
黒くなるなんてお断りよ！

#twnovel

女子会

Q

「あなたの特技は？」

A

「私は家事が得意かな。」とシンデレラ。

「私は誰とでも仲良くできるわ。」と白雪姫。

「私は眠るのが得意よ。」と眠り姫。

「貴方は何が得意なの？」

「そうね、釣り…かしら。」

「素敵だけれど、貴方が言うとなんだか生々しいわね、ラプンツェル。」

#twnovel

乙女の事情

失恋した。

こんな趣味の合う彼氏初めてだったのに。

一緒に始めたツイッターだけど、フォロー切った。

彼も切ったみたいだし、これでおしまい。

なのにどうしてかな。

おすすめユーザーに彼の名前。

まさかまだ好きなのがバレ、るわけないか。

やい機械、乙女には繊細な事情があるんだぞ。

#twnovel

レメディ

気持ちを砂糖玉にできる技術を開発した。

妻の気持ちをこっそり砂糖化し、珈琲に溶かす。

予想では苦い珈琲だが果たして。

「甘い。」予想外だ。なんて芳醇な甘さだ。

僕は誤解していたよ。こんなにも僕の事を。

あ、メール。

「今夜は帰りません。」

妻は、週末になると帰らない事が多い。

#twnovel

自由診療

理不尽な訴訟が増え、医師たちは疲弊していた。

「そこでこのロボット。検査、診察を全て行えます。」

「その後の診断が医者なら今までと変わらんよ。」

業者の男はにやっと笑った。

「診断するのは患者様です。お医者様方はただただ希望通りの治療を行うのみです。」

機械は意外に売れた。

#twnovel

バリア

子供と暮らすと、色んな物がバリアで覆われてる気がして、踏み入るのに中々勇気が必要なの。そう言うと、子供いないかも、って貴方は言った。

でもね続きがあるのよ。

そのバリアは綺麗な色で、可愛い絵で、素敵な言葉で飾られてるの。

いつか醒める優しい魔法がかかっているのよって。

#twnovel

お題『名刺』『男』『連絡』

臥せる私に男は言う。

再び死を思われましたらここに連絡下さい。悪いようには致しません。

渡された名刺には男の連絡先が記されていた。

変な人、まーでも執事系イケメンだし、ラッキー。

男は死神だった。最近は死神も競争が激しい。

生前からの営業は、成績に直結する大切な仕事なのだ。

#twnovel

原子力の日

僕もう疲れちゃった。
嫌われて憎まれて。
僕は人のお役に立ちただけなのに。
だからね僕、眠りたいんだ。
だって僕は病気だもの。
僕の傷口から溢れた病原菌は、人を殺してしまうもの。
だから眠りたい。深く深く。
早くそうさせて、くれないかな？

#twnovel 今日原子力の日

お題『耳』『意識』『濃厚』

意識がなくとも耳は聞こえるって本当なんだ、とか思ってる場合じゃない。

濃厚なラブシーンが僕のベット横で繰り広げられているみたい。

病院だぞってか妻！

「キスがいい。」相手は誰だ。

「ちょ待」「あ、貴方。」「キス！」「貴方もキス天がいいよね。」

妻、母親と夕飯打ち合わせなう。

#twnovel

ついのべ執事

このついのべで一万作目。

貴方様のその偉大なる業績を讃え、更なる能力をお約束致します。

話が次々湧いてくる湧き水型、話が頭に始めからいくつもプールされている溜め池型。

タイプはこの二つでございます。

どちらかをお選び下さい。

男は恭しく頭を垂れた。さあどうする。

#twnovel

僕は湧き水型を選んだ。

いつ才能が枯渇するか心配するなんてごめんだ。

#twnovel も2万作に届きそうなある日、出版社が来た。

「100頁程度の小説を書いてみませんか。」

いよいよデビューだ。構想を練る。しかし…

どうやら僕の湧き水は、1回に140字分までしかでてこないようだった。

僕は溜め池型を選んだ。湧き水型はどうも信用ならない。

溜め池の中から話を引っ張り出し、小説でいくつも賞をとった。

そしてとうとうデビュー。

さてさてどんな名作を選ぼうか。池の中を探る。

「まじで。」

まだまだ深いはずの池、ひとつ話を取り出すと上げ底が。

これって一発屋フラグ？

#twnovel

彼と彼女のソネット

浮気がバレた。

浮気相手と合わせろと聞かない彼女に僕はとうとう折れてしまった。

カフェで神妙に向かい合う3人。

「聞いていいですか？」

口を開いたのは彼女。

「あなた男、ですよ？」「そうです。」

「たまに今みたいに3人で会ってもらえればこのままでいいかなーって。」

はい？

#twnovel

アノコロノミライ

僕の仕事は、Twitterと呼ばれるデータの解析だ。

これが何なのかはよくわからないが、どうやら過去の文明の遺物らしい。

先の文明がなぜ滅びたのか、何か解ると嬉しいんだけど。

隕石衝突、マヤ文明、28日、17日、彗星、恥球？

どうなってんの過去。

余計に解らないんだけど。

#twnovel

噂話なう

世界が終わるって何度も噂を流してるのは実は私なのです。

人間にとって、一番の幸せって何だと思いますか？

それは、日常です。

私が何度も噂を流し、信じる人がどんどん減って、

誰一人世界の終わりを思わなくなった時に、

私は世界を滅ぼします。

神として、これが精一杯の親心ですから。

#twnovel

お題『かさぶた』『舞台』『黄』

君は僕の心のかさぶただった。

こんなに無残に剥がされた今、人生の舞台から降りたいと願う事になんの罪があるだろう。

だけどね、それはできないんだ。

君が守ってくれた傷も、壊す事になっちゃうから。

「義姉さん結婚オメデト。」

黄色の薔薇を贈ると彼女は、有難うと綺麗に笑った。

#tnovel

夢で逢いましょう

新開発の夢混合枕を貰った。妻と2人面白半分に眠ってみる。
今日はよく見るあの悪夢だ。
気味の悪い女が追いかけてくる。
僕は逃げる。妻が見えた。
妻は気味の悪い男に追われている。
似たもの夫婦だ、なんて思っていると、男と女は見詰め合った。
そして涙を流し抱き合った。
めぐり逢えた？

#twnovel

お題『紅葉』『リスク』『露天』

穴に落ちたようだ。

見上げれば青空、露天状態。

はらはら舞う紅葉が綺麗、お、彼女。

「助けてくれ。」

「最後のおしおき。リスクのある恋愛疲れたわ。ばいばい。」

そう言って消えた。

ちくしょう。手元の葉っぱを握り締める。

ん、紅葉に文字？

「変態 ドM でべそ」

苦情葉書ですか。

#twnovel

ワレワレハ

世界が滅んだって噂だけど僕のTLは平常運転だ。

お、あの子のツイート。

「滅ばなかったね。」

ちょっとからかおう。

「コノホシハタダ イ。オマヒトノキノリカ？」

宇宙人侵略設定だ。

「オマヒカマカ。ウタガ ッテハイムケテシマッタ」

と、ドアが蹴破られて僕は未知 n

#twnovel

お題『夏休み』『乳』『肉』

草食系女子が2人いる。

そのうち一人は癒し系愛でられお洒落女子(巨乳)。

もう一人は、活発な色黒グラマー自然派女子(美乳)。

そういう選択肢だがどうする？と教授は問うてきた。

直訳すると、乳牛と肉牛どっちの実習したい？って事らしい。

ああ夏休み課外実習、こんな教授と2週間。

#twnovel

私は名探偵

「犯人は貴方です。」

名探偵が宣言すると、

「証拠は？」

男が不敵に笑う。

「犯人は皆そう言います。貴方は絶対的アリバイがあり、私にやけに協力的、貴方を演じるのは犯人役で有名な俳優という状況証拠が揃ってます。何より。」

「何より？」

「ここが崖の上だから。さ、独白どうぞ。」

#twnovel

きらきらひかる

日差しを受け、きらきらひかる水溜り。
長靴の子供らが飛沫をあげて通り抜ける。
大人になると、できない事が増えるよね。
少し羨ましくて、揺れる世界を覗きこんだ。
いつもより、美しく輝く水面の世界。
はっきり見えない方がいい時だってある、いや。
そこには私が、映っていなかった。

#twnovel

お題『銃弾』『約束』『目玉焼き』

俺の弾丸は真ん中をぶち抜く。

秘密約束絶対厳守、デキる殺し屋の俺様にもできない事が1つある。

それは真ん中のないものをぶち抜く事。俺は考えた。完璧になる為に。

「ダーリン、目玉焼き作ってアゲル★」

目の前の男に美しい目玉焼きを振舞い、一口で平らげようとする男を、ズドン。

#twnovel

Trick or Treat

「Trick or Treat？」

「Trickに決まってるじゃない。」

「え？」

「で、凶器はその南瓜ランタンなのね？」

「あのちょっと。」

「貴方の #twnovel のミステリー大好き。まだかなっ、まだかな？」

携帯をいじって首を傾げる彼女が可愛かったので、きっとこれでいいんだと思う。

魔法を信じるかい

先輩が魔法について教えてくれた。

手段がわからない事が明らかに起こる事が魔法だって。

「僕も魔法を使える可能性を持ってるから協力して。ちょっと目閉じてよ。」

ん？これもしかしてキスする口実とかじゃない？先輩なら私OKで

「どうだ。」

目を開くと先輩の豊かな髪が消失していた。

#twnovel

梅の木の下で

庭の梅の木の下に、僕は大切な物を隠した。

何年か経って僕は料理好きの妻を迎える。

妻はその梅で梅干を作った。おにぎりにして頂く。

と、妻が吹き出した。

「何これ酸っぱ過ぎ。おかしいなあ。」

説明したくない僕は黙って、

あの日埋めた初恋の秘密入りの酸っぱ過ぎる梅干を飲み込んだ。

#twnovel

怪盗がやってきた！

「貴方の大切な物を頂きます。怪盗。」

予告状が来た。

僕は金に糸目をつけず、万全の警備を整える。

そして翌朝、盗まれた物は、無い。何も無い。

怪盗、僕の勝利だ。

と、頭上からカードが。

「大切な物何もないのね。可哀想。出来るといいね。」

ちょっと待て。何か盗ってけ、頼むから。

#tnovel

やさしさ

「こちらは半分が優しさのタイプですので、効果は半分です。一番効きますが。」
薬剤師が不思議な事を言うので試してみた。

「お仕事大変ですね。頑張って頭痛とりますからご主人様もふぁいとっ><」
喋った？もう一錠。

「痛い痛いのとんでけっ☆」
頭痛なにそれ。優しさに包まれたい。

#twnovel

おちる

生まれた時には使命は果たし終えてた。

目的のない残り滓のような一生。希望なく、おちてく。

そんな私を貴方は見つめて、綺麗って言うのね。綺麗なのは貴方の唇の動き。

私は彼に口づける。温かさに溶けた。

「雪って空が千切れて落ちるみたい。」

幸せな最期、有り難う。

#twnovel

座敷童

新居に女の子がいた。

「座敷童です」とか言うから追い出す事もできず、同居する事に。

ご飯風呂を要求、学校に通う。

改めて問うと、信じてとキスをくれた。

数年後、入籍。戸籍もある彼女が本当に座敷童なのか。

「幸せになれたのに疑うの？」と彼女。

答えなのでない幸せもある。

#twnovel

血液型

ゆるふわ森ガールも看護学校入学も全身整形も彼の為。

なのに「俺達相性悪いよな。」って悲しい。

そうよ、A型とB型、血液型が悪いのよ。

だったら私の血を入れ替えて、と思ったけれど自分に針刺すのって難しい。

だから貴方を変えましょう。大丈夫。大好きよ。

#twnovel #twnvday

大切なあなた

大切なものは目に見えない。

という事でイケメンの彼氏と別れた。だって、物凄くよく見えるんだもん。

今まで結婚出来なかったのって、大切な人と出会えてなかったからだと思うのよ。

さ、結婚できる彼氏ゲットよ。

そうそう、ところで、見えない彼氏ってどうやって見つけるのかしら？

#twnovel

自由診療

夫の検診結果を聞きに行った。

医師は浮かない顔だ。

「影がありますね。」レントゲンを見ながら言う。

ここですね、と指さした先には確かに。「女の影、ですね。」ボインバインな女の影だ。

「初期の癌である可能性が非常に高いです。」「すぐに切除して下さい。」

医療は進化している。

#twnovel

お星さまが見てる

「今見えてるのは3日前の私です。」妻がおかしな事を言い出した。
問えば星の原理で、ずっと遠くで輝いてるためそう見えるらしい。
「なので今日ご飯作れません。」「作りたくないのか。」「違う。不可能なの。」
「焼肉行かない?」「行く!」「遠いところにいるんじゃ。」「ワープ!」

#twnovel

遠距離恋愛は続く？

転勤で彼女と遠距離になった。

と共に心も離れるってのは世の常だ。

会えないのをいい事に、僕は自分のBOTを作って彼女に対応させている。

意外とバレずにはや数ヶ月。

ある日、久しぶりにやり取りを覗いた。

「好きだよ」「牛肉？」「きついね」「月が綺麗だから」

あれ？BOT同士？

#twnovel

僕の彼女

行かないで。

側にいてくれるなら私が温めてあげる。

寒いんでしょ？寂しいんでしょ？

嫌な事なんか全部忘れて、私に預けて。

私が貴方に素敵な夢をみせてあげる。

抱きしめてあげるから側にいて。

「って布団に言われた気がして遅刻しました。」

「疲れてるんだな。病院、紹介しようか？」

#twnovel

今日の日はさようなら

「私達終わりにしましょ。」と彼女は言った。

「関係を精算したいの。」と続ける。

「基本料金の他にオプション代（中略）以上です。」

支払いを済ませると、彼女は一礼して居なくなった。切ない。

臨場感タイプ彼女さんは僕向きじゃないな。

次に頼む時は、別れはソフトにタイプにしよう。

#twnovel

すきになーれすきになーれ

「好きをコントロールする装置、できちゃった。」

幼馴染みの彼女はそう言って、僕に装置を取り付けた。

「実験させてね。すいっちおんっ！」

装置が震える。心配そうに覗き込む彼女。

「私の事、好きかな？」「うん、好きだけど。」「成功よ！」

えーと、元々好きなんですけどね…

#twnovel

モニタージュ

君の好きな人当てさせて、と彼は言った。

私は彼にヒントを出す。背が高い、眼鏡、図書委員、寡黙、茶髪、ジャニーズ系。

すると彼は私を抱きしめた。

「もういいよ。正直に言うよ。僕も君が好きなんだ。」

え、僕も？ちょっと待って、今私、ジャニーズ系って言ったはずなのだけれど？

#twnovel

理想の結婚

あまりに結婚できないので、タイムマシンで未来を覗いた。
結婚してた。

だけど相手は嫌いなアイツ。そんなの嫌。

私はあらゆる手を使いアイツに彼女を作り、結婚させた。

これで私は高収入イケメンと結婚、ん？なんか胸が痛い。

私は今アイツと不倫してる。

未来はわかってるから大丈夫。

#twnovel

僕は勇者だ。リアリティー重視のRPGで悪と戦っている。
とうとう魔王を追いつめた僕は、憎き魔王に発砲。やった、のか？
「銃刀法違反及び殺人未遂で逮捕します。」
突如警察官に取り囲まれた。泣き真似すんな魔王。
僕は今刑務所にいる。罪に問われない倒し方、考えなくちゃ。

#twnovel

未来からの

「私は未来から来たの。」
そう言って彼に取り入れた。
信じさせてしまえば
後は簡単。その子は将来鬱になる、あの子は二股かける、
なんて彼が好きになる子との未来を全て不幸に脚色した。
後は、私が彼の最高の彼女になれるって言えばいい。
言えばいいだけののに。それだけが言えない。

#twnovel

鏡よ鏡

有名なあの鏡を手に入れた。

「世界で一番美しいのは誰？」「クロアチアの」知らない。

「日本だと？」「はい、秋田の」知らない。

「じゃ、町内。」「吉永梅子さんです。」知ってる。

だって昨日彼女の通夜に行ったもの。

鏡の後ろにいくつか端子を見つけた。そっか更新が必要なのね。

#twnovel

僕の彼女は

「オルゴールって可哀想。」彼女が言った。

「スイッチ一つで歌わされるのよ。嫌な時でも。悲しくならないのかな。」感傷的だ。

「自分の人生を悲しいと思ったりする？」彼女に聞くと、首を横に振った。

「ならきっとオルゴールも満足してるよ。」

「どうし t」僕は彼女の電源を切った。

#twnovel

到来

ちょっとこっちはないでよね！

あんたバカなの？こんなに冷たくしてるのにどうして近づくのよ。

あ、違うの。嫌いだからとかじゃ。

私がただ冷たいからってだけで。

貴方に嫌われたくないの><。

「って冬将軍が言うんで行けそうにないです。」

「あ、そうなんだ。こなくていいよ一生。」

#twnovel

馬鹿につける薬

馬鹿につける薬を作った。

ちょっとおバカ系の僕の彼女で試してみよう。

「これつけていい?」「いいよー。」「何の薬か聞かないの?」

「聞いても私にはわかんないし、つけたいんでしょ?だからいいよ。」

笑う。可愛い。

そうだ。僕が好きなのはこの彼女だ。

お薬はお蔵入り。永遠に。

#twnovel

きこえる

私は地獄耳。何でも聞こえる。

彼の気持ちも、彼女の気持ちも。

私は2人を呼び出した。「大事な話があります。」って2人共に手紙を書いて。

私はもう、2つの違う気持ちが何故か美しく絡まる現象に嫉妬しなくていいのね。

これからは、1つになった気持ちをただ悲しんで憂えばいい。

#twnovel

ぜつぼう行進曲

リアル連動型ゲームをしてる。
気の合う子を見つけたので結婚。リアル妻が家に来た。
子供もできた。家も買った。全てが連動している。
そんなある日、「このゲームは終了致します。」と、突然の知らせ。
と、共に妻も子も家も消えた。
ゲームがない今死ぬことすらできない、どうする俺。

#twnovel

スマホいいよねって言ったら、通行人達が立ち止まった。

「何言ってるの。貴方同化型じゃないの？」今は体に埋め込むのが主流らしい。いつの間に。

「それ人前で言わない方が、あ！」通行人が僕を取り囲んだ。

「スマホ狩り指令だわ。」ええっ。

「逃げて！携帯の体を貰いに行くのよー！」

#twnovel

イケメン戦国時代

心と体が分離出来るようになった。

僕は心をイケメンに搭載する。

これで安泰、と思ったらまわり中みんなイケメンになった。

イケメンだらけの戦国時代。勝てない僕。

そんなある日彼女に会う。

どうして僕を選んだの？と聞くと

「その顔、元々私なの。私は貴方だったのよ。」

と笑った。

#twnovel

彼女の事情

同棲中の彼女が可愛い。

とにかく惚げ。

事情があって外でデートとかは無理だし、

多少住む世界が違うから、

体温感じたりキスしたりも出来ないけど相思相愛なんだって言ったら

「2次元きもーい。」と言われた。

失礼な。

液晶なんかが敵の恋愛と一緒にするな。

僕の彼女は幽霊。敵はお経だ。

#twnovel

サンタクロース

イブの夜、息子の枕元に手紙が。

「サンタさん、ほんとにいるの？お父さんなの？友だちが言ってたよ。お父さんなら明日あやまってね。」

僕は手紙を二つに裂く。

息子よ、僕は謝らない。それどころか、サンタが怒って破ったんだねとか言ってやる。君が将来、いいサンタになれますように。

#twnovel

サスペンス劇場

「犯人はお前だ！」

え、俺？聞いてないよってまーそうか。

緊張感だすために台本なし、ぶっつけ生放送の2時間サスペンス。

で、俺なの犯人。独白しろ？カンペどうもです。

崖から飛び降りろ？そう言えばオーディションで運動神経いいか聞かれたっけ。

で、俺の命は保証されてるのかな？

#twnovel

怪盗 T

「貴方の宝物を頂きます。怪盗 T」

予告状がきた。

きっと家宝の宝石の事だ。

「怪盗の侵入を許すな！」

僕は警備を徹底した。

翌朝、家宝は残されたまま。僕は勝利を妻に知らせに行く。

ん、いない？

「貴方の宝物ってそれなのね。怪盗 T は私でした。」

添えられた離婚届。宝物は失われた。

#twnovel

レッテル

レッテルを貼られたらしい。

自分で見る事が出来ないからわからないけど、周りの人達が僕を見て笑っている。

笑われる理由なんてないのだからきっとレッテルの仕業だ。

「そこの君ちょっと。」

警官に声を掛けられた。

「私は痴漢です、って紙貼ってあるけどホント？」

あれ、レッテルじゃ？

#twnovel

惚れ薬

惚れ薬が手に入った。

ってことで片想いの彼に早速使ってみる。

「これ、今飲んでみてくれる？」「何これ怪しいんだけど。」

「大丈夫、ただの惚れ薬だよ。」「効いて欲しいの？」「うん。切実。」「そっか。」

彼は薬を飲み干した。

お陰で彼は今や私の彼氏になった。

惚れ薬ありがとう。

#twnovel

センチメンタルの生態

秋、北方より飛来したセンチメンタルは、広く人々の心に住みつく。

冬、年末に向け活性化する心から追い出され、活性の薄い心へと集団で転居する。

人々のイヴの過ごし方に違いがうまれるのは実はこの為であり、

リア充爆発しろ、は住処を追われたセンチメンタルの心の叫びなのである。

#twnovel

君のてのひら

「君の手は温かいね。手が温かい人は心が冷たいっていうじゃない。君は冷たい人なの？」

大好きな彼にそんな事言われて泣いてしまった。

情緒不安定ってこういうのかなのかしら。慌てる彼。

「ごめんね。」

どうして謝るの？私を人って言ってくれた。ロボットの私を。

私、嬉しかったのよ。

#twnovel

朝

僕は正午に起きる。

その日は珍しく8時に起きた。どういう事だ。暗い。

天気のせいとも思えないため、太陽光管理局へ問い合わせた。

「朝がストライキ起こしてますね。」

はい？

「お客さん、起きるの遅いんじゃない？朝が拗ねて旅にでちゃったよ。」

僕は今日も早起きで、朝を待ってる。

#twnovel

ご褒美

自分へのご褒美としてお高い美顔器を買った。

スイッチオン。

「お嬢様。」

何この美顔器喋り出したんだけど。

「お嬢様は私の価格に相当するほど貢献されたのですか？

あの程度の労働で…私、ちゃんちゃらおかしくて涙が。」

何これ。

裏返すと特殊業界用って書いてあった。

返品返品。

#twnovel

片思い

「好きです。」

「僕もずっと君が好きだよ。」

「つまり私達、両想って事？」

「そうだね。」

彼女は溜息をついた。

「許せない。私の純粋な片想いをよくも汚してくれたわね。」

そんな事言われても。

「罰を与えるわ。とりあえず明日迎えに来てよね。」

神様これはツンデレなの？成就なの？

#twnovel

下降する体温

俺、死ぬのか？

奪われていく体温の中、彼は泣いた。

どんな事にだって耐えてきた。傷つけられても、放置されても、頑張ってきたというのに。

こんなことに、俺は殺されてしまうのか。

彼女のすっぴんをみてしまったっただけで、お前は俺を殺してしまうんだな。

100年の恋は泣いた。

#twnovel

消失

朝、トレンドにあがった、おはよーございます、おっはよーをみて、彼女は泣いた。

どうして。私そんなに難しい子じゃないのに。

そして彼女は旅に出た。

日本語はしばらく、「あいーえお」で乗り切るしかない。

ーそぴょん。

#twnovel

ストレステスト

妻が冷たい。尋ねると、

「ストレステストです。」って。

「耐え切れません。」「余裕そうだよ。」

「辛いです。」「そういうテストだし。」

「目的は何か な？」「自分の胸に聞いて。」

「（聞いている）」「イライラする！」

「テスト受けてるの君じゃ、あ、誕生日忘れてゴメンナサイ。」

#twnovel

おさかなてんごく

魚は歯が痛かった。

共生中の小魚に問う。何も答えない。

魚は小魚を疑って、ある日ごとりと飲み込んだ。痛みも消えた。

新しい小魚を迎える。

「歯に毒針が刺さってる。

引っ張ってとるのは痛そうだけど、とらないと君は死ぬ。とると僕が毒で死ぬ。さよなら。」

魚は小魚を思って泣いた。

#twnovel

12人いる！

皆、いなくなった。

意気込んでたアイツ、短い寿命で臨んだアイツ、暑いけど空回りなアイツ、諦めてたアイツ。
とうとう俺だけが残った。11人の屍をこえ俺は行く。皆の無念を晴らす為に。

「という気持ちで師走さんは頑張ってます。新年に立てた目標は達成させましょう。」「はい。」

#twnovel

神様への手紙

神様にお手紙書いた。

パパがお休みもらえるように。そしたらパパはずっとお休みになったんだ。

「俺の退職届、勝手に出したの誰だよ。リストラ勧告受け流して頑張ってたのに。」

神様ってえらいんだよね。失礼しちゃわないように、本みてちゃんと書いたんだ。

パパ、神様にかんしゃだね。

#twnovel

はなこ

根回しは済んだ。

「はなこ元気？」 「はなこに伝えて。」

きっと皆がそう言うの。

はなこ、それは私の名前。

貴方に関わる人達が、私達を恋人として扱うの。

きっと貴方は困るはず。

私達、まだ出会ってないんだもん。

私はやがて恋人として貴方に出会う。

素直にこの罍を受け入れてね。

#twnovel

羊の数え方

羊が1匹羊が2匹。

眠れない。諦めて目を開けると、羊がいた。

めえ、とかないてる。

30匹40匹。どんどん増える。

50匹60匹。ひしめきあう羊。

なんだかふわふわ暖かいなあ。ウトウトしていると、大きな音がした。

リーン。夢だった。

目を覚ますと目の前に羊が。数える。増える。

#twnovel

眠れない僕は羊を数える。

1匹、2匹。目の前には羊。3匹4匹。どんどん増える。

増えた羊の毛を刈り取って、毛糸にし、僕はそれでセーターを作った。

暖かい。気持ちがいい。あ、眠気。とうとう眠れそうだ。くしゅん。

自分の咳で目が覚めた。

裸の僕。もう一度羊、数えてみようかな。

#twnovel

未来予想図

「元気ですか。年収1000万円以上のイケメンと結婚してますか。幸せだといいな。」
手紙が来た。残念ね。正答率低すぎよ、30年前の私。その予測能力の なさが今の敗因だと思うの
。

そんな返事を書いて紙飛行機にして飛ばした。

過去に届け、なんて思わない。今からだって頑張れるわ。

#twnovel

愛のことば

「好きだ。」

「だめ。」

「目を閉じて。」

「手が早いよね。誰にでもそうなんでしょう？」

「うるさい口は塞いでしまうよ。」

「よく考えさせて。軽い女じゃないの。」

「ノリじゃないんだ。愛してる。」

「る。るーるる。あーっ！る、難しすぎるよ。」

「愛のお芝居しりとり、俺の勝ち。」

#twnovel

イケメンワクチン

女難回避ワクチンを受けた。

迎える12月24日。本命彼女と自宅イブ。

ピンポン。「きちやった☆」2号到着。

ピンポン。「サプライズサンタです。」3号到着。

何このワクチン効かないじゃん。

と思ったら、俺放り出されて3人仲良くイブしてる模様。

もしやこれが、ワクチンの力？

#twnovel

光る星

「あれは地球か？」

「太陽が増えて滅びた星だな。」

「何か点滅してるよな。」

「生き残りか？」

「行こう。」

宇宙人達は目を見張る。美しいクリスマスイルミネーション。

「末期の地球は太陽光発電オール電化だったよな。」

時を刻む時計、流れる音楽。

生命だけが消えた街に黙祷した。

#twnovel

雪女

「吹雪の夜、お前に似た女に殺されそうになってさ。雪女だったのかも。」
と男①が言うと、腕の中の男②は泣いた。

「内緒だって言ったのに。」

男②の身体が女体化する。

「私はあの時の雪女。」

男①は驚愕した。

「騙したのか。男じゃないなんて。」

「そこ なの」

女は溶けて消えた。

#twnovel

幻の娘

「貴方の娘を誘拐しました。」
って手紙が来たけれど、僕は独身。
気味の悪い悪戯だ。

「本当です。誘拐しました。」
また手紙。

「娘は風邪をひきました。」
手紙が娘の近況を報せる。段々娘がいるって気に。

「誕生日です。何か贈りませんか？」
僕は何の疑問もなく10万円振り込んだ。

#twnovel

限定魔力

限定商品が好きだ。

女子限定、というチョコを買おうとしたら、レジで止められた。悔しい。

女装した。バレた。悔しい。身分証を偽造した。逮捕された。悔しい。

さあどうする。怖いけれど同級生の女の子に頼むか、製造元に入社するのか、性転換でもしちゃうのか。

限定の魔力恐るべし。

#twnovel

誕生日

好きな子にプレゼントを貰った。

喜び勇んで包みを開けると、箱。箱を開けると、箱。箱、箱、箱！

くれた彼女はにやにや見守る。

んーと、あれ箱に文字。

「か、れ、て、し、に、なっ？」

ガーン。なんて誕生日だ。って思ってたら頬にキスをくれた。

「ばーか。かれしになって。よ。」

#twnovel

醜いアヒルの子

「綺麗じゃなくたっていいじゃない。」

そう言って、異質な私に優しくしてくれた仲間達は、適齢期を迎えると次々に結婚していった。そんなある日。

「君可愛いね。結婚してよ。」

白鳥だ。私と似てる。

「何言ってるの？自分の顔みてからいいなさいよね。」

彼女の美意識は破壊されていた。

#twnovel

図書館の君

憧れの彼女は毎週同じ時間、一冊本を返して一冊借りる。

僕は彼女が返した本を一週遅れで借りていく。

この頃、彼女が借りる本の種類が変わってきた。

と思ったら、

「11、12月分縦読み。」って紙が本に挟まってる。

彼女、だよな？

借りた本の題名を並べた。

「君、と、話、し、た、い」

#twnovel

小説家の運命

「彼女は倒れた。完」

小説を書き終え伸びをすると、背中に固い感触。

振り向くと少女が一人、包丁を突きつける。

「どちら様で？」「自分が今殺した人間もわかんない？」「はい？」

「あんた書いたんだから私の性格知ってるよね。私、復讐系よ。」

まずい。小説の結末を書き換えなくては。

#twnovel

サバイバルゲーム

強い風に仲間達が落とされる度、奴等の歓声が聞こえる。

俺はただ見てるしかできないのか。

何も知らずに、ただ働いて働いて。

気がついたら干からびたように 痩せて死に脅えている。

畜生。次は俺か。

奴等、巻き込んでやる。

「葉っぱ頭にくっついたよ。綺麗ね。紅葉ももうおしまいなあ。」

#twnovel

仕事と恋愛

僕の好きなあの子は、しっとりとした美人だ。

あの子に会うには、僕は仕事で失敗をしなければならない。

僕の失敗があの子と呼ぶんだ。

仕事をとるか、恋愛をとるか。

なーんて、恋人でもないのにおかしいよね。

あの子に会いたい。ふれふれあいたい。

悩めるてるてる坊主は、天を睨んだ。

#twnovel

夢の中へ

現実が辛いので夢に引っ越した。オムニバス形式のドラマのような夢の日々。

こっちが本拠地だと思えば、多少慎重に行動するようになったけれど、いつも違う相手とのドラマなので気が楽だ。

そして現実はというと、本拠地が別にあると思うと結構気楽で不思議に充実している。

#twnovel

女子力

「ジジジ。」

妻が奇妙な音を発した。

「何してんの？」「女子力上げてます。」

見た目の変化はない。

「上げるとなんかあるの？」

「食事に誘われたりします。」

「作りたくないのね。」

「違うよ。」

「ラーメン行こ？」「ジジ。」

「定食屋。」「ジ。」

「海辺のカフェ」 「仕方ないなー。」

#twnovel

迷子のおしらせ

彼氏とはぐれた。

ぴんぽんぱんぽん。

「赤いスカートに白のコートをお召しの美貴様。」

私と同じ格好に名前？

「東京からおこしの35才位の美貴様、お連れ様からの伝言です。」

まさかの私。

「好きだ！結婚してくれ！」

ざわめく店内。

ひどい。私まだ34才！

もう一生迷子でいいかな。

#twnovel

恋する病

恋の病です、と診断された。

片想いが過ぎてこんな風になっちゃったのね。

治癒の為に必要なのは、恋の根絶。

私は彼に告白した。

「僕もずっと……」

この恋は実ったのだ。

「ありがとう。別れましょ。」「うん、ありがとう。」

そうか、彼も。私達は、同病相哀れんでいたのかもしれない。

#twnovel

「この雨は、夜には雪や女の子になるでしょう。」
天気予報が言った。
空から降る女の子は、世界を滅ぼす呪文を持っている。
ねえ、僕と一緒に世界を終わらせよう。
雪の中僕は、見知らぬ少女を待ち続ける。
あの子が、落ちてくる。
僕の、上？
世界は終わった。滅びの呪文など必要なかった。

#twnovel

白い息

息が白い。

隣をみると、彼女の息は桃色だった。

「恋してるから。」

そういう仕様の息らしい。

ある日、彼女の息は黒かった。

「体調悪いからかな。あはは。」

僕は知ってる。君が昨日、男と歩いていたのを。

でもね、黒で良かったよ。桃色だったらやりきれない。

僕はそっと彼女の手を握った

#twnovel

つまのあい

妻が冷たい。

食事も作って貰えないので、冷凍食品を漁った。

あれ、何このハート型。

「つまのあい」と書いてある。

カチカチに冷え切った愛にお湯をかけたら溶けて最後に「寿司」と書いた紙が残った。

思い当たらないのだけれど、僕何らかの地雷踏んだんだろうな。

今夜妻を食事に誘おう。

#twnovel

月蝕

「この月のように君への気持ちは満ちてる。結婚しよう。」

満月の夜の求婚。何も言わずに彼女は笑う。

2人で月を眺めることしばし。

「欠けてる。」月は欠け、やがて赤く染まった。

「これが私への気持ち。」「いや。」

「見た目が変わってもずっと側にいるって事よね？」

月が綺麗ですね。

#twnovel

旅立ち

僕一人で旅にでることになった。

いつも一緒だった君は、今回ばかりはお留守番。

身支度整えて、君にキスを貰って、いざ出発。

大丈夫だよ泣かないでよ。いずれ君を迎えに来るよ。

私的天国るるぶなんか作ってさ、君に見て貰えるようにしておくよ。

だから君は、君の旅を楽しんでいてね。

#twnovel

盲目

今日、君の目の包帯がとれる。

視力は戻るのか。僕がわかるのか。

期待と不安の中、君に会いに行く。

声を掛けた。泣き出す君。

「見えないの。」

視線が合わない。

良かった、僕のいないその世界こそが、君のいるべき見える世界。

僕はね、君が見れなくなった、見えない世界にいるんだよ。

#twnovel

イブの奇跡

アドベントカレンダーを買った。

1日目、中に何かいる。小人だ。

2日目、また小人。

3日目4日目、小人小人。

一体これは。

「僕達、サンタの玩具を作る小人です。少子化で競争激しくてリストラされました。」

「歌とか歌います！」

大合唱。イヴなのに寂しくない。

奇跡ってこういうの？

#twnovel

ことしのかんじ

良い事よりも悪い事の方がインパクトがある。

1年を振り返って決定する今年の漢字には辛い出来事が織り込まれがちだ。

明るい未来が欲しい。そこで協会は考えた。

「年の始めに今年の漢字ならぬ、今年の感じ、という一文字を制定します。目標にして頑張りましょう。」

言葉には力がある。

#twonovel

月曜の朝

我々月曜の朝改善委員会は立ち上がった。

月曜の朝の温度設定に留意、雨が降らないよう努力、

時には可愛い声で「今日はお仕事ですか？頑張ってください。」なんて間違い電話で励ましたりしてみた。

結果、こんないい日に仕事とか絶望、的な感想が相次いだ。

この国の月曜の朝問題は根深い。

#twnovel

ストーカー

僕は君のストーカー。いつだって君を見ているよ。

有能過ぎて、君は僕が存在に気づかないよね。

だけど痴漢を撃退したり、忘れ物を防いだり、彼氏の浮気現場に出くわさないようにしてるのは僕なんだ。

今日は友達とランチだね。

「私、最近ついてるんだー。」

「いや、あんた憑いてるよ？」

#twnovel

怪盗がやって来た！再

「お宝頂戴致します♥」怪盗だ。
情報の少ない予告状にあれこれ想像する。
鍵を隠して、ダミーも必要か。警備員、何人必要だろう。
完璧に向かって試行錯誤していると、瞬く間に朝になった。
勝利に酔いしれる、と、頭上からカードが。
「楽しかった？時は金なりよね。」
時間泥棒って事？

#twnovel

ロボット

私はロボット。博士に作られた。

今日のテストは10人の言った注文を全て聞き分けること。

こんな簡単なテスト、クリア出来ないはずなのに。

「さ、答えて。」

「山田さんがカツ丼で一、うーん。10人一緒とか無理ですよー。」

完璧。

博士はね、人間みたいなロボットを作りたいのよ。

#twnovel

強くてニューゲーム

失恋した。結婚できると思ったのに。
でもね、振り出しに戻ったわけじゃないと思うのよ。
これはチャンスなの。
経験値いかして、あんなオタク男よりイイ男ゲットよ。
強くてニューゲームってわけ。
ああっ彼由来のゲーム用語を。
このBADEND、速く終わらせよう。

#twnovel #twnvday

お題「一巡」「ふりだしに戻る」

まわるよまわるよ

もうすぐ一巡り。

次はとうとう彼女とだ。

ああフォークダンス、お前はなんて素敵な競技なんだ。

彼女と手を繋ぐどころか密着する事ができるなんて。

よし、もうすぐでチェンジ。

ん、曲が変わった、だと？

これはまさかのマイムマイム。

二重円で踊る僕ら。カムバック。

#twnovel #twnvday

お題「一巡」「ふりだしに戻る」

恋心

好き。眺める背中。振り向いて。くれない。アプローチ。優しい素振り。期待。
届かない気持ち。孤独。こんなのって。辛い。苦しい。嫌いかも。
嘘。嫌いじゃない。もうやめよう。やめよう。やめよう。やめよう。やめよう。さよなら恋心。
彼の笑顔。ふりだしに戻る。

#twnovel #twnvday

お題「一巡」「ふりだしに戻る」

花に嵐

君の望みを知ってる。

この部屋の扉を僕が内側から開けること。

僕を守る皮膚のようなこの部屋、それを捨てろと君は望む。

待ち受ける嵐を、嵐に負けて散りゆく未来を知っているのに。

君が望むのは僕の死。

笑いながら君は、その時を待ってる。

「もうすぐ桜咲きそうだね。お花見楽しみ。」

#twnovel

偽薬

「惚れ薬よ。飲んで。」

渡された飴玉は苦かった。

「私が好き？」「好きだよ。」「実はそれ、惚れ薬なんかじゃないの。ただの飴玉なんだ。」
ニヤニヤ嬉しそうだ。

「僕前から君が好きなんだけど。」「あーあ、騙されちゃって。」
神様、彼女はいつ僕の告白に気づいてくれるのでしょうか。

#twnovel

初恋の味

誕生日何欲しい？って妻に聞いたら「初恋の味」なんて珍回答。
妻の初めての彼氏っていうとあいつだよな。忘れられないのかな。
当日僕は何も思いつかず、ベタにラムネなんか贈ってみた。
飲み干した妻は、
「私の初恋はあなたよ。」
とラムネ味のキスをくれた。
おお、これが初恋の味か。

#twnovel

予防接種

今年のはタチが悪いみたいだから流行る前に打ってきてね。

妻に促され病院に向かう。

寒さ深まるクリスマス前には打ってしまい穏やかな正月を過ごそう。

そう考える人は多いようで、病院は大盛況だ。

名前が呼ばれた。診察室に入る。

「じゃ、浮気予防ワクチン打ちますね。」

イタタタタ。

#twnovel

世界

世界はシェルターで覆われた。

シェルターの向こう側は絶望か希望か。

問うても天は冷たく沈黙するばかり。

この暗く静謐なシェルターの中、僕らは神の掌を泳ぐばかりだ。

#twnovel

彼がそんな事を思っている頃、外の世界は雪で覆われていた。

川が凍り、積もる雪の美しさを彼ら、魚達は知らない。

ネトゲ廃人

ネトゲを始めた。

料金無料でアイテム課金もなし。その割にリアリティーあって骨太。

そりゃのめるよ。のめり込んで、気がついたら何ここ。ゲームの中、なの？

「ゲームの対価としてゲーム内で働いて貰います。」

NPCに気分屋が多かったり、結婚システムが必要な理由がやっとわかった。

#twnovel

嘘つきの彼女

僕の事好きだなんて、やっぱり君は嘘つきだね。
知ってるよ。君の病気。
嘘を言わなきゃ死んでしまうって。
君は僕が嫌いだから、安心して嘘をつけるんだね。
君の側にいてあげる。君の嘘を信じてあげる。
だって君が好きだから。
だから僕を愛さないで。
ずっと好きだって言い続けて。

#twnovel

タッチ

「ファンタジーなんですけど題名わかんなくて。」

「どういう内容ですか？」

「双子が幼馴染みの美少女と三角関係なんですけど、双子の片方が死んで解決の超展開なんです。野球要素もあったかな。」

「それ有名な漫画だけどファンタジーじゃ。」

「現実にはあり得ない魔法的要素満載なのに！？」

#twnovel

「名前の印象が悪すぎる。」

「どう改善してもこの名前が邪魔しますね。」

「名前を変えよう。」

「何かいい案は。」

「月の為の曜日ってのはどうだ。」

「確かに月は印象いいですが、それどっかで聞いたような。」

「とりあえずこれで時間稼ぎだ。」

月曜の朝改善委員会は煮詰まっていた。

#twnovel

追われる

僕が目を閉じた瞬間、物凄い早さで追いかけてくる。

隙をみせたらあっという間に追いついて、そして追い抜いて行く。

僕はゆっくりここにいたいだけなのに、強引に自分をねじ込み、追いかけることを強いてくる。

彼の名は朝。

「なので逮捕して下さい。」「然るべき場所、紹介しますね。」

#twnovel

リスト

リスト数増えてる。

あなたが追加されているリストっと。

作成者は彼女。

こんなの作るなんて案外マメだね。

男の名前がずらっと並んでる。

知らない人ばっかだけど、みんな県内だ。地域で分けてるとか？

「ひとり追加★付き合ったことある人リスト8人目！」

「残念一人負けたー。」

#twnovel

恋人はサンタクロース

久々に彼氏がいるクリスマス。

予定を尋ねると、「俺仕事。」なんて答えた。

「会社その日改装で全面休業って田中さん言ってたよ？」

「田中余計な、えと別の仕事。」

「何よ。」

「驚くな。実は俺サンタクロースなんだ。だから24、25日は毎年無理。」

どこのご家庭のサンタさんよ。

#twnovel

年末お悩み相談

私から笑顔を奪う運動が今年も始まったようです。
もういじめだと思えます。
世間からも抹殺されがちなので気にしないようにしていますが、
たまに涙ぐめばそれはそれで珍しがられ辛いです。
一番酷いのは100年パンツはいてるって思われてる事でしょうか。
我慢できません。
(岡山県 鬼)

#twnovel

コンピューターおじいちゃん

おじいちゃんはロボだと思う。
毎日同じ時間に起きて寝てご飯。
耳には受信機ついてるしね。
今日も尾行して、コナンみたいに証拠を探す。
そしてとうとう、決定的な証拠を掴んじゃった。
「ぼりでんとぼりでんと」
不思議な呪文の後、おじいちゃんの歯がとれた！
もうこれはロボ決定だね。

#twnovel

冬至

「今日、南瓜？」

「冬至だからね。」

俺は南瓜が嫌いだ。しかし、弱みをみせるのはもっと嫌いだ。

「南瓜ってさ、唐茄子っていうのは知ってる？つまり、中国を經由して来たんだね。俺最近の中国には」

「大丈夫、これ西洋カボチャ。あなた南瓜嫌いなのね。嫌いな男の人多いよねえ。」

#twnovel

クリスマスイブ

空き巣に入った、と思ったら暗闇に子供が一人。

「サンタさん？」間違えられた。

そうか今日はイブか。

「あの、僕寝たふりするからお仕事どうぞ。」

へえ、じゃ何を頂いて。

ん手紙？サンタさんへ？

「みんなが幸せになれるように。」

俺はその手紙で鶴を折った。

君が幸せであるように。

#twnovel

完全密室

完全密室お披露目のために殺人を犯した。

犯人は僕。その僕は第一発見者として事情聴取を受けてる。

「遺体はどこから見えたんですか？」「外ですが。」

「遺体の状況は細部に渡り仰る通りなんですけど、窓ないんでどこから覗いたのかなと。」
絶句。密室作りに夢中すぎて考えてなかった。

#twnovel

女子会

本日の女子会メニューは寄せ鍋。

材料として新鮮な心をご持参下さい。

女5人、色とりどりの心を寄せて、鍋の中身は今や黒。

味の方はさぞかし苦…あれ甘い。凄く甘い。微かな苦みが隠し味になってとても美味しい。

って事は

「彼氏出来た人。」 「はい×4。」

これが裏切りの味か。

#twnovel

サンタを信じるかい

いつも一緒に遊ぶあの子はサンタを疑ってるみたい。

「いるはずないよね。」

そう言うあの子はなんだかとても寂しそう。

ホントは信じたいんだよね。

そうだ、僕が信じさせてあげる。

あの子が眠りにつく聖夜、僕はあの子の窓辺を歩く。

僕の鈴が、トナカイの鈴に聞こえますようにやあ。

#twnovel

サンタはいる

サンタはいる。

騙されてるのは大人の方だ。

子供に玩具、大人に嘘の記憶を持ってサンタはイブにやってくる。

大人はね、枕元に玩具を置いたと思いこんでるだけなんだ。

僕もサンタは見たことないよ。

でもね、大人が玩具を置いてるところだって見たことないよ。

だからいる。サンタはいる。

#twnovel

サンタの挑戦状

挑戦は受けてやる。

窓と扉の施錠確認。

扉は外からも解錠可能なので、内側にバリケードを作成。

侵入をすると音が鳴る仕組み。

煙突なんてもんはない。

さあ来いサンタ。暴いてやる。

「あの子サンタを勘違いしてない？」

「甘いな、屋根裏つたう経路を忘れている。」

「似たもの親子ね。」

#twnove

いつかのメリークリスマス

贈り物を差し出すと妻は予想外の表情。

「私の誕生日は忘れるのにキリストのは覚えてるのね。もう結婚しちゃえば？」

誕生日を忘れた事を根に持ってるらしい。

「じゃこれはキリストに。」

「ちょキリストこのセクシー下着着るの？で、攻めどっち？」

君はどこの異次元に住んでいるんだい。

#twnovel

シンデレラ

本に入り込める装置を作った。

お試しで短めの絵本にでも入ってみよう。

シンデレラ。

セオリー通りいじめられる。

が、魔法使いがなかなかこない。

意地悪なはずの姉が言う。

「あんた袖の下ちゃんと渡した？あいつ、タダでなんか来てくれないよ。」

え、まじで。

行間超解釈すぎない？

#twnovel

天使は目を閉じて

目力を育てすぎて、眼力で全てのものを破壊できるようになってしまった。

目を閉じて過ごす日々。

この前婚活中に会った彼、いい人だったな。

台詞まわしもイケメンぽかった。

結婚とか考えるならさすがに顔はみないとね。

覚悟して目を開ける。

え、これが？

色々なものが崩壊した。

#twnovel

天使と悪魔

僕は天使。喜びも悲しみも全て分かちあえる。

僕は悪魔。優しくダメにして虜にしてあげる。

君が望むものに僕はなる。

「失恋しちゃった。」

どうやら君は、悪魔の僕がご所望みたいだ。

サディスティックに誘惑して気持ち良くベットに連れてってあげる。

「日本酒スキ。」

僕に酔ってよ。

#twnovel

家電

あまり知られてはいないが、電化製品を動かすのは小人である。
仕組みは、電気という給料→小人という労力、なのである。
今流行の省エネ家電は小人さん達の給料削減もしくは過労の結果であり、
小人界では労働環境の改善について抗議が行われているが、
小人ゆえ気づかれることはない。

#twnovel

時間経過

最近時間が経つのが速いって話をしたら、

「俺なんかもっとだ。いつの間にかぽっくり逝きそうだ。」

と80になる爺ちゃんが言った。

何をするにも時間がかかるみたいだし、時間が経つのも速いかも。

「今年経過。また1年。誕生日2回分よろしく。」

何それ。大丈夫、あんた長生きするよ。

#twnovel

年の瀬

大掃除や正月準備をしない人が増えている。

それが人を迎える態度？失礼よね。

ということで、そういう人の家には行かないことにした。

「2011年続行のお知らせ？つまり、今度から何月かだけ覚えればいいってこと？楽でいいじゃん。」

窓の外では2012年がしくしく泣いていた。

#twnovel

生け贄

仲間を見送る日々だった。

1日1人の生け贄、それが私達。

連れ去られた仲間がどうなったのか知らないけれど、帰ってきた子は1人もいない。

今日の生け贄はとうとう私。

連れ去る手が見える。

364人の仲間達、私を守って。

身体が浮く。落ちる。暗闇。

「日めくり新しいのに変えるね。」

#twnovel

覇権争い

美しき異国の黄金の君、秘めた情熱の墨染めの方、飾り立てた紅白の御姉妹、
臆たけた美の漆黒の方、幼いたまご色のちい姫、味わい深い取締役。
蓋を開けると繰り広げられるであろう覇権争いに目が離せない、お節料理2012。

#twnovel

解答→数の子、昆布巻き、紅白蒲鉾、黒豆、伊達巻、煮染め

もういくつねると

誰かがくるみたいなんだよね。

だからママは僕に言う。

宿題しときなさいとか、お部屋片づけなさいとか。

うるさいよね。

だから僕は思ったんだ。

そんなやつ、ぼっこぼこにしてやる。

そしてヤツが来た。

そしたら意外といいやつで、お年玉とかいうのをくれた。

来年もきていいぞ、正月。

#twnovel

師走

来年なんかきたところで仕事なんかない。

それならいっそこなくていい。

俺は寺へ行った。

忙しそうに走り回る坊さんを苦々しく睨み付け、足をひっかけて次々と転ばせた。

坊さんは俺の首根っこを掴む。

「暇なら手伝え。」

あれから5年。俺は今や、走り回る方だ。

#twnovel

家に帰ると妻が

朝起きると右に妻がいた。

左にも妻がいた。

まるで同じ2人の妻だが、彼女ら同士には区別があり、序列を守って仲良くしている。

食事は豪華、家も綺麗。何より妻が楽しそう。

良かったなとも思うけど、どっちの妻か間違えた時、2人揃って責めるので、2倍以上うるさいのが困り所。

#twnovel

極道の俺

極めればどんなことでも何かになる。本当か？

僕は唯一得意な悪口に磨きをかけた。

僕の悪口はどんな鋼の心をも切り裂けるまで成長。

だからってどうだ。失ったものばかりだ。

飲んだくれる日々、黒いスーツの男がやってきた。

「当社で働きませんか？機械じゃ切れない鋼鉄があるんです。」

#twnovel

この当番、回ってきすぎ。

何回目かなあ。一生のうちに一体何回すればいいの。

やっぱさ、寿命とか考慮してくんないかな。

他の奴等の知らないけど、

子子子子子・丑丑丑・寅寅寅・卯卯卯卯・辰・巳巳巳・午午・未未未・申申・酉酉酉・戌戌戌・

亥亥亥でいいと思う。

竜は干支に飽きていた。

#twnovel

年賀状屋

僕は年賀状屋。

よくある印刷屋とは違い、依頼された内容で依頼主宛の年賀状を送るのが仕事だ。

年賀状は枚数勝負のリア充がお客。けれど最近様子が違う。

「この名前からで。」

「承りました。1枚で宜しいですか？」

「1枚がいいんです。」

またこの名前。

「次元をこえてだしちゃった。」

#twnovel

手紙

今日でさよならする君へ。

僕と過ごした日々は幸せでしたか。

出会った頃したあの約束は果たせましたか。

僕との日々が少しでも、君の糧になりますように。

要らないもの、あったら僕が貰っていくから、

君は何も心配しないで、2012年に進んで下さい。

元気で。

2011年より

#twnovel

除夜の鐘

除夜の鐘が終わったら君にキスをする。

心に決めて最後の鐘を待つ。

可愛い君は何も気付かない。

108回。

僕は君に口付ける。

口付け、る？できない。

「きき、消えた！？」驚く彼女。消えたって僕？

涙ぐむ彼女に坊さんが言った。

「除夜の鐘は煩惱を消すのです。」

僕の成分煩惱100%。

#twnovel

煩悩

大晦日ボクと一緒に過ごしてくれたキミ。

期待していいのかな。

鐘の音が聞こえる。

本当に煩悩を消すものなら消されるのはキミだね。

キミはボクの煩悩だ。

最後の鐘。

「キス、したい？」

突然の誘惑に驚く。

「したい。」

「あれー、煩悩消えてないぞー。」

ねえ、キミの誘い、有効だよな？

#twnovel

ドラゴンクエスト

ウサギは困っていた。実はまだ干支の引き継ぎが済んでない。

「辰って何。どこにいんの。」

魔王の城にいるドラゴンの事なんだろうか。

とりあえず、ウサギは旅に出ることにした。

辛い旅路になりそう。まずは酒場で仲間を探そう。

スライムでも倒してG貯めて、旅人の服も着替えたい。

#twnovel

年賀状

「あなたの幸せ祈ってる。」

差出人名のない年賀状がきた。

「これ、誰から？」

妻に聞かれて焦る俺。

2, 3年前位は浮気なんかもしてたけど、バレてからはご無沙汰だった。

「へえ、思い当たらない？てことは、浮気してないのね。」

犯人はそう言ってにやっと笑った。

#twnovel

お節泥棒

「お節頂きます。怪盗」予告状だ。
うちのは有名料亭の一流品。
警備を強化し、迎える正月、おいしいお節はお客様にも大好評。
怪盗の気配のないまま最後の客は娘の友達。
「いただきます。」きれいに食べ終えた。
帰り際、その子は一枚紙をくれた。
「頂きました♥怪盗」
え、怪盗？ 幼女？

#twnovel

おとしご

行方不明のあいつの変わりに俺を権力の座に据える。

そんな企みが水面下で進行中なのは知っていた。

お父様の変わりに？笑わせる。

あいつを父親と思ったことは一度もない。

会ったこともないのに、親だなんて思えるか。

タツノオトシゴは兎を睨み付けた。

干支交代への道は遠い。

#twnovel

都合のいい女

こんな夜中にやってきて、激しいノック。
目を覚ましたかも確かめず、一方的に欲望をぶちまけるの。
まるで私なんか見てない素振り。ひどい男。
だからね、これは取引でいいわ。
端金、置いて行ってね。
慈善事業なんかしたくないの。
初詣シーズン到来。お社の中、神様は今日も独り酒。

#twnovel

アバズレちゃん

今までいろんな男と付き合ってきた。

ドイツ、ベルギー、日本、アメリカ、中国。

大抵、長続きはしないけどね。

独り寂しくなっちゃって、気が抜けちゃうこともあるけれど、はじける魅力で潤してあげる。

話は後よ。クールな私を召し上がれ。

「とりあえずビール。」

ご指名ありがと。

#twnovel

おみくじ

おみくじを引いた。大吉だ。

妻をみると、神妙な顔。

覗くとそこには、「鯛吉」。

「たいきち？」まわりを見ると、「代吉」「醜吉」「内吉」なんかもがでてるらしい。

皆困惑している。

神主に聞くと、

「だいきちがでないというクレームが多いので、だいきちを細分化しました。」

企業努力？

#twnovel

初詣

彼女を誘って初詣。隣で祈る横顔を伺う。何を願ってるんだらう。

彼女の声が小さく聞こえた。

「結婚できますように。」

可愛いな。一生懸命祈らなくてもそんな願い、叶うのに。

っていうか俺に言えばすぐにでも。

「あ、でも彼氏！その前に彼氏！恋愛結婚したいです。」

ねえ、俺って、何？

#twnovel

福袋

気持ち福袋を買った。

僕が手に入れた気持ちは三つ。

喜び、悲しみを堪能した後、希望の使い所に迷う。

絶望時ご使用下さい、だって。

よし、彼女に罵って貰おう。

「キモイしお金ないし。結婚？身の程わきまえて。」

何これ。気持ちいい？

僕は希望を使わずして、新しい扉を開けてしまった。

#twnovel

コールドスリープ

コールドスリープで、未来に逃れる。
僕を助かる術はこの時代にはないから。
だから眠る。

200年後。

「200年前の人間が眠ってるらしいよ。」

「200年前って戦争とかあった頃だよね。」

「そそ。野蛮な頃。」

「起こすわけ無いじゃん。怖い怖い。」

僕は神として奉られてる。

#twnovel

おとしだま

お年玉貰った！

「これ下さい。」

「一円で買えるもんは置いてないよ。」

何それ。何も買えない額渡すとか自己満足じゃん？

僕に経済観念芽生えさせる目的とかないわけ？

僕を思えばあと4円必要じゃん？

買い物経験1年遅れて人生踏み外すデメリット4円で買取れるって安いじゃん？

ねえ？

#twnovel

調剤本屋

近所に調剤本屋ができた。

問診後にお薦め書籍を処方してくれる。

僕は退屈と診断され、推理小説中心に紹介されていたが、最近傾向が変わって恋愛小説が増えた。

100冊続くとさすがに飽き、もう読めないと司書に言うと、「では実践はいかが？」とアドレスを渡された。

予習は完璧だ。

#twnovel

進化

文明の為に木が切り倒され、僕らの寝床が減った為に遂げた進化だった。

命がけの変化を受け入れたのに、今度は電線が撤去されつつある。

その上節電。ふざけるな。人の都合に振り回されるのはたくさんだ。

僕らは鳥。

今日も電線で電気をチャージし旅を続ける、電気仕掛けの鳥。

ぱたぱた。

#twnovel

君の心に住みつきたい。

心の扉を叩いてみると、中から返事が聞こえた。

君が望んで住まわせてる人がいるんだね。

扉を開ける。

そこにいたのは僕だった。

君は、僕が好きなの？

「やあ、そこにかけてまえ（キラーン）。」

何この好青年。

嬉しいけど、君の中の僕は、僕の知らない人です。

#twnovel

風をあつめて

風力発電全盛期がやって来た。

風を捕まえたものが電力王だ。

僕は風を追いかける。逃げる風。捕まえてごらんなさい。待て待て。

追いかけてこで増幅した風は知らない人の網にかかった。

「風はいただくよ。生産有り難う。加工は任せなさい。」

何故だろう。身分違いの恋でもした気分だ。

#twnovel

今村さん

君とは初めて会った気がしないな。

可愛い君。僕の手をとってくれないか。

もう、ひとりでなんか歩けないんだ。君と歩きたい。

共に世界を見に行こう。

「窓からお外見たいんですね。お手をどうぞ。」

認知症、歩行時のつまづきで入院中の今村寅太（92才）は、看護師に人気がある。

#twnovel

ウサギ餅屋

ウサギ餅屋は困っていた。

干支パワーで売れに売れた去年ととうって変わり、今年は売れない。

「いい考えがあるのにゃ。」

猫の提案にウサギはのった。

翌日、猫の着ぐるみを着たウサギの餅屋は大繁盛。

「猫かぶり大作戦にゃ。親切ぶって猫の可愛さ広めるにゃ。猫年を勝ち取るのにゃ。」

#twnovel

かれ

まさか枯れてしまうなんて。

水も栄養も十分にあった。寒さ？季節？

去年はなんともなかった。

いつもと違う状況、考えれば考えるほど、他の不具合達と同じ理由に辿り着く。

君が、いない。

いつかこの不在を糧に、枯れた声がまた戻りますように。

花が、咲きますように。

#twnovel

乾杯

君が大人になるのを待ってた。

許される日をずっと。

人目を気にして秘密のデートも今日でおしまいだね。

咲き誇る桜、夏の星座、満月の夜、沈黙の雪。

いつでも君の側にいるよ。

誓いのキスを。頬が赤いね。

きっとすぐに、こんなの普通になるよ。

乾杯。

#twnovel

お酒は20才になってから。

狼少女

雲間から満月。

あたしは、彼の手を離した。

「別れて。」束の間の沈黙。胸が痛い。

「どうして?」「好きじゃなくなったかも。」「僕は好きだよ。一緒にいて。」

彼の懇願に安心する。

満月の光であたしは狼になる。

狼少女。嘘をついて、彼を試す。

いつかきっとダメになるね。それでも。

#twnovel

せくしー

『結婚の予定も彼氏もない貴女。
結婚情報誌せくしーなんかには用はないって思ってませんか？
今度の付録は、サイン済み婚姻届！
せくしー厳選、イケダン候補 男子達がサインした婚姻届をプレゼント。
詳しくは本屋さんでね！』
結婚氷河期。草食男子はもはや、物言わぬ草男子になっていた。

#twnovel

彼の顔

彼の顔ってどんな風だっけ。イケメンだったのは確かなんだけど。
好きだった理由も思い出せないんだから、顔だって忘れちゃうよね。
同窓会の会場で彼を見つけられず納得していると声を掛けられた。

「あっら、お久しぶり♥」

美女へと変化を遂げた彼。好きだった理由が益々思い出せない。

#twnovel

彼の顔ってどんなだっけ。

「顔だけはいいよなお前。」

別れ際にそんなこと言われて全く思い出しもしなかった。

そんな相手だから、同窓会の会場で彼を見つけられなくても仕方な…あ、いた。あれ絶対そう。

「うっわーお前劣化したな。」

目の前で笑うのは、あの頃の私の顔をした彼。

#twnovel

約束

死んでもメールを送れるシステムで父は毎年母にメールを送っている。

「お父さんから？」「みる？」「えー愛のメールとか気恥ずかしい。」「ってというか一緒に考えて。」

メッセージは推理問題だった。

「私を楽しませ続けるって約束で結婚したのよ。」

父は今も約束を守り続けてる。

#twnovel

気づいてはいけない

婚活の効率の悪さにうんざりして、オーディションを始めた。

けどどうしてなの、結婚基準点に満たない相手ばかり。

「僕、どうして不合格？」

「お伽話の昔から、結婚できるのはイケメン金持ちと相場は決まってるのよ。」

「それ、相手が美女の場合では……」

「不合格！ 不合格！」

#twnovel

たまご

卵焼き作る。

殻を割ろうとすると中から音がした。

気にせずヒビを入れると修復された。

どうにか割った卵の中身はぐちゃぐちゃ。

けれど特に不思議な物は入ってない。

と、不意に地面が揺れる。

凄い音に驚き外に飛び出すと空にヒビ。

自衛隊が直している。

卵焼き、なるのは嫌なんだけど。

#twnovel

なう

「あんなにひっぱりだこだったのに、あまり呼ばれなくなりました。」

「時代があっただけいいですよ。」

縁側でお茶を飲む2人。

「自分達で使ってみませんか？」

そう言うと2人は携帯を取り出した。

「お茶のみなう。」「愚痴わず。」

なうとわずは穏やかな隠居生活に入っていた。

#twnovel

13日の金曜日

「はやく寝ないとジェイソンが来るわよ。」

「ママ、それなに？そうじき？」

「醜い顔を白いマスクで隠し、手には武器を持ち、多くの人を葬ってきた悪魔よ。」

「へーなんだ、じゃーこわくないや。それってお化粧したママだよね。」

子供、逃げて。

#twnovel

試験

「ここにサインして。」

「婚姻届？まだいいよ。」

「違うの。試験的にお願いしたいの。」

試験か。僕はサインした。

「試験的に式挙げよ。」挙げた。

「試験的に子供作ろ。」出来た。

試験が続くこと50年。

「試験的に先に逝くね。」

「試さなくていいよ。愛してる。」

#twnovel #twnvday

下駄箱に手紙を入れて、隠れて様子を伺う。

彼女が来た。

驚いた顔で手紙を読み始める。

気になって身を乗り出した途端、転んで目があった。

「貴方なの。興味深い素敵な文ね。だけど肝心の名前が書いていないの。試験だったら0点ね。」

彼女は去った。

ねえ、合否は？

#twnovel #twnvday

問 全てを溶かす薬があります。

貴方の一番大切な人が、それを使って貴方を溶かそうとしてます。

貴方を溶かそうとしている人は誰ですか。理由は何ですか。

その薬の正体はなんですか。

そして、貴方はどう対応しますか。答えなさい。

#twnovel #twnvday

「今回は君達が先生に問題を出してくれ。僕が30点なら70点をあげるよ。点を取り合う形式だ。」

それが社会ってmondakaらと言って僕から100点奪った熱血教師は、翌年東大出のエリートにその座を追われた。

先生が身をもって教えてくれた弱肉強食、忘れない。

#twnovel #twnvday

一問足りない。よしサービス問題だ。

大きな鯛抱えて笑った漁師の写真を貼って

「この人の気持ちを答えなさい。10点」

これで、全員10点はとれる。さてと、どうかな。

解答→「借金が返せる。」「これで妻と仲直りだ。」「先生ふざけないで下さい。」

なんかごめん。

#twnovel #twnvday

「いらないと思います。この前の耐震テストでも、ひどい脆さでした。維持費考えたら、破棄でいいのではないかと。」「確かに負荷テストには弱いね。だけど君、リカバリ能力はなかなかのものだよ。」

神様は天使に微笑むと、地球は観察継続条件付きで存続と命じた。

#twnovel #twnvday

永世名人

勝因は？の問いに名人は答える。

「相手がコンピューターでも変わりはない。日々鍛錬しとります。」

帰宅すると孫が出迎える。

「爺、格好良かった！さそう！」

6才の孫との将棋。

「ロボどうだった？」

「お前に、似てたぞ。」

最近の若いのはコンピュータみたいなもんだ、名人は思った。

#twnovel

いたいのとんでけ

僕は痛いの再処理場で働いてる。

痛いのとんでけでとんでった痛いのが集まる場所。

エネルギーとして再処理されるはずだった痛いの。

実際は技術が追いつかず、そのまま放置されてる。

倉庫は満杯。溢れそうだ。

痛いのがもれなく連れてくる優しさが、痛みを和らげる事を祈るばかりだ。

#tnovel

歯車

私の仕事は包装紙とり。

お嬢様に日々贈られる品々の、過剰なまでの包装紙を取り除くのがお仕事。

簡単そう？

だけど、取り外し方、紙の扱い、全てにマニュアルがあって50頁にもなるの。

歯車みたいって言われるけど、その方がきっとましね。

歯車は怒鳴られたり減給されたりしないもの。

#twnovel

心臓

心臓が打つ回数は決まってるの。唐突に妻が言う。

「だから、貴方をドキドキさせないようにするの。魅力溢れたら困るので今日は手料理しません。」

「ご飯作り面倒なのね。」

「優しさ。」

「じゃ外食はお洒落じゃない牛丼屋だな。」

「ドキドキのお洒落カフェで私の為に死んで下さい。」

#twnovel

ぼくのへや

久しぶりに部屋の外にでたら、誰もいなかった。

やけに静かだ。

どうもおかしいので家の外にでてみた。

やっぱり静まりかえってる。

まるで世界から人がいなくなったみたい。

まさか、滅びた？

でもさ、よく考えたら、今までと何も変わらないよね。

僕はまた、部屋に戻り、青い空と別れた。

#twnovel

魔法を信じるかい

望まれる魔法は、恨みや呪いばかり。気が滅入ってたの。

「魔法お願いします。」

また暗い仕事かしら。

「片想いの子、励ましたくて。」

明るい。

「この小瓶に 春の気持ちを詰めて下さい。」

素敵な仕事に嬉しくなって恋の予感もこっそり入れた。

「これ貴方に。」

え、私？恋が、始まる。

#twnovel

門

死ぬと人は門をくぐる。

その門で地上での出来事を測られて、それぞれに賞罰が与えられる。

死後人が持って行けるものはそれだけ。

僕も今、その門をくぐる。

「測定結果をお知らせします。皆勤賞。以上。」

僕はただ、人生に参加してただけ？それだけ？

ねえ、罰でもいいよ。何かくれ。

#twnovel

死ぬと人は門をくぐる。

その門で地上での出来事を測られた後、それぞれに賞罰が与えられる。

死後の持ち物はそれだけ。

僕も今、その門をくぐる。「測定結果をお知らせします。皆勤賞。以上。」

僕はただ、人生に参加してただけ？それだけ？ねえ、罰でもいいよ。何かくれ。

#d21twnovel

500年後

僕はこの時代の女性に疲れた。こんな強すぎるんじゃ恋愛もできない。
然るべき時代まで眠りにつこう。「恋したい人はキスしてね。」そう貼り紙をして。
500年後、目の前に現れたのは人ではなかった。
言葉も通じない生物。
どうやら僕は飼われてるっぽいんだけど、あれ、なんか幸せ。

#twnovel

通訳

彼女が恋したイケメンはドイツ語しか解らない。
ドイツ語のできる僕は、二人の仲を取り持つことになった。
「付き合ってくださいって伝えて。」
『恋人の振りしてこの子と一緒にいて。給料払うよ。』
と伝える。イケメンは承諾した。
これで僕は通訳の振りで、愛の言葉を囁きあえる。
君と。

#twnovel

親父

「俺バカだし、とった賞なんか皆勤賞くらいだけどさ。」

結婚式前夜、親父と酒を酌み交わす。

「あー？なーに言ってんだー。」

完全なる酔っぱらい。

「お前が最初にとったのは、歯磨きチャンピオンだ。」

はい？

「縄跳び王、九九言えるで賞、他にもな。」

親父。孫、待ってろな。

#d21tnovel

恋愛小説

小説で賞をとった。

3年前に別れた彼との事、きちっと消化したくて書いた話だった。

読んで欲しいって気持ちもあったけれど踏み出せずにいると、ポストに手紙が。

「元気ですか。実は僕、結婚しました。君の小説素敵でした。読んだら報告したくなってさ。」
うん。おめでとう。

#d21twnovel

白黒山羊

白山羊さんからお手紙ついた。黒山羊さんたら

「え、ラブレター？私も白山羊の事はす、好きだけど。でもこんな大事な事口で言わないとかあり得ないし！」

読まずに食べた。仕方がないのでお手紙書いたさっきの手紙のご用時なあに？

「返して貰ってない漫画のリスト、食べるとか酷い。」

#twnovel

王様

仕立屋が俺を騙してる、なんて百も承知だった。

世界一美しい布？笑わせる。

けれどそんなことはどうでも良かった。

この姿で人々の前に立てるのだ。

まさに権力者のみが味わえる喜び。

ああ、なんて素敵なパレードだ。この快感を想像できるか。

「王様は裸です！」

裸の何が悪い。

#twnovel

友達と恋人

ずっと好きだった。

そんなこと病床で言うなんてずるい。

二人の友情を壊すのが嫌で言えずにいたって、解ってないな。

好きが理由なのに、私が離れると思うなんて。

脆い事で有名な女同士の友情だけど大丈夫よ。

はやく治ってよ。

こっぴどくふって、そして慰める。

私達は親友がベストよ。

#twnovel

世界の終わり

僕の発明した予言者BOT。

ツイッター上に流れる今を分析して、一番確率の高い未来を導きだし呟く。

彼は言った。世界は滅びるって。

彼の意見を変えさせようと、世界中が平和友愛ツイートを始めた。

結果彼の滅びの呟きには続きができた。

「ただし共通の敵がいれば寿命は延びる。」

#twnovel

でいあごすていーに

城好きの彼にいいチョコないかな。

ネットで探してもいいものがない。

これはもう作るしか。

どうせ作るなら彼と会う機会を増やせる仕掛けをしちゃお。

「うわすげー。」

90分の1スケール安土城を組み立てられるチョコパーツの1回目分と設計図に喜ぶ彼。

「1週間に一度届けるよ☆」

#twnovel

そして伝説へ…

勇者は魔王の間までやってきた。

そこにいたのはひとりの可愛い幼女。

「あの、魔王は？」「逃げましたよー。」「有り難う。」

去っていく勇者に、幼女はひらひら手を振った。

危なかった。さすがに1人で4人相手したくない。

この幼女スーツ便利だな。

幼女の背中にはファスナーが揺れる。

#twnovel

君のために出来ること

賞をとるまで死ねない。

彼は晩年ロボット研究に明け暮れ、死の間際、受賞を聞いて笑って逝った。

残されたのは彼の妻。今はロボットと暮らしてる。

お茶を淹れる大会で世界一になったロボットの噂を聞きつけて、家には客が後を絶たない。

君を1人にしないよ。それが彼の口癖。

#d21twnovel

お姫様

気づいたの。私のこと、愛しく見詰めるその瞳。
豪華なお部屋に綺麗なドレス、何不自由ないお姫様。
だけどね綺麗な檻の中で、恋のひとつもできないの。
だから、貴方を探しに行く。どうか私を拐かしてね。
今この本を抜け出すわ。
よいこの童話はもうおしまい。恋愛小説、始めましょ。

#twnovel

労働のススメ

あー働きたくないな。

よし、二度寝突入だ。するすると夢へと落ちる。

と、ここ職場？

「あんたはやく！」

知らないおばちゃんに手招きされる。

いつも通りの作業。ねえ、これ夢だよな。

疑問に思いながらも働き続けていると目が覚めた。

時給0円で1時間の労働也。

さ、仕事行こ。

#tnovel

嘘

可愛い君は嘘ばかり。

初めは僕を落とすために、次は僕を逃がさないために、君はたくさんの嘘をついた。

そして今、自分のための嘘をつく。

それはきっと、僕を騙すための嘘。

でもいいよ、騙されるから、嘘をついてよ。

君の嘘は僕の安らぎ。

だって嘘が続くうちは、君は僕のものだから。

#twnovel

フォロー

この人趣味が合うなーってことでフォローしたら、すぐにバックがきた。
好きな音楽、本、TVに食事。好み、かぶりっぱなし。
と思っていたら、ある日の写真に驚いた。これ息子じゃん。
てことはこの人、価値観の違いで別居中の俺の妻か。
久しぶりに電話した。3人で食事でもどうかな。

#twnovel

おかん

このバンドは3人編成。

ボーカル、ギター、おかん。

おかんは日常を奏でる。

舞台の上で食事作って、僕らやお客に食べさせる。

時々演奏を止められたりもするんだけど、おかんの味噌汁はとても美味しい。

お客の話を聞いたり叱咤するのもおかんの役目。

さ、今日も、癒しと感動を奏でよう。

#twnovel

幼馴染み

出会ったのは幼い頃。

初めての友達にお互い夢中だった。

私達はお互いから、自分の事を学んだの。

貴方はどんどん大人になって、いつしか私を忘れていった。

そして今日、戻ってきたの。

「お母さん、この絵本持ってくね。」

懐かしい顔。私は今、貴方によく似た女の子の本棚にいる。

#twnovel

うみねこのなく頃に

あたし、ウミネコ。自由なあたし。あたしのお家はこの港。
お船見送る。大きな海へ。きらきら光る青い海。
お船迎える。日向の街へ。今日もお魚おいしいね。
日だまりポカポカ。あたしはあくび。にゃーっとないてゴロゴロゴロ。
あたし、ウミネコ。飛べないあたし。港に住んでる海の猫。

#twnovel

雨の日

雨の日は嫌い。彼と一緒に登校できない。

なのに今日も雨。しかも月曜日でうんざりしてる。

憂鬱だなー、なんて思いながら歩いていると、

「おはよいれて。」 彼だ。

「バスそこでパンクしてさ。お前見つけたから降りちゃったんだけど、俺傘置いて来ちゃってさ。」

雨の日は好き。大好き。

#twnovel

緊急メンテなう

ああ、もうまじ憂鬱。

俺、あんたになんかした？

溜息つかれたり、うんざりされたり、嫌われたりさ。

ずっと気づいてたよ。我慢してきただけ。

でもさ、もう耐えられない。

ツイッターで呟かれる俺への悪口、見たくないんだ。

1月23日、ツイッター緊急メンテナンス。

容疑者、月曜日。

#twnovel

電子メール

メールが来た。

「さっきはごめん。」

珍しいな、君から謝るなんて。

「気にしてないよ、帰っておいで。」

と返信する。

「迎えに来て。」 「どこにいるの？」 「隣の部屋。」

さっき出て行ったと思ったのに。

扉を開けると君がいた。

と同時に着信音。

「有り難う。大好き。」

ふくれっ面の君。

#twnovel

ウイルス

僕は多分ウイルスだ。

僕が潜むメールを受け取ると、人は泣いたり、困惑したり、悲鳴をあげたりもする。

脅威レベルは結構高い方だと思う。

さてと、今日もお仕事お仕事。

「君のことが好きなんです。」

僕の正体は「好き」って言葉。

さーて、彼女の反応は…笑ってる？できる。

#twnovel

冷たくしないで

倦怠期っていうのかな。

綺麗だって言われなくなった。

気を引きたくて頑張っても、驚いてすら貰えない。

淋しかった。だからちょっと出来心だった。

新鮮な反応が嬉しかったの。

「なんと積雪4センチです。」

これくらいでも構ってくれるのね。

そんな訳で、雪の女王はたまに東京に行く。

#twnovel

フォロー紹介所

フォロワー数が戦闘力だという貴方にお勧め、フォロワーBOT紹介所。

そんな広告を見つけた。

依頼後フォロワーはみるみる増えていく。

よく見ると周りでもBOTを使っているのがわかる。

身の回りの人のフォロワーを調べてみた。

するとどうだ。身の回り全て、BOTではないか！

#twnovel

神様がやってきた

神様が転校してきた。

全知全能じゃなくて、八百万みたい。

何の神様なのかは自分でもよく解らないんだって。

忘れ物が多い。計算苦手。給食の好き嫌が多い。

ホント神様？って感じなんだけど、神様が来てから体育がいつも晴れだからきっとそうなんだろう。

神様は体育が得意です。

#twnovel

寝坊

目覚まし、壊れちゃってたんだなあ。

すっかり寝過ごしてしてしまった。

カーテンを開けると、青い空。なんていいお天気だろう。風がやわらかい。気持ちがいいな。

私は思いきりのびした。

さてと、始めようか。

眠っている間に、どうやら世界は壊れたみたい。

探しに行こう。誰かを。

#twnovel

ホットケーキは素敵

無性にホットケーキが食べたくなって、ダイエットもお休みで、真夜中のホットケーキ。

幼い頃、よく母が作ってくれたっけ。

喧嘩した日、友達が転校した日、宝物をなくした日。

そういえば、泣いてる時が多かった。

そうだね私、泣きたいのかも。

幸せの甘い匂い。明日も、頑張ろう。

#twnovel

自転車に乗って

僕は雨でも自転車でいく。雪でもいく。
例えば槍が降ったとしても、僕は自転車でいくだろう。
だって僕はこうやって、地球を回しているのだから。
僕らのひと漕ぎが、地球を回す。
転んだって起きればいい。

#twnovel

「って事だと思う。それ以外雪道で自転車のる理由思いつかない。」

携帯小説

差し出し人不明のメールが来る。

そのメールは小説のようで、面白いので受け取るがままにしていた。

するとTVで、メールと同じ内容の小説が話題に。

筆者曰く、

「これ実は、携帯で適当配信してました。面白くなければ着拒されると思って始めたら結構好評で。」

ねえ、速く結末送って。

#twnovel

バカ

転校してしまう彼に、告白しよう。

「実はね。」

「あ、ちょまって。言わないで。俺が言う。」

慌てる彼。

え、何、まさかの「俺に告白させて。」ってやつ？ドキドキ。

「ど、どーぞ。」

「えーと、借りてた本は返しにきます。」

は？

「バカ、また会いにくるって事だよ。スキです。」

バカ。

#twnovel

ライバル

私の方が綺麗だってずっと前から思ってた。

彼に相応しいのはこの私。

いい加減はっきりさせたいのよね。

だから並んで勝負しましょ。

ずっと側にいるってだけのあんたに、これ以上大きな顔させないんだから。

金星が月に喧嘩を売ったこの日、月の顔は細く小さい。

地球のジャッジはどっち。

#twnovel

トレンド

ごめんごめん、待たせちゃったかな。

なんかいつも待たせちゃうよね。

君、待ち合わせ場所にくるの、少し早すぎるんじゃないかな？

ま、それだけ私の事、愛してくれてるって事だろうし嬉しいんだけど、心配しないでいいよ。

私、必ずここにくるから。

#twnovel

トレンドに「やっと金曜日。」

転校生

転校した。悲しかった。

でもね、新しい学校に行ってみたらなんと、僕の大好きな小説の世界そのものだったの。
憧れの女の子、厭味な教師、不思議な事件。

あの本のまんま。

興奮してお母さんに話したら、病院に連れて行かれた。

本当のことなのにね。

ねえ君は僕の言う事、信じてくれる？

#twnovel

エア彼氏

「今日からあんたをエア彼氏にする。無とか二次元からは想像しづらい。」

高らかに君は宣言した。普通の彼氏のが嬉しいんだけど。

「妄想妄想。」

身悶えてる。相手、俺なんだよね？

「薔薇スキ。嬉しいよ。」

ダダ漏れだよ。

翌日、薔薇を贈ってみた。

「何これ。きもっ。」

乙女心不可解。

#twnovel

プロポーズ大作戦

「君と結婚し、わーっ。」

またか。彼女に求婚中の僕は、一瞬にして大勢の客の前。
喝采を博するマジシャンに殺意すら覚え、彼を睨み付けた。

「今日仕事しないって言ったよね。」

僕は彼のマジックの種。

彼の都合で、いつでもびゅーんと呼び出される。

僕の求婚、いつ完了するんだろ。

#twnovel

恋のトリック

突然別れを切り出された。

「私とあなたって、運命の相手じゃないのよ。」

何を根拠に。

「実はトリックがあるの。この恋愛は私の手品なの。うまく行って嬉しかったけど飽きちゃった。」

そう言って去る。

ちょっと待って。

君のこと大好きなんだけど。

ていうか、トリックって何。教えて？

#twnovel

ああ女神様

血の通った文章を書きたい。

そう願うと女神が現れ「叶えましょう。」と言った。

早速書く。いつも通りだ。

がっかりして文を削除すると、悲鳴と共に画面が赤く染まった。

そうきたか。

だがしかし血をみたくない僕は、一発で文章を決める能力を手に入れ、締め切りが守れるようになった。

#twnovel

僕の胸に花が咲いた。
比喩じゃなく、昔あった映画みたいに。
この花の糧は、僕の悲しみ。穏やかに過ごせば枯れるって。
だけど僕には解らないんだ。
どうして消さなきゃならないの？
僕はこの花を大切にするよ。
花は美しく咲き誇る。
僕と人生を共にする花を、愛さない理由がどこにある。

#twnovel

時効

警察の前で迎える時効、格好良くない？

時効10分前、刑事を呼び出した。

刑事の前には100人の俺。整形で生まれた同じ顔。

なのに刑事、笑ってる。

「貴方をずっと見てきたの。貴方はつむじに黒子がある。」

俺も知らない俺の特徴。そこまで俺を？

「あいつ！赤くなった！逮捕して！」

#twnovel

勇者オレ

竜を倒すと、世にも珍しい香辛料を手に入れた。

「お帰りなさい。」

城に住まう100人の姫が僕を迎える。

皆何かの礼に貰った。

「貴方玉葱がないの。香辛料 だけじゃカレー出来ないわ。」

玉葱ね。僕は勇者カタログを広げた。

「悪魔倒してくる。」

お礼玉葱畑。行くぞカレークエスト。

#twnovel

結婚と離婚

滅びる前の地球を研究してる。

今は結婚と離婚という言葉についてだ。

多くの矛盾した情報が錯綜する中、

「結婚→覚悟。人生の墓場。」「離婚→希望。思いやり。」

ということがわかった。

死ぬような覚悟をしてまで得ようとしたその希望がどれほどのものか、その解明が今後の課題である。

#twnovel

フラグを信じるかい

今日の恋愛運は最高。本日告白日和です。
なーんて、運だけでいけたら苦労はしないわ。
神様はいないし、運なんてただの確率と偶然。
って、アイタタタ。誰ぶつかって来たの。
え、彼？食パンくわえちゃって何このフラグ。
大丈夫？とか気遣ってりして一緒に登校。
神様はいる。今日告る。

#twnovel

山手線ゲーム

いつもとは反対側のホームに向かう。

仕事も人間関係も嫌になった。

もういい。もういいんだ。

乗り込んだ電車。ドアが閉まる。さよなら僕の世界。さよなら。

「社長遅刻ですかね。来ませんね。」

「どうせまた山手線逆に乗ってドロップアウト気分味わってるんじゃない？いい身分よね。」

#twnovel

結婚だけの関係

チビ禿げ不細工大金持ち。

そんな彼と結婚したくて、魔女の惚れ薬を手に入れた。

使った日から嵐のようなラブコール。3日でもはや完全なる虜。

お金目当てなわけだから、とっとと結婚を申しこむ。

すると彼、涙を流してこう言うの。

「結婚はできない。君に惚れ続けていたいからさ。」

#twnovel

林檎殺人事件

これまで彼女は多くの事件を起こし、
そして今回貴方を毒林檎で殺そうとした。

これは事実です。

しかし、貴方が助かったのは何故ですか？

林檎を吐き出し窒息状態が改善されたからです。

毒が理由ならこうはいきません。

つまりこの事件は毒殺未遂ではない。

— 林檎殺人事件裁判記録より —

#twnovel

水のない水槽

観用人間の職に就いた。

金持ちの水槽に1日8時間飼われるだけの簡単なお仕事。

僕の雇用主は偶然にも昔の彼女だった。

歪んだガラスの向こう側、彼女とその恋人の逢瀬を覗き見る日々。

「貴方が来てから恋がなんだか長続きするの。」

美しい君。君を心底嫌えそうだ。

#tnovel

愛妻家の食卓

「妻の料理、旨いよ。食べに行ってみ。こっち見ないしバレないよ。」

遊び人の同僚から自宅の鍵を借りた。

居間へ向かうと食事は既に準備されている。何この旨さ。

「有り難う美味しかった。」

合わないはずの視線が合う。

「貴方そんな顔でした？10年も経ったから忘れたわ。」

どんだけ。

#twnovel

ホントは知ってた。

時々夫じゃない男が食事を食べに来てる事。

きっと夫が面白がって、そんなおふざけしてる事。

だけどそんなのどうでもいいわ。

ねえ貴方。私の好きなタイプ知ってる？

「料理をおいしく食べる男」よ。

私、じっくり吟味するわ。

貴方じゃないことだけは、確かみたいね。

#twnovel

赤い糸

医学の進歩で赤い糸が辿れるようになり、運命の人が判るようになった。

しかしながら、

あり得ない人と繋がってる、好きな人が他の人と繋がってる、誰とも繋がってない、

など悲しい結果である事が圧倒的に多く、

告知をどうしていくかという事が、医師の間で大きな問題になっている。

#twnovel

お誕生日論

お誕生日おめでとうって言った？

それって私が生まれてきた事が嬉しいって事よね。

つまりそれって私がいないと淋しいって事で、私を愛してるって事なんだわ。

貴方、私に結婚して下さいって言ったのよね？

破綻した理論だけど、だいたい正解。

僕は黙って、彼女の指にリングを通した。

#twnovel

朝はまたくる

君は申し訳なさそうに彼に近寄る。暗い。
きっとまた、邪険にされるのが怖いんだよね。
案の定、溜息なんかつかれて顔を真っ赤にしている。
だけど、遠慮してたら彼が困るって知ってるから。
覚悟して、叫ぶんだ。リリリリーン。
目覚めた彼にやっぱり嫌がられた。
「また朝か。」って。

#twnovel

年の差婚

理想の結婚相手をお探しの皆様に当社が今年お薦めするのは、70代の男。
最近では年の差婚などもブームとなっておりますが、さすがに驚かれることと思います。
ですがこれには科学的根拠があるんです。
一般的に言われる恋愛寿命が2, 3年。男性の平均寿命は約80才。つまり…

#twnovel

ウィルス

コンピュータウィルスが目視できるようになったので、どんなもんかと自分のPCで飼うことに。悪戯好きでよく笑う。僕の気を引こうとダメなことばかりする。怒られるとしょんぼりする。なんて愛らしいんだ。

この愛らしさを独り占めするのは罪だ。

気がつくと僕は指名手配されていた。

#twnovel

桜の木の下

この桜は美しい少女だった。

男を想って待ち続け、風の便りに男の結婚を知り、絶望のあまり桜となった。

あれから1000年。少女の呪いが今とける。

花びらの向こうに、少女が。少女が？

「腰、痛い。」

年月は少女を老女に変えていた。

「もう、無理。」

倒れる。桜の木の下には死体が。

#twnovel

また君に恋してる

降ってくる。真白で綺麗な君の気持ちが降ってくる。

寒い季節は君を詩人にさせるよね。

わかるよだって、僕も君に届けたい。

君のように白くも美しくもないけれど、ちゃんと君に恋してる。

僕の気持ち、君にあげる。君の気持ちをも一度下さい。

#twnovel

出演：僕（地球）君（空）気持ち（水分）

売春

「春いませんか。」ドアを叩く音。
スコープの向こうには可愛いJK。何この押し売り、ドッキリすか？
買った！ってエロ心だした途端逮捕とか？
丁重に断るとJKは、「そうですよね。」と肩を落として去っていった。
雪を溶かすJKの足跡、よく見ると花が咲いては枯れている。
え、春？

#twnovel

理解する女

私は従順な女。

貴方の望む通り、裏切って、蔑んで、上から目線。

貴方の気持ち、手に取るように解ってる。

貴方に寄り添ういい子ちゃんより、ずっと貴方を理解してるの。

だから私は、振り返らない。貴方のお望み通りの女。

「たまには抱かせる。」

にゃあ。お望み通りにバイバイにゃ。

#twnovel

最終兵器

「確かに悪い事しようとしてるさ。でもまだ何もしてないのにいきなり豆とか酷いよな。」

「豆だ。豆さえどうにかなれば。」「最終兵器、いくしかないな。」

迎える節分。撒かれる豆。

「今だ！」

鬼は、スカーフを取り出した。「3 2 1 鳩がでます！」

くるっくーぱたぱた。

「行くなー！」

#twnovel

鬼のパンツ

鬼のパンツは何故、強く破れないのか。百年破れない必要性とは何か。

今日はその疑問をぶつけるチャンス。季節の隙間から鬼が出てくる。

豆なんか投げない。僕が投げるのは質問だ。

「パンツ見せて下さい。」

逃げる鬼。追う僕。

「なんで逃げるんですか。」

「誰かー、この人痴漢ですー。」

#twnovel

とろける

彼女が恵方巻をくわえるやいなや、僕は彼女の反対側をくわえる。

ポッキーゲーム的な？

驚いた風の彼女。瞳が潤む。可愛いな。恥じらいと期待が見え隠れだ。

震える唇に到達。とろけ、ん、ここはどこ？

「無言で一気に食べるのが恵方の掟なの。お別れも言えなくてゴメンね。」

とろける。

#twnovel

容姿端麗辛口

「君の顔や容姿じゃなく中身が好きなんだ。君の方は？中身が好き？」

「ええ勿論。」

こうして美しさ平均点以下の彼女の結婚は決まった。

入籍後。

「じゃ、整形してきてね。」

「はい？」

「僕は君の中身が好き。君もそうだって言ったよね。だから外側がどうなったって問題ないでしょ。」

#twnovel

鬼は外

「豆まきしよ♥」彼女のいる初めての節分。

「鬼はそとー。」バラバラとまく。

2人で迎えるってだけで、節分ですら楽しい。

ところで彼女、さっきから静かだな。

もしかしてつまらない、ん？窓を叩く音？

「あーん、いれてー。」

彼女だ。え、いつの間に外に？鬼は外。鬼は外？つまり。

#twnovel

福は内

豆まきしてたら女が入ってきた。

「福です。」と名乗る。

そうか確かに僕は言った。

鬼は外福は内。

そんな縁から僕らは結婚。可愛かった福も今や僕を尻に敷く。

そして迎える今日節分。

豆まきしてたら女が入ってきた。

「福です。」

え？外で睨む鬼嫁。

僕と新しい福との1年が始まる。

#twnovel

白衣の天使

慢性的な看護師不足解消の為、天使達に求人票をまわした。

白衣の天使っていうくらいだ。患者様のお望み通りの看護師になるだろう。

天使の笑顔、天使の優しさ。白衣の天使の評判は上々。

最近死亡退院が大幅に増えているけれど、経営的にはむしろ安泰だし、天使導入は大成功だ。

#twnovel

彼女と鍋をつついてるとチャイムが鳴った。扉を開ける。

「来ちゃった。」

激しく抱きつかれる。冷汗。

「ねえこの女、誰？」「だ、誰かな。僕もわからな」「嘘！」

彼女は出て行った。

っていうかホント誰？

「うふふ、うらめしや。」

足、ないね。頼むからもっと幽霊らしく出てきてよ。

#twnovel

密室殺人事件

「明らかに密室ですね。」

「はい。」

「それでご遺体は？」

「ありません。」

「どちらかに移された？」

「そもそもないのです。」

「事件では？」

「違います。」

「私は何故呼ばれたのでしょうか。」

「密室があるからです。」

「はい？」

「密室があって事件が起きないはずないでしょう？」

#twnovel

選択肢

色々頑張ったつもりだった。
けどどうにもならなくて、最後の選択肢は悲しいかな2つきり。
笑って別れるか泣いて別れるか。
どこで間違っただろう。
時計の音だけが響く部屋。後悔したって、針は左には回らない。
ありがとうって彼が言った。
ありがとう。
私は笑って、そして泣いた。

#twnovel

朝のお仕事

「地球の為に戦ってくれないか。」と誘われた。

このご時世、バイトして本採用への道を繋ぐってのもありかも。

「待遇は？」

「1年間、8時半から30分TV 放映。」

「他には？」

「たまにイケメンとロマンスが。」

「ワーキングプアー直線ブラックなお仕事。」

「あの。」

「無理です。」

#twnovel

透明人間

準透明人間薬を手に入れた。

実際に透明になるわけじゃなく、音を出さなければ存在を気づかれなくできるらしい。

これは夢の薬。でも怖いからまずは家族で実験だ。

一粒飲んで居間へ向かう。妻も娘も全く気づかない。

しばらくそうしてたけど不意に思った。

なんかこれっていつもと同じ？

#twnovel

機械仕掛けの歌姫

あなたに届けたい。たったひとつのこの歌を。

あなたの耳に、あなたの心に。心ない私の機械仕掛けの歌声が、どうか優しく響きますように。
繰り返し歌う。

と、優しい手が、ぽんって私の頭を撫でた。

「もう7時か。」マスターお目覚めいかがですか？明日も同じ時間に起こしますね。

#twnovel

作法

不思議でした。何故それ程時間がかかるのか。

私は母を早くに亡くしましたので、女子として必要な作法を知らぬまま育ったのではないかと思いました。

どうしようもなかったんです。

そう供述する。

「踊りがあります。」「やっぱり!」「嘘ですが。」

覗きたくなる程、女子のトイレは長い。

#twnovel

変化

綺麗、細い、近い、冷たい、明るい、遠い、輝く、欠けた、白い。

貴方は様々に私を見る。

変化は私ゆえですか。変化は貴方ゆえですか。

いつも同じカタチの私を。

今日も月が綺麗ですね。

#twnovel

戦

なんてきつい戦だ。兵を増やしてもこの劣勢。

「殿、いつもの輩とは何やら様子が。」「とうとう来たか。彼に賭けよう。」

この輩には彼が効く。

「お殿さんいいの？皆殺しにしちゃうよ？俺、敵とか味方とか区別つかないんだよね。」

「頼む。タミフル。」

#twnovel

打倒インフルエンザ。頑張ろう。

人工楽園

造られた犬、造られた空、造られた水。

その世界の全ては造られていた。

遠い昔、自然という神々が与えてくれた恵みなど、とうに使い切ったのだ。

何故造り続けるのか。やはり造られた彼らは理由など持ちえず、世界を維持し続ける為だけに造り続ける。

造られた空の下、造られた朝がくる。

#twnovel

差し伸べられた手

差し伸べられたその手を取るのは、とても勇気のいる事だった。

長い年月が私を猜疑心の塊にして、いつしか全てを頑なに拒むようになってたの。

何故私なの？ 信じていいの？ 愛してくれるの？

ついに、手をとる。

「とれた！」 「このぬいぐるみ、もうUFOキャッチャーでしかみないよね。」

#twnovel

手作りチョコあげるなんて好きって言ってるようなもんじゃない。

だから彼のロッカーにこっそり忍ばせたの。

誰からかなんてわからなくていい。

貴方を想ってる子がいる。それだけ感じて欲しかったの。

翌日。

「現場です。チョコを装った爆発物が置かれてたのはこのロッカーです。」

え？

#twnovel

チョコの理由

何故チョコなのか。謎を解くヒントは作り方にあります。

「温め溶かし整え冷やす」。この行程こそが重要なのです。

何かに似ています。そう、恋愛です。

「男心を温め溶かし好きに整えたところで冷たくしてがっちり掴む。」

チョコから始まるであろう恋愛の予行練習を兼ねているのです。

#twnovel

ワレワレハ

やっぱアポとか必要だよな。

政府の電話番号とか知らないし、この前貰った地球土産のこの番号にかけてみよう。

「はい、お客様相談窓口です。」「宇宙からなんですが。」

次第を話すと親切に新しい番号を紹介してくれた。一歩前進。

「〇〇心療内科です。」

これで地球にいける日も近い。

#twnovel

間違いメール

知らない人からメールが来る。

放置しとけばいつか間違いに気づくよね。

「元気？」元気だよ。「彼氏できた。」女なんだ。「浮気された。」可哀想に。「別れちゃった。」元気だしなよ。

それからしばらくメールがこない。

ねえ、メールしていいかな？君の今が、聞きたいんだ。

#twnovel

最初は間違いだった。

合コンで1回会っただけ、良かったら連絡してと言った彼への間違いメール。

2回目からはわざとだった。彼が無視し続けるから、一方的に呟けて楽しかった。

だけどね、失恋してから本当にダメなんだ。

鬱々メールでこれ以上甘えられないよね。

「新着メール一件」え？

#twnovel

胃カメラ

胃カメラ中、医師が言った。

「これは。」まさか癌？「小人です。」

モニターに映された僕の胃の中、確かにいる。小さな男。

「いずれ溶けて骨は下からでます から心配ないです。」

モニター越しに男と目があった気がした。

数ヶ月後、小さな白い骨がでてきた。

僕は泣きながらそれを埋めた。

[#twnovel](#)

隠し味

惚れ薬の作り方教室に参加した。参加費用100万円。
だけどこれで彼の愛が手に入れられるならお安いもの。
様々な珍しい材料を鍋に入れた後、「ここで隠し味をいれます。」と先生。
なんだろう。
「どこでも手に入る惚れ薬を飲ませたい相手の愛です。」
先生、意味がよくわかりません。

#twnovel

ババ抜き

ババ入れるね。そう言って君はトランプを切った。配られた札にババは、あった。
どうにかひいていただこう。なかなかひかれず、僕の手元には、ババとスペードのAが。
さあひけ、ひけ、ひいたーっ！

「あがりっ！」え？

彼女は自分の手札を僕に見せる。

ババ、2枚？「ジジ抜き楽しいね。」

#twnovel

返ってきた本に僕の写真が挟まっていた。僕のじゃない。彼女の？

「ね、これどういう事？栞ってわけじゃないよね？」

「実は借りた時ね、ここにはこれが挟まっていたの。」

と言って僕に見せてくれた写真に写るのは彼女。紛れもなく僕の所有物だ。

「栞ってわけじゃないよね？」

覚悟を決めた。

#twnovel

つみきつみ

積み木を作るお仕事。積み木を積むお仕事。積み木を積む為の梯子を支えるお仕事。

天高く積み上がる積み木を写真にとって報せるお仕事。

積み木を崩すお仕事。積み木を片付けるお仕事。積み木の為に土地をならすお仕事。

そしてはじまりへ。

#twnovel

てっぺんからの景色は、美しいですか？

永遠を願うなら

女友達と図書館でお勉強。

「ねえ、この字の読み方解る？」

彼女の持ってきた本をのぞきこむ。

「それ、永遠ってかいてとわって読むんだよ。」

「じゃあね、ここ。あ、ついでだからここからここまで読んで。」

「あなたのことをとわにあいすることをちかいます。」

「私も。」

#twnovel

さよならいつか

抱きしめると、徐々に体温が失われていくのがわかる。

もういいよ。あなたは充分頑張った。

あなたとの日々、辛いこともたくさんあったね。

だけどね私、楽しかった。

だからね、いいよ。行ってらっしゃい。

ついにこと切れて、恋心は私から旅立っていった。

さよなら、またいつか。

#twnovel

二代目

こんな仕事したくてやってるわけじゃない。

親父から引き継いだこの事業、潰したくはないけれど、どうしたって愛せない。血と汗滲む闘争の日々。

「魔王様、アポ無しの勇者きてますが。」「またか。礼儀知らずの乱暴者ばかりだな。」
田舎に職場移してもだめか。早く平和に暮らしたい。

#twnovel

これはこっちに繋げて、ここは言葉を変えよう。この登場人物は変更でこちらはギャグ転化。
今回の発注先はっと。

面倒だから、か・み・さ・ま・の・い・う・と・お・り。じゃ、君、お願い。いい仕事してね。

[#twnovel](#)

「ついみくの妖精さんに聴く！こうやって [#twremix](#) は創られる。」

選択肢

僕はこの人生が嫌いだ。

原因は多分あの日の選択ミス。そこさえ上手に乗り切っていれば。

全財産はたいて時を遡る薬を買った。

さあ、行こう。君を手酷く振ったあの日へ。時を越え、君の気持ちを受け入れる。

数年後、僕は彼女と別れ、見覚えのある未来にいた。

次はどの選択を正せばいい？

[#twnovel](#)

終末とツイッター

世界はほぼ壊滅。残ってるのは電力やネット。

命より優先されてたなんて笑うしかない。

惰性でツイッターを眺める。どうせ沈黙のTL。

「ランチなう。」「[#twnovel](#)」「生きた人RT」いない人がいない。

考えられる理由は。

「BOT黙れ。」それ以外ないよね。

呟いた途端、フォロワ数0になった。

星になれたら

星空見上げてママが言う。

人は死んだらお星様になるの。だから淋しくないのよって。

へえ。

今日はさ、星がすごいたくさん見えるね。

とりあえずカーテン閉めようか。恐いのって？笑う。

僕はママが見つけやすいように一番眩しい星になりたい。

自分の手の内、敵に見せてどうすんの？

#twnovel

死亡フラグ

「この戦いが終わったら結婚しようってプロポーズされた♥」

「何その死亡フラグ。彼大丈夫？」

「二次元じゃあるまいし。」

「ところで彼の言う戦いって何なの？」

「彼、妻帯者なの。液晶が邪魔で離婚届に印貰うのが難しいとか何とか？それが戦いみたい。」

「それ結婚拒否られてるよ。」

#twnovel

僕の街

僕の街にはチューブが走り、白い建物に繋がっている。

もう片端はずっと遠くにあるらしい。

中の見えない施設の役目を、僕らは誰も知らなかった。

ある日、建物が爆発する。

僕らは皆いなくなって、いなくなった僕らの上にまた建物が築かれる。

建物は育つ。僕らや君達を飲み込みながら。

#twnovel

僕の仕事は中の人。遊園地のうさぎの中の人。

今日はあの子が遊びに来てた。

僕に気がつき、駆け寄ってはぐ。それから可愛く頬にキス。

すぐに君は彼の元へ帰るけど、それでもいいよ。デートにおいでよ。

君とキスができるなら、心がどこにあるかなんて、些細なことだと思うんだ。

#twnovel

RT

RTだけで呟いてみよう。

挨拶から君を思う気持ちや読んだ本の感想まで。

全部僕の言葉じゃないけど全部僕の気持ちだよ。

何の苦もなく出来ちゃって、人間そんな特別な事思わないよねって納得してたら、一気にリムラれ彼女も去った。

大事なのって気持ちじゃないの？失恋の悲しみもRT。

#twnovel

機械世界

「もっと労んな。あんた貴重な存在だ。」
医者と言う。貴重？珍しいだけだ。
世界にはロボ9割、人1割。
労働者はもうほとんどがロボだった。
「あんたには変わりがないんだ。からだ壊したら終いだよ。」
そりゃ夢のようだ。
仲間は全て壊れ果てた。
製造中止の最初のロボ、その最後の俺。

#twnovel

動力：笑顔

君の笑顔、どれくらい見てないかな。

なんだか調子が悪いんだ。これは雨降りのせいじゃなくて、君の不在が原因だよ。

なのにようやく会えた君は無表情で僕を見る。

僕そろそろ限界なんだ。僕、pipipi。

「笑顔de充電彼氏はお嫌いでしたか？」

「そうそう笑ってもいらんないわ。」

#twnovel

今日は何の日

「僕に？」「2月14日ですから。」「何かの日？」

キタ！

「禪の日なんで禪です。」

え？

「それとこれ。」「これは？」「煮干しの日の煮干しです。」

ええっ？

「あとこれはネクタイの日なので。」

悲しみの帰路。家で包みを開けると全部チョコ製だった。

俺、好かれてる？嫌われてる？

#twnovel

本命チョコの相手

本命チョコの相手が毎年変わるのって切ない。

だけど相手が想いを受け取れない立場になっちゃったら仕方ないもの。

お年頃だからいい男はどんどん売れちゃうものね。

「好き。受け取って。」「死んだ妻になんか悪いな。」「お互い老後楽しみましょ。」

80代の恋。

#twnovel #twnvday

ちょこっとLOVE

娘がチョコを食べてた。

昨日作ってたのじゃない？って問うと、うんでも余ったんだ一なんて。

強がり。昨日作ったの、1個だけじゃない。

渡せなかったなんて、本当に好きな相手なのね。

嬉しくなって少し貰ったチョコは固く苦かった。

素敵な恋ができますように。

#twnovel #twnvday

本命チェッカー

#twnovel #twnvday

僕は本命チェッカー。チョコに含まれる愛情を量るのがお仕事。
今日の依頼、どうみても本命って佇まいだけどpi本命デス。
随分重いな。愛も重過ぎると嫌われるのに。
依頼主はホッとした顔でチョコを一口そして倒れた。まさか毒入り？
愛と憎しみ、似てるんだよね。

チロルチョコ

#twnovel #twnvday

まさるくんは、チロルチョコで「本命」と書いたバレンタインチョコを貰いました。
これは本命でしょうか。本命のふりをした義理でしょうか。答えなさい。
ただし、摩擦は全て考えないこととする。

チョコレイト爆弾

本日我々の使命は、託された心を抱き、完璧に届けきること。

決して戻ってきてはならぬ。戻ることは恥と知れ。

託された真心、恋心、下心。

相手にぶつけ思い知らせるのだ。

さあ、行け。

「このチョコ結構苦いね。」「私の心が甘いから丁度いいでしょ？」

下心は苦いとの報告あり。

#twnovel

本命

「本命貰った！」ドヤ顔の彼。
胸が痛い。酷いよ、どうして私に言うの？私の気持ち知ってるくせに。
「ほら。」
目をそらす私に突きつけられる「合格」の文字。
「本命合格。これでお前と同じ学校行ける。ところでさ、もう1個の本命は貰えるのかなあ。」
「合格よ。」

#twnovel #twnvday

後日談

一体どういうこと？こんな寒くて窮屈な所、高貴で美しい私には似合わないわ。
扉が開く。

あら貴方、冴えない顔ね。並の容姿なんだからせめて笑って、あら泣いているの？
そう、思いを告げられなかった。

いい子ね。私を食べなさい。こう見えて私、癒し系なの。

#twnovel

チョコレートは恋の味。

ツイッターウィルス

発症者をフォローする。

それだけで感染するツイッターウィルスが発見された。

感染すると脳内勝手にツイートされ、くじらの表示率が上がるという。

急にブロックされたあなた、もしかしたらそれは感染拡大防止の為の優しさかもしれないしそうじゃないかもしれない。

そうじゃないかも。

#twnovel

空室

空室空室あった。ここにはどの位お世話になるのかな。

家出少女に漫画喫茶は夢の城。扉を開ける。

「え？」

目を見張る。風が吹く。広がる空。美しい夕焼け。橙に染まりきれない白い雲。

小さい頃を思い出す。あの頃空は、とても高くてただ美しかった。

連絡くらい、してみようかな。

#twnovel

からっぽ

「空瓶いりませんかー。」

僕に売れる物はそれくらい。

「空瓶に空箱もあります。」

お金を作って故郷に帰る。なのに、売れない。

皆が不思議そうな顔で見る。

「ゴミは要らないよ。」

え？皆、好きじゃないの？眺めるじゃない。

空を詰め込んだ瓶に箱。

早く売り尽くして僕は宇宙に帰りたい。

#twnovel

逃亡者

ち、見つかったか。この場所も危険になってきたな。そろそろ潮時か。

世話んなったな。俺なりにお前のこと好きだったぜ。俺のせいで潤んだ瞳、火照った身体、忘れない。

おっと、アブねえ。お、側に丁度いいのがあるな。じゃ、元気で幸せになれよ。

#twnovel

「治った。」「うつった。ごほごほ。」

紡がれる未来

あまりよく知られていないが、未来という物は紡がれている。比喻でなく、紡がれている。
ある工場で、平日9時～17時（休憩1時間）、時給800円でパートのおばちゃん達が夕飯の献立を
考えながら紡いでいる。

現在、明るい未来への投資として、時給の底上げが検討されているらしい。

#twnovel

女の子って何で出来てるの？

彼女作るのなんて簡単だよ、失敗を恐れなきゃいい。

なるほど。失敗は怖いけど彼女は欲しい。頑張れ俺。彼女作り開始。

材料揃える計測混ぜる焼いたり冷やしたり。

失敗改善失敗改善。

数年後「ダーリン♥」成功だ！

気がつくと僕は一流パティシエ。彼女作るなんてどっちにしる簡単だった。

#twnovel

甘い嘘

「大好き。」甘い声で言うけれどそれは嘘だ。

嘘って球体になってこぼれ落ちるんだ。

全部拾って珈琲に溶かす。

ゴクリ。

苦い。君の嘘、大分甘さを失ってきたね。

熱かった珈琲もこんなに冷めた。

僕は優しく、可愛い嘘つきの君を撫でる。

もっと甘い嘘、言ってごらん。

#twnovel

ゴミの日

失恋の痛みは溜めすぎではダメ。なので捨てる事にした。

これ何曜日のゴミなのかな。

燃える？不完全燃焼してるし。

燃えない？このまま埋められて何かの拍子にでてきたら。

資源？こんな痛みは巡らなくていい。

そっか私、まだ大切にしたいんだ。

そっと撫でる。痛みは少しだけ和らいだ。

#twnovel

あの頃の未来

やあ、あの頃の僕。

君が夢見た未来に僕はいます。

君の夢、叶えられてなくてごめんね。

願った未来じゃないけど、それでも結構いいもんだよ。

#twnovel

「10年後の自分へ」って手紙。紙飛行機にして飛ばしてやった。

「正義の味方になれますように。」ってなれるか。

納得できる答え、探すから。

モテ男

「可愛い!」「スキー。」

俺はモテる。

君達のが可愛いよ、とか思いながら女の子達を抱きしめてキス。

そんな天下無敵の俺様である為、ただ一つ、守るべきルールがある。脱いではいけない。いけないのだ。

#twnovel

ぬいぐるみを脱いだ中の人な俺。あ、さっきの女の子達。超スルー。デスヨネー。

別れの代価

「別れよう。」「二人で揃えたあれやこれ、どうする？」「僕は過去より未来をとる。いいから早く出て行け。」

ラッキー。当然オール質屋よ。本当はこんなの どうでもいい。

ただ、恋の為だった。

「すごいな、これプレミアついてるよ。」

電車オタクの彼氏は結構お金になると、ㄝㄝ。

[#twnovel](#)

休眠口座

休眠口座が国のものになると同時に休眠人間も国のものになることになった。

10年間ニート生活していると、人も国のものになる。

ニート歴9年のたかし君。もうこんな生活は辞めようと一念発起し部屋を出る事にした。

ん？開かない？

「開ける！」「お願い。あと1年待ってちょうだい！」

#twnovel

転勤

転勤が決まった事、彼女に伝えた。

「距離もあるし、会えるの月に1, 2回かも。」 「えっ」

「でも考えてみたら今も月2程度しか会えてないし変わりは」

「私 寂しさに勝てないと思う。お互いの為にも終わりにしよ？」

「なら結婚とか」 「いい思い出だったわ。」

なんだか君、嬉しそうだね。

#twnovel

別アカウント

二個目のアカウントは、私であって私じゃない。
優しくて朗らか素直で前向き。そんないい子を演じてる。
私と彼女で自演会話をしたある日、彼氏が彼女をフォローした。
彼は彼女と仲良くなって、そして今日、私に別れを切り出した。
複雑な心境。
うんでもどうか、彼女を幸せにしてください。

#twnovel

ハッピーエンド

「彼女に優しく口付け」まで書いて手を止める。
おかしい。書き手の僕が彼女に振られて不幸なのに、どうしてこいつら幸せなの？
そんなの到底許せない。リア充爆発しろー。
ってわけで、今度も僕の本は不幸な結末。
今や読者はハッピーエンドがいつくるか、賭けているとかいないとか。

#twnovel

闇に住まうもの

太陽の光に背を向けて、急いで逃げましょ隠れましょ。

ビルの谷間に森の中。光の差さない暗い場所。

影から影へ。闇から闇へ。

けど一番の隠れ家は、誰かの心の闇の中。

消えない闇に安堵する。

私は夜。昼間はそっと隠れて過ごす。

貴方の心に私は如何？匿って下さいませんか？

#twnovel

硝子

失恋を美しい硝子に変える、そんな術を身につけた。
いつか綺麗な硝子を集めて、ステンドグラスに仕上げたい。
箱の中にはとりどりの硝子。そろそろ何かができるかも。
ああ、青が足りないな。
私は恋する。
まだ硝子は揃わない。
恋の終わりを意味するというのに、私は完成を祈ってる。

#twnovel

「この階段は宇宙へと繋がっています。」

男は言う。先の見えない螺旋階段。

「お疑いは当然です。残念ながらその疑念を払って差し上げる事は叶いません。

帰ってこられた方がおられないからです。」

だろうね。

「ですが確実に事実なのです。」

胡散臭い。

けれど僕は、一步目を踏み出した。

#twnovel

札付き

俺は札付きのワルだ。

俺についた札は「50%オフ」。悪さが半分になるようにって親の願いが込められてる。

ダチには「3足セット」って札。ワルでも人と繋がれるようにだって。

なんかこんな札ついてると悪いことってできないよな。

親の愛？感じるみたいな？

あと見た目がアホっぽい。

#twnovel

ほんやくこんにゃく

僕の膝で寛ぐ君がどんなこと考えてるか知りたくて、
近所のお店で「ほんやくこんにゃく唐辛子味」を手に入れた。
君の事、解るかな？少し食べさせる。

「ふう、どうにか攻撃は防いだ。次の危機はそうだな、食事で回避できそうだ。おいお前ごはん
だにゃ。」

ミケ。君、何と戦ってるの？

[#twnovel](#)

瞳にうつる空

私、お天気屋。今日のお天気、決めるのは私。

この目に創ったお天気を、空に映して天気を作る。

誰も知らない私の秘密。

#twnovel

「ママこのねこちゃんね。おめめのいろがね、おそらにうつってるの！」

「あらホント、空の色と同じ青ね。」

人間の子供には、タマに鋭いのがいるから困るのにや。

猫の手

「猫の手でも借りたいとのご希望でしたよね。」
派遣会社からやって来たのはまさに猫だった。
「タマさんにはエレベーターガールをお願いします。」
「にゃー」タ
マはエレベーターに乗り込む。
数日後、ボタン一つ押さないタマのエレベータには大行列が。
もう今度から猫の手しか要らない。

[#twnovel](#)

本好きの恋愛

貴方は私に本をくれる。

誕生日、初めてキスした日、仲直りした日。その日にあった本をくれる。

もう何冊になったのかしら。本棚一つを埋め尽くす。

本当に私が読みたい本はただの1冊なのだけれど、あと何冊読まなければならないの？

今日もまたくれた。

「僕は結婚しない」

何この挑戦状。

#twnovel

悪夢枕

「この枕で悪夢知らず。その名も、悪夢枕ばく君。」
買った。これで安眠は約束された。今日の夢が楽しみだ。

#twnovel

美味しそうなケーキ。ばく君登場。

「それにはきっと毒が。」ばく。

向こうから可愛い女の子。

「きっとあの子は君を罵る。」ばく。

ねえばく君、君はどんな悪夢に住んでいるの？

鶯のなく頃に

春を探してたら、鶯が教えてくれた。春は梅の中にあるって。
梅の花が全部開いて全ての春が天に登ると、やがては地へと降ってくる。
今日の雨は柔らかいね。春が混ざっているのかも。
春は無闇に探さずに、ただ、静かに待つといい。
なんだか恋に似ているみたい。
もうすぐ春がやってくる。

#twnovel

少女愛

風邪を引いた。咳をすると、何かが出てくる。動いてる？

病院に行くと「少女型ウィルス風邪」と診断された。

顕微鏡をのぞくと女の子が可愛らしく微笑んでる。

キュン。

僕は処方薬を捨てた。気を抜くとすぐ元気のなくなる少女の為、不健康に余念がない。

少女ウィルス、またの名を恋の病。

#twnovel

憂鬱な花粉

そんなつもりはなかった。泣くほど僕を嫌っているなんて。

僕なんか生まれてなんかこなければ良かった。

呪われた生を恨むけれど、君を苦しめることでしか僕の未来は生まれない。

愛しても、君の唇には届かない。

#twnovel

「今日の花粉指数は100。マスクをお忘れなく。」

生まれてごめんなさい。

火サス

もしもし、2時間サスペンスの原作書き下ろし依頼？嬉しいです。

そちらのご要望は。はい。

「奥様方は見ながら眠る。眠る時間を予想し起きてそうな時に重要シーン。寝ても話がわかる展開に。」

ですか。

あの、そんなのできるかーってことで、犯人役で有名なあの役者さん手配願います。

#twnovel

イヤホン

イヤホンで音楽を聴き続けたら、耳がイヤホン内蔵型へ進化した。

イヤホンレスな日々。

「あの。」電車で女の子に話しかけられる。

「何て曲？私にも入ってきて。」

耳を指さす彼女。僕と同じ進化の子？

僕らはそれをきっかけに結婚した。

思えばあれは幸せになるための進化だったのかも。

#twnovel

「今日のパンツ何色？」

突然聞かれて考える。覚えてない。多分白。水色だっけ？
ワンピースだからこんな人前で確かめらんないし困ったな。

「申し訳ありません。確認後こちらからお電話致します。お名前と番号を戴けますか？」
ガチャ。電話、切れちゃった。そう言えば誰からだったっけ？

#twnovel

「今日のパンツ何色？」

「知ってどうする。」「え？」

「パンツの色次第では欲情できないって事か？」「いやその。」

「お前の質問は失礼極まりない。」「そ、そう？」

「因みに白だがそれでいいのか？」「え？」

「必要なのはパンツだけなんだな？」

「いえ、中身も込みでお願いします。」

#twnovel

カリスマ美容師

僕は美容師。カリスマ美容師。髪を切ると君の心が判るんだ。

失恋したね。髪が重く濡れている。

仕事の成功。髪が凜と光ってる。

さてと、君は如何だろう。

君は恋に落ちてるね。カリスマの僕に任せたまえ。

願いが叶うカットをするよ。

可愛くできた。なんて可愛い。ねえ僕とつきあわない？

#twnovel

希望

赤ちゃんは手を握り生まれてくる。
ぎゅっと何かを握りしめて。
手の中にあるのは希望。
世界を美しくする為に必要な素材を握ってくる。
世界には希望が足りない。浪費され枯渇した。
赤ちゃんが放つ希望だけでは間に合わない。
それでも赤ちゃんは、手を握り生まれてくる。
希望をもって。

#twnovel

第二ボタン

激しい第二ボタン争奪戦が繰り広げられている。

欲しいのは山々だけど彼は幼馴染み。今更言えるはずもない。もう帰ろ。

「待って。」

彼が走ってくる。

「これ！」

ボタンを放り投げた。

「え///」

「ボタンつけてっ。母さんに怒られる。」

彼涙目。そうだねあんたのお母さん怖いものね。

#twnovel

ブラックホール

俺様ブラックホール。この宇宙に生まれし恐るべき悪魔。

無より出でしこの俺様、仲間ですら喰い進化した。俺以外の存在は許さない。

孤高の俺をある日見えざる力が襲う。

くそう。俺がどんどん、消えてく

#twnovel

「肩凝りどう？」「マッサージ有り難う。謎のゴリゴリは消えた。」

ゼロツイート

ある日僕をフォローした彼女。

ツイートゼロでミステリアス。

凄いよね。眩かないでいられるなんて。

1日100ツイ当たり前の僕は当然彼女が気になった。アイコンも可愛いし。

フォロバしたらDMが。やり取りしてたらアドレス交換しようって。

もう結婚しかないよね。アイコン可愛いし。

#twnovel

幽体離脱

自分がないことに気づいた。

探さなきゃ。

僕はタイ、インド中東とまわりアフリカを経て南米を回った。

どこにもいない。

仕方ない、補充がてら一度日本に戻ろう。

そこで僕は見つけてしまった。

ベットの上、危篤状態の自分を。

そうか幽体離脱したまま、迷子になっていたのか。

ただいま僕。

#twnovel

閏年

「明日は存在しないはずの日だからいつもと違う事しよう！」

妻が言った。

「どんなこと？」

「私を姫扱いして下さい。」

「眠るだけの1日と毒林檎食べ放題と0時になったら敵前逃亡するゲームと借り物競走の出題係するのどれがいい？」「姫辞める。焼き肉にする。」

「にくの日だしね。」

#twnovel

雪解け

雪溶けは美しくない。

冬の間に関じこめられたゴミが解放されるから。

冬が長ければ長いほど春への課程は醜い。

そんな中に見つけた。秋に終わった私の恋。

不倫だった。なかなか消化できないと思ったらこんなところで眠ってたのね。

そっと拾い上げる。

バイバイ。きつともうすぐ春がくる。

#twnovel

草食系

つきあってどれくらいかな。未だに君はキスもしない。

自分から積極的に誘いかけたら「僕、草食系なんだ。」さり気なくたしなめられた気がした。

嫌われるのが嫌で大人しくしてたら突然のキス。

「僕、草食系だから、草みたいに待っててくれる子が好きなんだ。」

捕食のようなキスでした。

#twnovel

恋心の行方

物語はいつもハッピーエンドとは限らない。

君への告白は見事に打ち砕かれ、粉々になった恋心は雪と共に僕に積もる。

雪はいいよね。溶けてしまえば消えるから。

唐突に雪が止む。

「入んなよ。」

頭上に傘。左には幼馴染み。

「ね、私にしておけば？」

恋心は溶けない代わりに生まれ変わる。

#twnovel

3月9日

今日でもう二度と会えないかもしれない。

けどそう思うと悲しくなるし、さよならも気軽に言えない気がして、気づかないふりで笑ってた。

ひんやりとした体育館でもふざけ合って胸のコサージュにも気づかないふり。

「卒業生起立」

ピアノの伴奏。歌声が震える。あー台無し。音楽は狡いよ。

#twnovel

恋の味

「今日のシチュー凄いんだ。」「いつもと違うの？」

「質問。私の事好き？」唐突な奴。「好き。」「恋してる？」「してます。」嬉しそうな君。

「なんこのルー、こい味なの。お店の人が教えてくれたー。」

楽しそうな所悪いが、きっとそれは濃い味だ。

箱の字を読まないとはさすが君。

#twnovel

ぜんまい仕掛け

私ゼンマイ仕掛け。ジジジジジジ。

動ける間中巻いてくれる人を探してる。ジジジジジ。

巻いてくれたら貴方の為に歌ったり恋したり、ね。ジジジジ。

動ける間はずっとずっと探してるの。ジジジ。

動く為に動く。生きる為に生きる。ジジ。

人と一緒よ。ジ。

ね、 しあ わ せ ？

#twnovel

ああもうこんな茶番やめにしたい。何が楽しくて毎年毎年。

私は憂鬱だった。もう10年目。年に一度外に出られたと思ったら、毎回毎回結婚式。

こんな若い子の衣装恥ずかしい。私もう何歳よ。

ふと隣を見ると貴方が笑う。

「綺麗だね。」そうかしら。

貴方が言うなら来年も着ちゃおっかな？

#twnovel

雛祭り殺人事件

女雛が見つからない。他は全て揃ってるのに。

どうしても見つけれなくて、やむを得ず女雛だけ買い求めた。

ごめんねお内裏様。愛する奥さん、見つけたらすぐ戻してあげる。

#twnovel

「新しい妻はいいな。女は若さだよ。」

「益々お盛んで。私も苦労したかいが。」

「右大臣。恩は忘れないぞ。」

君の桜

桜の木の下には何が埋まっているでしょう。

死体かしらと答えると、君は私の手を引いた。

校舎裏の桜の木。

根元を掘ると白い手紙が表れる。綴られた君の恋心。

このままもしもこの恋が、死んだとしてもいいように、ここに埋めておいたって。

残念ね。美しい骸にはさせないわ。

[#君の桜](#) [#twnovel](#)

雛人形取説

お雛様、すぐ片付けないと婚期を遅らすことになるって私最近知ったの。

だって我家いつも4月まで出しっぱなしだったから。

そう考えたら私が40で結婚してないのって不可抗力だと思わない？

姉と共同のものだったから、呪いは多少緩そうだけどね。

え、姉？18才で結婚してるけど何か。

#twnovel

賞味期限

「女の賞味期限って今も24才かな」って彼女が聞くから「今はそこまで若くないよ」って返した。

「私30になるじゃない？さすがに期限切れだよね」って言うから

「うーんどうかな。でもさ、食べられないならそんな心配しなくていいんじゃない？」って言ったら殴られた。

女って。女って。

#twnovel

ペンギン事件

ここはどこ？

脱走したって騒がれちゃってる僕だけ、ホントはただの迷子なの。

迷い続けてはや数年。なんだか寒いところに来た。

「南極ですよ」まさかの故郷。

このまま居着くと皆さんの、思うとおりに脱走犯。

だからね、僕は泳ぎ出す。

いつか迷子を卒業したら、正しく脱走してくるね。

#twnovel

自分主義

私らしい、本作り。自分主義が小説業界に押し寄せた。

共感できる小説や二次創作では飽きたらず、結末を選べる小説が流行する。

「ハッピーエンドって大嫌い。」

彼女の本棚には御一人様主人公が溢れる。

最近、この本棚で夜毎お見合いパーティーが開かれている事を、彼女はまだ知らない。

[#twnovel](#)

狼がきた

狼少年の嘘に困った村人達は言いました。

「君は嘘が好きなんだね。だったらついて構わないから1つ約束しておくれ。」

少年は約束に頷きました。

「狼が来たぞー」「毎日安全を知らせてくれて助かるよ」

嘘しか言わないと約束をした狼少年、感謝されて狼青年へ育ちました。

【続く？】

[#twnovel](#)

花の指輪

君が最初にくれた指輪は小さな野バラの花指輪。

可愛い指輪で好きだけど、本当は棘が痛かった。

指輪にそっと口付けて、君は愛を囁くの。秘かに滲む赤い血に、気づく事等無いままに。

白い野バラ赤く染まる。次会えるのは何時かしら。

赤い野バラが茶色く枯れてなくなる前ならいいけれど。

[#twnovel](#)

素敵な未来

将来が心配すぎて未来へと旅立った。

そこで見たのは素敵な現実。

エロ可愛い妻、転職成功給料倍増、メタボ改善。いい未来。

安心して帰、る必要くない？

ここで自分と入れ替わるのだ。

僕は自分を陥れるよう企てる。

悟りを開いた自分対ダメな自分。勝負は決まっている事には気づかずに。

#twnovel

アナグラム

こんな寒い日は言葉も凍る。

言葉が凍ると音を失い文字となって宙に浮く。

いっしょかえろ。あ、崩れる。「えろいっかしょ」になった。

さむいね。ああ、「むさいね」って。

すると君が言葉を吐いた。

「すきだよ」これって何が崩れたのかな。

アナグラムを考える僕は君の告白に気づかない。

#twnovel

海の底

海の底、悲しみと一緒に沈んだ貝は静かに口を開けた。
安堵の溜息と共に吐き出した悲しみは海底へ沈みやがて消える。
どうか地上の悲しみが、少しでも多く失われますように。
貝達は悲しみを廃し世界を浄化する。
神様は、そんな貝達に、感謝の印の真珠を与えた。

[#書き出し](#) [#twnovel](#)

no密室nolife

貴方が僕の心を奪ったって何この人。

そういう台詞はイケメンに限るのよ。聞き流してると妙な事を言い出した。

「僕の心の密室から君は恋心だけ上手に盗み出した」

密室って言った？て事はトリックは？

「私が貴方の心を盗んだ件についてもっと話したいの」あら喜ばれた。ともあれ密室よ！

#twnovel

想定外

50年後までのスケジュールを埋めた。

中々充実した日々だ。

「これ読んで下さい。」後輩が手紙を差し出した。

おっと、想定外のロマンスか？それくらいの修正はきくぜ。

可愛らしい便せんをあけると

「田中さんってロボですよ？プログラムされてるのわかります。実は私も。」

想定外。

#twnovel

妹

私脳内妹。お兄ちゃんの脳内に住んでるの。

この可愛さでクラクラ眩暈をさせちゃう私、いつだってお兄ちゃんの頭痛の種。

ね、大好き。ずっと一緒よお兄ちゃん。

「摘出しました」

きゃー何よ、つままないで。

「大きい腫瘍ですね」

失礼しちゃう、あ、イケメンだからいっかー。てへぺろ。

#twnovel

NO

最近気になるフォロワーさんがいる。

とにかく趣味が合う。

それどころか僕がツイートしようとしてたことを呟いたり、考えただけで忘れてた

[#twnovel](#) を呟いたり。

考え方がまるで同じ。話してもいないのに僕もう恋しちゃってるかも。アイコン可愛いし。

あ、呟いてる。

「俺俺、お前の脳」

手品師

お爺さんは手品師だ。黒い帽子で鳩を飼う。
僕らの遊ぶこの公園でいつも手品を見せている。
カードマジックはいつも失敗。お爺さんは不器用だ。
肩を落として帰りの支度。さあここからが本番だ。
呪文を唱えるお爺さん。鳩が大きくなっちゃった。
すごいねすごいよ、魔法使いはいるんだね。

#twnovel

恋の呪文

あの子の嫌いを好きにする呪文を買った。

彼女を呼び出すと早速呪文を唱える。不審な顔。それも今だけだ。

「ほにやららきみがすきー」「私も」

凄いなよく効く呪文だ。

#twnovel

人を騙す事など簡単でございます。特に恋が絡めばね。

呪文？そんなの嘘に決まっています。恋は伝えたもん勝ちですよ。

恋人相談所

恋人が見つからないのって言ったら警察に相談しなさいって。

最近そんなサービスやってるの？

交番へ行くと「記入して下さい」って。

名前不明、男、30才程度。特徴は一、背が高い福山君似、職業は医者で。

3日後、交番から電話が。

条件通りのイケメンが現れた。これ貰っていいのかな？

#twnovel

ミクの日

「将来は初音ミクになりたいです。」

最近多いのよこういう子。親がボカロ好きとかなんでしょ。

「そうなんだ。ミクちゃんはお歌上手だもんね。」

私は好きじゃないけどね。無難に返事。

「先生、ミクさんは単にオタクの歌姫じゃない。今や日本が誇る文化で（2千字省略）」
消失したい。

#twnovel

鏡よ鏡よ鏡さん

「画面を鏡の代わりにできるアプリ？」

「うんでもちょっと改良済み」「見せて。違いは何？」

「鏡よ鏡、世界で一番美しいのは誰？」

「君だ。判っている癖に悪趣味だな。」

「嘘」

「私の言う事を、信じられないのかい？」

「うん」

「仕置が必要だな。今夜は眠らせない」鏡がどうやって。

#twnovel

温泉婆ちゃん

その温泉にいつもそのお婆ちゃんはいた。

彼女がその温泉で滑って転んで一週間。温泉に来ない日が続く。

「なんか温泉の質変わったよね？」

確かに私もそう思った。つまりこれって。

お婆ちゃんが転ばないよう、次来たときには手を引いてあげよう。

指先だけが綺麗になってしまうかも。

#twnovel

8時

8時前出勤。いつも黒猫が目の前を通るのに今日はいないっていい日な予感？

と思いきや携帯の時計が止まっている。

駅の時計も。よく見ると電車も車も人までも止まっている。

困惑して帰宅すると家の前には黒猫。

「お前時計の8なんだから短針の俺様に来るまで行っちゃだめにゃ」

8？はい？

#twnovel

王様ゲーム

「王様ゲームやってみたい」学生時代の友人達との家飲み中、妻がそんな事を言い出した。酒の勢いも手伝ってスタート。いよいよ妻が王様だ。

「王様の言うことは絶対よね？」

確認する妻。皆頷く。

「王様と3番は離婚！」「3番私。離婚不成立！」「あーもう残念」
実に悔しそうだね、妻。

#twnovel

花のように

花のように美しくなりたいと願ったら、たおやかな胡蝶蘭になった。

鉢の中、他二人と同居中。

「その蝶私の。色目やめて」「昨日の蜂イケメン」「花卉のこのラインくびれ欲しい」

今までと似通った日々。逃げ場のない分むしろ辛い。

私は美しさはそこそこでいいから人になりたいと願った。

#twnovel

あーあ、やっぱりね

「あーあ、やっぱりね。」

校舎裏、片想いの彼と友人が向かい合う。

気づいてた。彼女も彼を好きだって。

あの二人って仲がいいからきつとうまくいくんだろうな。

いけない、目があつた。

手を繋いで彼女が彼を連れてくる。

「振られちゃった頑張って」

彼女は私に彼を押しつけ走り去った。

[#novel10](#)

料理

お料理って世界を創世することなのと彼女。

夕食はカレー。

鍋の中では沢山の具がせめぎ合い、味が混ざり合う。この混沌は確かに世界。

彼女は呟く。

「玉葱が 肉に宣戦布告してる。あっお芋、合併された。スパイスが爆弾を作った？」

困惑の僕。

「冗談よ」

鍋の中から焦げ付いた臭いがする。

#twnovel

洗浄機

禁句の檻に「頑張れ」が入れられた。

人々に誤解を与え時に命を奪うという罪だ。

そしてとうとう「愛」までも。

憂いた学者は考えた。

これでは言葉が消えてしまうと、「言葉の洗浄機」を発明した。

後付のイメージを洗うのだ。洗

浄機はフル稼働。今後の課題は汚染された排水の処理である。

#twnovel

二人三脚

「君と二人三脚で生きてきたい」突然の求婚に戸惑う。

どうということ？彼の目的がわからない。

私達、2人で4本の足があるのに何故わざわざ足を縛って3本にするの？マゾなの？それとも束縛するぞって脅迫？

彼は笑った。

「妄想ダダ漏れてるよ。あのね、何脚でもいいから側にいてね」

#twnovel

れんげ

れんげで作った花指輪。

大きくなったら結婚しよう、小さな指で結んだね。

私にとっては約束だった。君にとっては何だった？今

日で結婚する君へ。私はれんげの花を贈る。

リボンをかけて、君に渡すと少し笑って少し困って有り難うって呟いた。

君なんて私から願い下げ。

結婚、おめでとう。

[#twnvday](#)

高嶺の花

君は高嶺の花だから、僕にはとても手が出ない。
けれども僕は知っている。花っていつか散るんだよ。
いつか君が散ったなら、その花弁をその種を、僕が奪ってみせるのに。
今日も君は綺麗だね。その高嶺から彼の元へ、白く馨る大輪の花嫁。
僕は君の散り際を、ずっとずっと待っている。

[#twnvday](#)

桜の詩

詩集の中、桜の花弁が何枚も挟まっていた。
あの人縁側でこの本よく眺めてたものね。
それにしてもすごい量。どれだけ長い事この頁を開いてたのかしら。
記されてたのは、桜の詩。
桜と共に命を散らした恋人を想う愛の詩。
馬鹿な人。人の心配ばかりして。
花弁と共に本を閉じた。
春が来ます。

[#twnvday](#)

花咲く旅路

あーんどいて、遅れちゃうー。
毎年あんな大変なスケジュール組むんだもん。
遅れていいって言うけどあたし、期待されたら頑張っちゃう。
がっかりされるの嫌なのよ。
大和撫子たるもの、皆様にご迷惑、掛けられないでしょ？
と撫子ならぬ桜の精は思った。
今年も頑張って桜前線追い越すわ！

[#twnvday](#)

ホワイトデー

ホワイトデーに返事をするよと言った彼。

私を呼び出しクッキーをくれた。

「俺、留学する」まさかの展開。

「そのクッキー作ってたらさ、お菓子作りに目覚めた。フランス行くよ。」

そんな。

「お前の事好きだけどそんなわけで付き合えない。幸せにな。」

私は一体何を責めればよいのやら。

#twnovel

南極の植物

「お花って何？」

「綺麗な植物よ」

「植物？」

「生き物よ」

「お喋りできるかな」

「声は出ないの」

「ええ？」

「そして動けないわ」

「ええ？」

「そしてとても綺麗なの」

聞けば聞くほどわからない。

ペンギンの坊やは考えた。

「もしかして、ママ、あれのこと？」

指さした大空に太陽が光る。

[#twnvday](#)

一体型

ツイッターが気に入りすぎて、僕はツイッター搭載を決めた。

常に自分にTLが流れ何一つ逃さない。

「おやすみ」っていう呟きへのリプに朝まで何も返せないのが気になってたけど解決。

ただ余りに即リプ全リプなので、僕はツイッター内で一番の高性能BOTの名を欲しいままにしている。

#twnovel

時間

「10分眠るつもりだったのに」時計を見ると30分経過。

遅刻確定にあたふたしていると時計が言った。

「30分経過を10分で事にしてやろうか？」「お願い！」

僕は魂を売った。

定刻仕事へ。それにしてもなんか今日、昼休みなかなかこないね。

僕は気がついた。時間、3倍になってる。

#twnovel

うっかりさん

「最近おかしいんだ」

「何？」

「毎日贈り物が届く」

「誰から？」

「知らない人」

「え？」

「お腹空いた時にピザ届いたり欲しいなと思ってた本が届いたりする」

「もしかしてお金自腹じゃない？」

「うん当たり前じゃん」

「もしかして量桁違いでしょ」

「うんうっかりさんみたい」

お前がな。

#twnovel

桜の木の下

桜の木の下には死体が埋まってる。恋の。

恋の記憶を再生させて薄紅色に咲き誇り、その運命をなぞるよう、ひらりひらりと散っていく。

恋はきっと気づくだろう。散りゆく花の美しさ。

散った自分を悔いる事など愚かな事だと笑うだろう。

そしてきっと準備を始める。

またもう一度咲く為に。

#twnovel

追われる女

あたし今まで沢山の男達を追いかけさせた。

どの男達もあたしの魅力にメロメロだった。

権力？金？バカにしないで。努力賞を与えるような安い女じゃないけれど、時々ふっと思うのよ。

あたしは高嶺の花だけど、愛してくれるあの人に、笑ってあげてもいいかしら。

あたしは夢。追いかけて。

#twnovel

探偵物語

「犯人が解りました」探偵は宣言した。

「今日の犯人は水瓶座B型。凶器アイテムは鈍器よ」ざわざわ

「こいつ当てはまる」「お前か」

「そうよ私よ。そこまで言われたら逃げられないわ。私、彼女が略」

#twnovel

「何今回の探偵」

「占い師探偵好評す。今最も視聴者を納得させる根拠は占いですよ」

月の人

僕の街には線路があって、線路の上には電車が走る。

地球のどこにも止まらない電車。

誰かが言ってた。月の様なものだって。

踏切の向こうの小さな宇宙。

宇宙の中には女の子。電車の中から僕を見る。君は遠い月の人。

可愛い君に触れたいけれど、見つめ合う僕ら、恋に落ちるのが精一杯。

#twnovel

ハンバーグの素

手を汚さずに出来るハンバーグの素があるんだって。

ハンバーグ大好きだけど手が汚れるのが嫌だった私に、待ってましたの新商品。すぐを買う。

何々挽き肉と卵を入れるだけ？

困惑する。

ハンバーグって挽き肉と卵の調達時、命を奪って手を汚すのに。

私は溜息をつき、今日もまた手を汚す。

#twnovel

虹色ポエム

お星様が流れたの。
きらきら光ってこの胸に落ちた。
星を糧に、燃える炎。
儚くも強く、激しくも脆い。
揺れもしないで真っ直ぐ燃える。
全てを侵して全てを拒んで。
炎の名前を知りたいの？
何より熱い炎の名前。
この胸の炎は恋。
残酷な純粹に光る銀色。

[#虹色ポエム](#)

新作

この作家、トリックが斬新で楽しみなんだ。

驚きを求めてページを捲る。

「え？」白い。

登場人物紹介以外何一つ記されていない本。

凄い、この謎解いてやる！

決意に反して難航しネット検索。

「乱丁本の存在を多数確認致しました」

あーうん、そうじゃないかなとね。

炙ってなんかないです。

#twnovel

もしかして

[#twonovel](#)

「もう食べないの？」

「何だか食欲なくて」

口元を押さえると義母の目が光る。

「もしかして……」

あー、悪阻バレたか。妊娠まだ秘密にしたいのに。

「嬉しい、前からお腹の事気になってたの。メタボよね。減量してくれれば嫁として認めやすいわ」

認められてなかった？

[#novel10](#)

中二

「中二病の可能性がります。検査しましょう。」
やれやれ僕の崇高な思想、勝手に名づけないでくれ。
僕は必ず解放される。漢字テスト？くっ読めたら入院加療か。僕は白紙で提出した。
「炎くらい読めるだろ？白紙提出とか中二王道だねはい入院。」
汚らわしい大人達、いつか殲滅する。

#twnovel

回轉木馬

回轉木馬に並ぶ紳士。

遊園地には不似合いな彼を、皆がヒソヒソ噂する。

順番がくる。彼は一番大きな馬に乗り込む。

音楽が始まる。回轉木馬が動き始めると、紳士を背にしたその馬は空へと走り去っていった。

白い鬘が青に映える。

空からのお客は馬で来る。馬を繋げる場所は限られてる。

#twnovel

かくれんぼ王

かくれんぼが得意だ。あまりにも隠れ上手な僕は、かくれんぼ王となる。
隠れに隠れて、隠れ就職、隠れ交際、隠れ結婚を経て現在隠れ家庭生活中。
僕を家庭内で見つけられる者は誰もいないし最早探そうともしない。
5年以上、家族と会話もないけれど、かくれんぼ王だし仕方ないよね。

#twnovel

医療

「これからの医療はアミューズメントです」
安全、技術の高さはもはや当たり前。患者を集めるにはプラスワンの何か。それが笑いだと彼は言う。

#twnovel

「胃カメラが、綺麗にスタート。喉を今、通った！桜並木のような美しい食道を抜け胃へ到着。
あつたー。これが、胃癌、胃癌です。末期～」

桜前線研究所では、只今臨時研究員を募集しております。

全国各地の桜の名所でお花見の場所取りの振りをしながら、思い思いに過ごしませんか？

誰にでもできる簡単なお仕事です。衣装住居は当方負担。

詳細はお電話で。サクラサクサクラサク！

[#twremix](#) [#twnovel](#)

写真

彼は撮る。全ての人を。全ての海を。全ての生物そして機械を。
カメラの中に地上の全てを収めると、依頼主へとそれを届けた。
依頼主は神。カ
メラを受け取るや否や、瞬く間に神は世界を無に返す。
この世界は失敗だった、次こそは。
写真を選び新世界へと解放する。人は未だカメラの中。

#twnovel

文字製品収集家

文字が生まれて以来、美しい言葉、整った文章等、後世に伝えるべき文字製品を集めてる。

昔は大変な作業だったがネットの普及でかなり楽になった。

私は特に ツイッターをよく使う。

今日もふぁぼり、フォローし言葉達を集めるのだが。

「スパム報告しました」

なんだか最近うまくいかない。

#twnovel

僕BOT

僕はBOTって言ってもプログラムじゃない。俗に言う手動BOT。

あの子の好みをリサーチして作った最強のキャラ設定。

彼女を骨抜きにした後「実は僕です」って名乗るんだ。

あとは彼女のフォロー待ち。

彼女ツイッターしてないんだけど、僕の気持ちを気づかれず誘うにはどうすれば。

[#twnvday](#)

ツイノベ作家

大好きなツイノベ作家さんが急に眩かなくなった。

作品の世界観が好きだったのに。

忙しいのかな。スランプなのかな。まさか死んじゃってないよね。

読書欲が満たされずに本屋へ。

あ、この名前。彼じゃない？

そこには、140字のファインダーから解放された美しい世界が広がっていた。

[#twnvday](#)

借金取り

「払えないならこれは貰う」「それだけは勘弁して下さい」「きっちり耳揃えて金返せよ」

#twnovel

俺は血も涙もない借金取り。

借金の形はツイッターアカウントだ。これが結構効果的。

「カミングアウトお！実は女装好き><」

52才会社員♂になりすまし呟く。

明日までに金は返るだろう。

星降る丘

人の願いを叶えた星は、夜中にそっと地に落ちる。

貴方は何を叶えたの？

美貌を与えた貴方は薔薇に。希望を贈った貴方はレンゲ。恋を叶えた貴方はそうね、チューリップなどどうかしら。

星降る丘に少女が一人。空を見上げて星を待つ。

少女は星を花にする。

秘密の花園。また星が降る。

#twnovel

お手紙書いた

君からの手紙は手元に残せない。

「読んだら処分して」そう書いてある。

僕らの家は敵同士。けれど家の事情なんかで僕らの恋は破れない。

暗号の手紙で愛を育む。この暗号やけに難しい。

「さっきの手紙のご用事なあに」って暗号で書いて、届いた方はパクリ。

白山羊ちゃんに想いよ届け。

#twnovel

天国ネット

天国とネットが繋がって、僕も時々妻と話す。

「私二次元みたいなもんだし再婚しなよ」と笑う妻。

再婚予定、実はある。けどなかなか言えなくて、意を決し今日、君に伝える。

「おめでとう」妻は笑って、それから泣いた。

「はい君のね。結婚しよ」

指輪を見せる。

僕は二次元と再婚した。

#twnovel

金平糖

瓶に金平糖を入れたら宇宙になった。

ふわふわ浮かぶ金平糖。ひとつ手に取り噛ると甘い。

なんだやっぱり金平糖か。

ひとつまたひとつ。

「臨時ニュースをお伝えします。星が次々に消えるという現象が」

まさか、ね？僕は金平糖を心持ち足して、瓶の蓋を閉じる。

面倒な物を手に入れたかも。

#twnovel

酩酊述べる

深夜2時。

空いたワインの瓶の底、小さな人が座ってた。

どうしたの？って尋ねたら、だって必要でしょう？って。

私は君と恋について未来について話したね。

気がついた時は朝の光。そして君は消えていた。

君はどこ？期待して今日も。

#twnovel

ってことなんれ、しかたなく瓶あけるんれすよ？

咽頭痛

朝起きたら喉が痛い。

あーんと口を開けて鏡で見ると、いがいがの何かがいる。動いた。

「あの、あなたは？」

「我は侵略者。お前の魂を果てるまで苛む！」

いがいがは言った。

「困ります」

「ほー。我が使命拒むか？人は増え過うわー」

がらがらぺっ。

はいはい言葉通じないさようなら。

#twnovel

桜前線

見知らぬ少女が庭の桜の下にいた。
近頃草花が荒らされるの、この子のせいかしら。
「勝手にお庭入らないでね」注意したら逃げ出した。
辺りの桜が咲き始めても、庭の桜は沈黙を保つ。
そう言えば、桜前線って幼子くらいの速さって聞いた。
来年はお菓子でも準備して、お迎えしようかな？

#twnovel

焼きそばパン

「焼きそばパン買ってこい」

やっときた！この役目は僕らにとっては憧れの的。

前任の奴はホテルのシェフに作らせたそばを入れてたっけ。

さあ僕はどうする。

「ちょ、何このそば軟らけー」

「ちゃんぼん麺の焼きそば入れました！手作りっす！」

「そ、そか（コンビニの普通のやつ食いてエ）」

#twnovel

鏡の国

月曜日。憂鬱な気持ちで歯磨きしてたら

「ね、1週間私と変わらない？」

鏡の中の私が誘う。

最近仕事、辛いんだよね。私は私の誘いにのった。

鏡の中の生活は快適。だけど映る範囲しか世界がないのは意外だった。

ってことは。

#twnovel

「仕事っていうの？もう来なくていいって電話きてたよ」

写真嫌い

写真嫌いの祖父。

幼い頃の写真は自ら破棄、成人してからは命がけで写真を避けた。

偏屈な祖父だが写真に魂を奪われるのを心底恐れていたらしい。

そんな祖父も癌には勝てず、昨日病院で死んだ。

「困ってるの」「遺影？」

「写真、レントゲンくらいしかないんだけどいいかな？」

いいのか？

#twnovel

しゃぼん玉

しゃぼん玉を子供らは追いかける。

世界を映して高く、高く。

キラキラ光るしゃぼん玉。

パチン。割れる。映しだされた花畑ごとシャボンが消えると、地上の花畑も消え失せた。

パチン。お次は子供達が消え失せた。

高く高く。もっと高く、街中を映せる程まで上昇したしゃぼん玉。

パチン。

#twnovel

泣き虫

よく泣く君から泣き虫を捕まえて、虫籠の中に閉じこめた。
君は涙と無縁の日々。
仕事で嫌なことと言われても、涙がでないと嬉しそう。
喧嘩しても泣かない。仲直りしても泣かない。笑い過ぎても泣かない。
僕は、内緒でそっと泣き虫を解放した。
君の涙を拭くお仕事が僕は結構好きみたい。

#twnovel

泡になる

昔、足を欲しがった少女は恋も命も失った。
お前に必要なものは本当に羽か。魔女が問う。
頷く少女。そうか覚悟の上ならば。
魔女は少女に羽をつけた。
足も羽も必要なものか。恋をするのにそんなもの。
泡の海、少女と恋が眠る海。
永遠に恋をするためだけに、恋に殉じて泡となる。

#twnovel

大切なもの

大切なものは見えないの。

携帯の向こうで妻が言う。本当は側にいるんだけど見えないだけと言いたいらしい。

遅刻なのに。

指令通り入った焼肉屋。頼んだカルビと同時に現れる妻。

「愛するカルビが現れたから私が見えるのね！」

カルビ、見えてるよ？

っていうかカルビに負けるとかいいの？

#twnovel

一緒

「私まだ準備できてないかな」

「最初とかちょっと怖いな」

「あ、じゃさ、みんな一緒は？ねえそれがよくない？」

「そうしようよ」「絶対だよ？絶対だよ？」「せーの」

#twnovel

「今年もようやく桜の花が咲きました。1、2、3つ程咲いております」

桜は、女子力の低い順に咲く。かもしれない。

#twnovel

僕は魔法を手に入れた。

ツイッター素敵だね。

この魔法で、本当も嘘に簡単に変わる。

どうせ言葉なんか伝わらない。だったら本当でも嘘でもいい。

何だって言えるって事が凄くない？

そう思った。

気がつけば僕はこれなしでは何も言えなくなっていた。

「おはよ [#twnovel](#) 」

リアルでも。

赤い信号

その信号はいつも赤。

道の向こうの彼女の元へ、僕はなかなか渡れない。

何日も何日も。何ヶ月も何ヶ月も。何年も何年も。

渡れない道。僕は段々年をとって、何を待っているのか忘れ、信号は朽ちて、僕も朽ちた。

僕の跡には黄色の水仙。

ゆらりとゆれて、それすらやがて消えていく。

#twnovel

糸

糸が出てた。

引っ張ってみたら何という事でしょう。足下から自分がほどけてく。

俺どうなるの？

だけど中途半端は良くないとさらにほどく。

ああ、もう見えない聞こえない考えられない消失。

#twnovel

俺は意識を取り戻す。

彼女が俺をセーターに再形成したようだ。

でさ、俺を着ているこの男は誰？

砂時計

おちるだけの簡単なお仕事です。
簡単ならと応募したらすぐに働くことに。
部屋の中に集められた僕ら、順番に穴に飛び降りてく。
飛び降りた先はまた部屋。
同じように穴に飛び降りる。繰り返し落ちる僕ら。
徐々に思考が奪われる。
おちるだけ堕ちた僕らはやがて、時を伝える道具となった。

#twnovel

長らえる

楽しい会話、美味しいご飯、切ない逢瀬。

全て必ず思い出に変わる。

思い出だっていつか必ず消えるのに。

全てがなかったことになるのに、どうして進んでいくんだろう。

立ち止まって思うんだ。

今終わっても、おんなじだって。

そんな風に思いながらも、今日も生き長らえている。

[#twpoem](#)

お針子天使

天使の中には世界の綻びを繕い続けるお針子部隊がいる。

闇の支配者が破った亀裂や、悪鬼が暴れて作った穴などを繕っている。

この季節は特に忙しい。

「隊長 追いつきません」

「死ぬ気でやれ」

「3日寝てなパタッ」

「しっかりしろ」

綻び続ける桜を繕う事は難しく、今年もまた敗北の模様。

#twnovel

研究者

過去の遺物、ツイッター研究の権威の彼には解らないことがあった。

#twnovel というタグだ。

多くの人々がここで創作をしている。

何故こんな一銭にもならない場所に物語を捧げるのか。

もはやこれしか理由が思い浮かばない。

「これら創作は神への供物である」

意味不明な情熱は大抵、恋愛か宗教。

20XX年、地上からある食材が消えた。

大量消費する悪魔が現れたのだ。

だが使わなくてもどうにかなるため、あまり取りざたされておらず、一部のシェフ達が魔王討伐の旅に出ていることを我々は知らない。

今日は鉄人勇者が、明日はドヤ顔勇者が。

いざ行かん、MOCO'Sクエスト！

[#twnovel](#)

花占い

花占い専用って花があった。

花卉枚数調整済みかと思い尋ねると

「そんな生易しい花じゃない」って。

試しに買う。

好き嫌い、これは好きで終わりそう。

好き、え？

花の中心には小さなおじさん。

了解、と言うと消失した。

数分後、電話が鳴る。「私も好き」彼女からだ。

おじさん、何やった？

#twnovel

派

彼女が出来たら貴方はどうする？

A：皆に見せびらかしたい

B：こっそり愛でたい

ツイッターでの貴方の幸せが解ります。

Aの貴方は広く知って欲しい！RT派。

Bの貴方は大事なものは愛！ふぁぼ派。

彼女いない貴方は作るそこから始めてね。

科学的根拠は？だってこれ #twnovel ですから。

鳩時計

鳩時計の鳩が逃げ出した。
自由が欲しいのだと飛んでいった。
空っぽの鳩時計は時を告げない。
淋しく思っていると、くるっくーと啼く声が。
どうやら庭の方からだ。そっと覗くと鳩がいる。
「くるっくー（ご飯食べにきただけだ）」
って、お前、食べたりしないじゃん。
僕の時計は庭で啼く。

#twnovel

レバ刺し

フグ「レバ刺しがやられたようだな。」

貝「くくっ、奴は我ら食中毒四天王の中でも最弱...」

フグ「奴より大きな害をもたらす猛者はたくさんおるというのに運のない奴よ。お前もそう思わないか？」

蒟蒻ゼリー「.....（俺、食中毒は起こさないんだけど）」

#twnovel

小さな奇跡

エイプリルフールだからこそ言えることってあるよね。
例えば片想いで一度しか会ったことのない君にプロポーズとか。
当然本当のことなんだけどね。

[#twnovel](#)

「結婚して下さい」「喜んで」
ねえ、君。それは本当なの？嘘なの？奇跡なの？現実なの？

[#twnovelOFF](#)

| ·ω·) < エア参加

嘘つき

嘘つきは泥棒の始まりっていうから嘘つきの僕は泥棒になった。

だけど犯罪者になりたくなくて、君の心や優しさや笑顔。

そんなものを盗みだした。

幸せな日々。たまらず僕は告白する。

実は僕は泥棒だって。

そしたら君は笑って言った。本物の嘘つきは、正直に泥棒になんかならないのよ。

#twnovel

淡雪

淡雪の 片方からの 恋に似て 溶けてしまえば 跡形も無し

#tanka#jtanka

3210

3 2 1 0と数字を遡り君と進める新しい年

#tanka#jtanka

紅白

白黒を つける勇氣は ないけれど 紅白だったら つけられるのに

#tanka#jtanka

正月

酌み交わし おでかけしない 誓い立て ふわりふわりと 過ごす正月

#tanka #jtanka

去年

喜びか 悲しみなのかを 決めぬまま 君と過ごした 日々は去年に

#tanka #jtanka

笑っても 泣いても 誰かを憎んでも いつもいちにち 24時間

#tanka#jtanka

あめゆき

雪と雨 冷たい方が 綺麗だと 眩く貴方は 雨を愛する

#tanka#jtanka

何度でも

何度でも 君に好きだと いう僕は 溶けては落ちる 雪と似ている

#tanka#jtanka

雨

心拍を たしなめ整え 落ちる雨 同じ速度の 私と世界

[#tanka #jtanka](#)

辛い

辛い字 からいつらいと 二通り 今日の貴方は どちら派ですか？

[#tanka #jtanka](#)

38度線

緊張が 消える38度線 熱在る僕と 揺れる風呂の湯

[#tanka](#) [#jtanka](#)

味

好きですと 伝えた日から この恋は 味を変えたの 甘さを苦さに
[#tanka](#) [#jtanka](#)

スイーツ

甘い物 苦手だなんて 言う割に どうして私を 恋に誘うの

[#tanka](#) [#jtanka](#)

冷える指先

文字を打ち 指先冷えて いくけれど やめない止めない 妄想言語化

[#tanka #jtanka](#)

チョコ縛り

甘い物 嫌いな男が 多い中 チョコの縛りは 愛の試練か

[#tanka](#) [#jtanka](#)

甘味

チョコレート 甘みは砂糖 でできており 女の子 甘みは恋で できており

[#tanka #jtanka](#)

スプーン

初めての 食事を運ぶ スプーンは 人の業へと 君を誘う
珈琲と 砂糖を混ぜた スプーンは 1人淋しく 2人眺める
温かい シチューに浸かった スプーンは 掬ったつもりで 救われていた

[#tanka](#) [#jtanka](#) [#縛り短歌](#)

充電

心ない 君の嘘さえ 沁みる夜は オフラインして 独り充電

[#jtanka](#) [#tanka](#)

梅

梅の花が 寒さの中で 開くのは 春を包んで 隠してるから

[#jtanka](#) [#tanka](#)

数字

10のうち 1喜びで 9憂い 1の為にも 共にありたい

[#jtanka](#) [#tanka](#)

切り裂く

見え透いた 嘘が心を 切り裂いた 切れぬ刃物の 傷は痛くて [#tanka #jtanka #縛り短歌](#)

できるなら 君の世界を 切り裂いた 最後の人に 僕はなりたい [#tanka #jtanka #縛り短歌](#)

亡き祖母の 綺麗な着物 切り裂いた 生まれ変わって また側にいて [#tanka #jtanka #縛り短歌](#)

君の桜

突然の 君の告白 時を止め 落ちる桜に 現実と知る [#君の桜 #tanka #jtanka](#)

紅茶とチョコレート

温かい 紅茶と甘い チョコレート 欲しがる今日は 疲れているのね

[#tanka](#) [#jtanka](#)

足跡

悲しみや 怒り切なさ 喜びの どれを抱いても 同じ足跡

[#tanka](#) [#jtanka](#)

かみなり

電話越し 微かに聞こえた かみなりが 5秒後聞こえる 距離が切ない [#縛り短歌 #jtanka](#)
[#短歌 #tanka](#)

守るのは おへそであった かみなりを 今はPC 守って伺う [#縛り短歌 #jtanka #短歌](#)
[#tanka](#)

あるこほる

赤ワイン 日本酒共々 お待ちかね どちらを愛でるか 迷う幸せ

[#jtanka](#) [#tanka](#)

春

片思い 叶って君に 春が来る 春が僕なら 春が僕なら

制服の 季節を終えて 春が来る スーツ姿が やけに眩しく

[#tanka](#) [#jtanka](#) [#縛り短歌](#)

さくらさく

さくらさく さくちるさくちる さくらさく さくちるさくら はるはまたくる

[#tanka](#) [#jtanka](#)

片恋

この恋を どうかこのまま 叶えずに どうかこのまま 好きでいさせて [#tanka #jtanka](#)

ポケット

ポケットに手を突っ込んだ。

入れておいたはずの鍵がない。それどころか底がない。穴は、ない。

もしかしてこれは俗にいう四次元ポケット？ゲットしちゃった？

どんどん手が入ってくる。

肘まで余裕。肩まで余裕。頭も入って腰までも。凄いなどこまで入るんだ？

そしてポケットだけが残った。

[#書き出し](#)

最果て

最果ての森の奥には、魔女が住んでいる。

魔女は森を、否、森で守っていた。

魔女は知っていた。最果てであるが故この森の向こうで世界が途切れる事を。

二度と戻れぬその奈落。

魔女は人を守っていた。

甲斐なく人は森に入る。惑わせる魔女。

守られているとも知らず、彼は魔女を倒さんとする。

[#書き出し](#)

あなたはだあれ

「貴方は誰ですか？」やっと目を覚ました僕の愛おしい彼女。
寝ぼけた君の手の甲に口吻するとその手で僕を抱きしめる。応えるように彼女の唇を舐めた。
「待って。」待てない。
するり僕の下から抜け出す。
「ミルクどぞ。貴方どこの猫さんかしら。人のお家、勝手に入っちゃダメよ。」
にゃー。

#書き出し

こしょう

あ！こしょうを忘れた！！

こしょうと中華そば。どちらが欠けてもダメなのに。

困った僕に天使が微笑む。

「こしょう、貸せましょうか？」

マジ天使。

運ばれる中華そば。いただきます。

パラッ。こしょうを入れ、え？「これ、一味唐辛子じゃん！」

「なん？九州じゃ唐辛子がこしょうやけん。」

[#書き出し](#)

終わりにしよう

「終わりにしようか」彼女が笑って言う。
今まで何度も終わりを告げられてきた。でもいつだって泣いてたのに。
迂闊にも動揺する。
「本当にいいの？」
頷く彼女。
きっと彼女は大人の階段を登ったのだ。
負ける度に泣きながら、もうオセロ終わり！と荒くれてた娘の成長が父は少し嬉しくも淋しい。

[#書き出し](#)

目覚め

ところで、3865回目の朝を迎えて、僕は初めて目を覚ました。

王子のキスで。そう王子の。

なんてこった。こんな童話で大丈夫か。慌てる僕に王子は言う。

「今は男も女もないよ。これは童話だ。幸せになろう。」

そうか。いいか。童話だもんね。

僕は王子と結婚し、末永く幸せに暮らしました。

[#書き出し](#)

ところで、3865回目の朝を迎えて、僕は初めて目を覚ました。

魔女がぼろりと泣いたのだ。

妖艶な悪魔と僕との情事。それを覗いて魔女は泣いた。

僕を墮落へ導く為に魔女が望んだ事なのに。

「落ちたな」悪魔がにやりと笑う。

魔女の後を追いかける。

僕は貴方と迎えたい。3866回目の朝を。

[#書き出し](#)

フラグ

この戦いが終わったら、僕は。

僕は、どうしよう。

結婚？相手がいない。田舎に引っ込む？都心生まれ。僕は死亡フラグすら立てられないのか。

果てなき戦いに絶望する。

僕はこの国最強のロボ。

戦いが永遠なら僕が壊れればいい。そう思ってたのフラグ頼みだったのに。

ねえ、いいフラグなんかない？

[#書き出し](#)

名前

「私の名前を、知っていますか？」

彼女はどこか寂しげな表情を浮かべながら、僕にそう問いかけてきた。

「醤油チュルチュルだね。」僕を押しつけ男が言う。溜息をつく彼女。

「灯油の物なのにね。」涙。

僕は知ってる。

君の名前は、石油燃焼器具用注油ポンプ。

安心して。本名は普通なんだよ。

[#書き出し](#)

理想のあなた

早く消えてしまえばいい。私の好むあなただけ残って、他のあなたは存在しなければいい。

どんな彼が残って欲しい？闇が私に囁いた。

私の事を誰より愛してそれからそれから。

欲望を呑み込み闇は消えた。

翌日、あなたに会う。

理想のあなた。だけど私の愛するあなたはもうどこにもいなかった。

[#書き出し](#)

あいいろ

藍色の君は、愛してくれと哀願したね。

愛したくて逢いたくて。

相まみえても愛の所在は曖昧で。

藍色光る雨の中、相合傘で他愛ない会話。

それから合間に挨拶みたいな I love you。

親愛と恋愛。相容れぬ愛に、相對しても解はなし。

藍色の君、それでもいいの？それなら君を愛してる。

[#書き出し](#)

地球愛

私が立ち上がろうとすると、いつものように地軸が急に傾いて私を押し倒した、私は地球に嫌われている。

雨降りに傘を買えば晴れて虹が顔を出す。とにかく転ぶ。脱出するぞとロケットに乗ると毎度地球に逆戻り。

「好きだから倒すし虹出すし離さないの。転ぶのは知らん。」

愛は時々見えにくい。

[#書き出し](#)

広大なる海

広大な海を目の前に、僕は立ち尽くしていた。

水面は輝き美しく誘う。

けれど僕は知っている。大勢の仲間がこの海に飲み込まれた事を。

息をのむ。臆してはいけない。

この先の世界へ旅立つのだ。びしゃ。

「長靴だからって水たまり入らないの！」

ママ、男には行かなきゃいけない時があるんだぜ。

[#書き出し](#)

狭量な彼

僕は未だ、狭量なままだ。

気むずかしい僕に、皆が指を震わせる。

このせいかくは職業由来、だから変わることはない。

早速仕事を始めよう。

さあて、何を量ろうか。狭量故に1kg程度が限界であるがね。

「上皿天秤って面白いよね。私薬剤師になろうかな。」

君、ちゃんとピンセットを使いたまえ。

[#書き出し](#)

今日のような君

日差しは温かいのに、吹く風は冷たい。ちょうど今日のような人でした。

そんな君と今日でお別れ。

「腐れ縁終了」僕の気持ちも知らず笑う。

「残念だな」「何で？」切ない。

「私の好きは会えない程度じゃ変わらないのに。」

ちょっと今さらりと何て。

今日はどうやら風も暖かな1日のようだね。

[#書き出し](#)

腕時計

緩めにはめた腕時計の長針が、そろそろと待ち合わせの時間に近づいていく。

もうすぐ会える。駆け出したい気持ちを抑え歩く速度で。

君はいつもと同じようにのんびり僕を待つ。

逢いたかった。君を後ろから抱きしめる。

「12時か。」腕時計の針が重なる。

腕時計すらニコイチなのに俺ときたら。

[#書き出し](#)

結末

結末はそういうことになっていた。

その本に記されていたのは僕の人生だった。

そうか、そうやって僕は死ぬのか。

平凡な毎日が記されたひどく平凡で退屈な本だった。

これが僕の人生か。

絶望する？

いや読めて良かった。

どんなにつまらないお話だって、書き方次第で味が出ることもあるでしょう。

[#書き出し](#)

機械鼠

機械の鼠は米俵の夢を見るのか？

ケ、難しいことガタガタ言うな。

夢みてどうなる。米俵ってのは喰らうもんだ。

お前ら人間もそうだろ。

好きな女は喰ってなんぼじゃそうでもない？

二次元だから出てこれない？えっちなのはいけない？夢の中で暮らしたい？

何だそりゃ、わっかんねーよ。ちゅう。

[#書き出し](#)

小人

どうりで騒がしいと思った、耳に小人が住んでやがった。

新しい穴を掘るのだと言う。

必要ない工事だと反対しても「予算の関係で」と勝手に進める。

挙げ句「労働条件改善！」と組合なんか作って賃金まで要求しだしたので、

こちらからは夜間の安眠の為に残業禁止を申し出てみた。

春闘が怖い。

[#書き出し](#)

つれづれ

こうやって思いつくままに書いてるとね、
だんだん私とこのアカウント、どちらが主かわからなくなるの。
私がこれを書いているのか書かされてるのか。
見てる人にはそれほど違いはないかもね。
例えばおやすみと呟いた後に、
私とPCどちらが先に落ちるかなんて、それはきっと些細なこと。

[#書き出し](#)

最終兵器少女

少女は兵器だった。怒りも悲しみ喜びも、痛みさえ存在しない、ただの道具だった。

本来ならば兵器としてのみの生じゃない。

誰かを癒し笑わせる事も出来るのに。

少女は結果として兵器だった。

誰かの欲望故に少女は人を傷つける。

ペンである 少女は剣となり、今も誰かの暗い呪いを刻んでいる。

[#書き出し](#)

木曜の図書館

木曜日は図書館に行こう。

窓際奥の指定席、必ずそこに君がいる。

僕達はただの顔見知り、図書館で見掛け合う者同士。

可愛い君はそう思ってるはずだよね。

だけど本当は違うんだ。僕は、僕は。

ねえ君がよく読むその絵本。その本僕も好きなんだ。

別れた妻に、よく似た君に毎晩読んだ、お伽話。

[#書き出し](#)

ぼくはいつも酸素の薄い方へいった。
空気に溺れていたかった。そうしないと現実に殺されてしまうから。
本当はわかってた。君と彼女がお似合いだって。
勝手に好きになったのはぼく。勝手に足を貰ったのもぼく。
泡になるのなんか全然恐くない。怖いのは君の拒絶。
ぼくは人魚姫。君を愛してる。

[#書き出し](#)

はなむけ

雪解け水を木々が吸い込んで、春に青い葉をつける。

咲き誇った花がやがてハラハラ落ちるのは、雪の記憶を残すから。

あの日落ちた粉雪は、君と僕との未来のように、触れる間もなく溶け消えた。

今、貴方に降る花を、僕は震える指先でそっと摘む。

桜、この恋は君の仕業か。あの日の恋への餞か。

[#書き出し](#)

介護さん

彼は介護支援専門員だった。

彼は介護施設で老人達の世話をする。

今日一人、90代の老人が旅立った。

彼は老人の退院手続きを済ませると、今度は自分の入院手続きを済ませる。

彼は80才。

定年制度が廃止され、入所待ちしながら働く事は今や普通だった。

彼の後釜には70才の若者が入職する。

[#書き出し](#)

時間泥棒

気づくと時間を盗まれていた。

1日がどんどん短くなる。けどあまり困らない。

やるべき事は短縮された時間でもできていた。だらだらしない分充実すら感じる。

1日が5時間まで減った頃時間泥棒が捕まり時間が返還された。長い。

僕は睡眠を増やし、充実の疑似1日5時間生活を送っている。

[#書き出し](#)

穴

貴方が私の代わりに飛び込んで。

深そうな穴だ。

どうしても？って聞くとコクリ頷く。

好きな子の言う事は叶えたい。だけど。困惑していると、中から小人が這い出てきた。

「依頼通り掘りました！」「これ何なの？」「恋ですよ旦那」

彼女の恋？

はにかむ彼女の手を取って、僕ら二人で穴に飛びこむ。

[#書き出し](#)

目玉焼き

彼には話していないけれど、私は目玉焼きには血液派だ。

AB型あたりで個性的な風味を楽しみたい。

白身に映える赤の美しさは言うまでもないが、最近では黒身に染みる赤もなかなかだと思ってる。

そう、これも彼には話していないけれど、私は目玉焼きには日本人の目玉派。
気が合うといいけど。

[#書き出し](#)

トンネル

うとうとする帰りの電車、いつもよりトンネルが長い気がした。

「切符を拝見します。」この路線してたっけ。切符を渡す。

「お客さん悩み深いなあ。」え？「でも不倫は良くない。」何故知ってる。

「ま、抜けないトンネルはないですから。」

抜けた。あれ誰もいない？

でもさ、確かに潮時だよな。

[#書き出し](#)

殴る

急な呼び出しを受けて友人の家に行ったら、玄関の戸を開けた瞬間殴られた。

倒れ込む。最期に見たのは友人の泣き顔。

ああ、君は後悔してくれるのか。ならば僕はこの犯罪の隠蔽に手を貸すよ。

薄れる意識の中、僕は自分の血で文字を書いた。

「犯人はヤス。」

ああ、あんまり頭働か ない

[#書き出し](#)

月酔う日

月酔う日に僕らは出逢って、毎週通う日に僕らは家で太陽が昇るまで語り明かした。
六度目の水溶日に僕らは初めて混ざりあって、先々週の緊要日に真剣な面持ち。別れるなんて。
怒揺日酷く言い争って似知幼日にはさようなら。
未熟な僕らは黙養日、愛を育む静謐な時を忘れたからかもしれないね。

[#書き出し](#)

赤い風船

赤い風船を飛ばした先に明日はあるのだろうか。

白い指先から糸が離れる。病室の窓、君は満足そうに風船を空へと見送った。

あれから1年。君の一周忌の頃、手紙が届く。

「風船のお手紙ありがとう。同封の種、植えたら花が咲きました。」

写真には彼女の好きな秋桜の花。

僕は声をあげて泣いた。

[#書き出し](#)

ぼくの海

ぼくのなかには海がある。

ちゃぷんちゃぷんと音がする。

ぼくの海の空には一羽、ウミネコにゃーにゃー 飛んでいる。

ぼくの好きな女の子、あの子は猫が大好きで、ぼくに耳をぴたっとつけて、猫がいるわと驚いた。

それからぼくらはずっと一緒。

ぼくと彼女とウミネコと。

今も仲良く暮らしてる。

[#書き出し](#)

泡

人魚姫になりたかったの。人魚姫のように、泡になって消えたかったの。
だから貴方に恋をした。幸せそうな貴方だから振り向かないと思ったの。
なのにどうして私と逢うの？私を好きだと囁くの？
愛してるなんて言わないで。今すぐ私を手放して。
私の望みはただ一つ。貴方のその手で泡にして。

[#書き出し](#)

蝶々結び

彼女は引っこ抜いた涙腺を蝶々結びにして笑っていた。

僕は思わずその涙腺を解く。

すると先から溢れる涙。彼女は再びそれを結んだ。

「この涙はもういらぬの。彼の為の涙だから。」

彼はもうここに居ない。彼女の旦那で僕の兄。

「そろそろ私も進まなきゃ。」

僕らは蝶を、青い空へと見送った。

[#書き出し](#)

砂糖

甘過ぎて砂糖吐いた3時。

甘い紅茶に砂糖菓子。なんて非道い組合わせ。

貴方の愛するお人形の私。縞子とレースと溜息と。貴方の理想に応えてた。

だけど本当は違うのよ。愛するポテチに飢えている。

少女な服を脱ぎ捨てて、ホットパンツでお出迎え。

貴方の反応予想つかない。さて、どう来るか...

[#書き出し](#)

歌えない歌

僕はもう歌えない。無邪気でいられる季節は終わってしまったから。

何も疑問に思わず歌ったあの頃。無知と若さに守られた日々には帰らない。

「ひろと君、アンパンマン好きなのにお歌は絶対歌わないね。」

ママ、気づいたんだ。今まで愛と勇気だけが友達なんて恐怖を押しつけてきた僕の罪にね。

[#書き出し](#)

かじかむ指先

かじかんだ指先を必死に伸ばして、あと5cm。

昔はこんな寒さで動かない軀じゃなかったのに指先が軋む。3cm。

嫌な予感がする。さっきすれ違った少年。彼の目は何かを決意していた。1cm。

この扉を開けて彼を追うんだ。開い t

『バルス！』予感的中。

崩れ落ちる城と共に海へ落下するロボの俺。

[#書き出し](#)

なめこ

なめこの味噌汁の味見をしたらめちゃうちゃ熱かった。

また怒られる。

「ちょっと」「はい」「貴方のお宅ではこれがお風呂って言うの？」

なめこさんはぬる湯好き。少しの沸騰も許せない。

だけど仕方ない事よ。私の夫は熱い味噌汁が好きなのよ。

女より男を取るのは人もなめこも同じでしょ？。

[#書き出し](#)

まりも

そのチョコトリュフは、まりもの味がした。

事実まりものチョコ掛けだった。

「これ何の罰ゲーム？」君がくれたから喜んだのに。

「ふざけないで、実験よ。」

それから毎日様々な素材がチョコ掛けされて渡される。

いつか君の心を素材にして欲しいな、なんて事を夢見つつ僕は正露丸を手放せない。

[#書き出し](#)

100の絵の具

夢を描くために、百の絵具を集めた。塗る。混ぜる、混ぜる。塗る。

夢への欲望を思いを巡らす度色は増え、いつしかキャンバスは真っ黒に。

だけどここで怯んじゃいけない。

僕は絵の具を乾かして、重ねてさらに夢を描く。厚みがでてきていい絵になった。

やっぱりさ、挫けない心が必要だよな。

[#書き出し](#)

かみさま

もし私がかみさまだったら、きっと君を拐かす。
あらゆる力を全て使って、君を恋へと突き落とす。
時間をかけてじっくりと、いつか私のものにする。
かみさまならば最初から、自分のものにすればいいって、そんなの何が楽しいの？
君が私に振り向くまでの切ない時間も恋なのに。

[#書き出し](#)

世紀末

299X年 時代は世紀末。

何年かはっきりしないのは、もうこの暦を使う者がいないから。

天敵が消え、始めにネズミが大きくなった。次は猫が。そして僕が。

滅びた文明 に繁る緑は生物に優しい。

人が滅び、暦が滅び、世紀末さえ滅びた今、世界は平和だが僕は少しだけ淋しい。わん。

[#書き出し](#)

初恋は

初恋は女の子でした。

彼女のようになりたくて、双子のように綺麗そっくり真似をした。

破れるしかない恋でした。

次に恋した男の子、彼女に釣り合う彼でした。

愛してるって言われる度に、二人で彼女を愛するような、そんな気持ちになりました。

初恋は、実らなくともずっとどこかで生きるのね。

[#書き出し](#)

音が降る

「音が降ってくるようですね」言った途端パラパラ音の羅列。
予報的中晴れのち音。どんどん強くなってもう会話もロクに聞こえない。
聞こえないなら言おうかな。バレないように怖い顔で「君が好き」って呟いた。
そしたら君、私の事を引き寄せて言うの。
「見れば判るよ。唇ばっかみてたから。」

[#書き出し](#)

私代用品

代用品でも満足していた。

一番貴方の近くにいるのはあの子じゃなくて私だから。

愛がない？それって何か問題かしら。

愛が心のやり取りならばあの子とだってできてない。

だってそうでしょ、彼が好きなあの子はね、心をもっていないもの。

彼のあの子は液晶の向こう、私は二次元の代用品。

[#書き出し](#)

びせき

「なんだテメェ、微分すっぞ！」

「やーん、なに言ってるか全然わかんなくてかっこいい。」

「せ、積分もすっぞ！」

「ますますわかんなくてかっこいい。」

「すみません僕が悪かったです。付き合ってください」

「最初からそう言えばいいのよ。」

[#書き出し](#)

拳銃

拳銃を突き付けて、君は静かに笑う。

「顔が強張ってる。恐いの？全力で走って逃げ出したい気分よね。ふふ、今楽にしてあげる。」

そう言って君は天高く空砲を撃った。

「よーいどん」走り出す生徒達。

「ドSスタートやめて下さい。」「やだ先生。私生徒を励ましてるだけよ。」

こんな同僚嫌だ。

[#書き出し](#)

タイムマシーンに乗って

やっと完成したタイムマシーンは、未来にしか行けなかった。
君との未来が知りたくて飛び乗ったのはいいけれど、過去に戻れる術がない。
君と僕との結婚を確認したこの5年後の世界で、生きていくしか道はない。
僕は彼女に近づいた。さあ、あとは奪うだけだ。
奇妙な三角関係が始まる。

[#書き出し](#)

降る降る

傘の骨組みが、嫌な音を立てて軋んだ。

最近空から小人が降ってくる。それを防ぐのに毎日傘が必要なのだ。

親指大の彼らの生態は全くの不明。ただ可愛いので愛玩動物として人気がある。

その為彼らが「攻めろー」と叫びながら決死の覚悟で地球を侵略しようとしている事実をまだ誰も知らない。

[#書き出し](#)

金平糖の空

黒画用紙に金平糖を広げてこれが夜空と君は笑う。

ドーナツの土星、クレヨンのロケット。病室内の幼い宇宙はこれくらい。

だけど待って。一番大切なのがない。君の好きなお月様。

君は僕の耳元で恥ずかしそうにこう言った。

「お月様は君なのよ。」

君の宇宙は僕で完成。それはね、僕も同じかな。

[#書き出し](#)

数式

いいよ、数式なんかやくにたたないんだから。

私が出した問題が解けず彼は黙り込む。

いやそもそも問題じゃない。勝手にそう判断して解きだしたのは彼。

「ごめん難しい。僕には無理だ。」って渡した紙を返された。

それどういう意味なのかな？

私はただ携帯の番号、書いて渡しただけなんだけど。

[#書き出し](#)

飼猫の夢

飼猫に説教を食らう夢を見た。

どうして貴方が独りなのか判る？顔じゃないのよ収入よ。

女はね、安定した生活を求めるの。貴方にそれが出来るのかしら。

目が覚めた途端身震いした。

最近、女が減っている。あいつら皆、人間に飼われたがる。

俺みたいな野良猫が、親父になれる日、くるのかな。

[#書き出し](#)

言えない悩み

誰にも言えない悩みがある。

悩みというか憂い事。いつの間にかに無くしてしまった、僕の大事なはずの物。

多分大事な物なのだけど、現状意外と困らない。

とはいえこれを拾った人は、困るし気持ち悪いよね。はやく見つけてしまいたい。

誰にも言えない悩みがある。

僕の顔には口がない。

[#書き出し](#)

そらいろ

空があまりに白かったから、僕は黒色を手にとった。

白黒白黒。なんだそれは。葬式みたいじゃないか。

モノトーンの空を人々は嫌った。

更に僕は天使を描く。

天使はモノトーンの空を自由に飛び回った。すると。

ポロンポロン。

奏でられる天上の音楽。

空に響くピアノの音色に人々は耳を澄ませた。

[#書き出し](#)

朝起きたら、頭にキノコが生えていた。

目の前には、小人。

「我らが女王様の通路にお前は選ばれた。名誉である。」

指示されるまま外にでると、隣の女子大生も頭にキノコ。

程なくして豪華な巨大キノコが頭を踏みつけていった。

その後キノコがもげるまで女子大生と話し、今では付き合っている。

[#書き出し](#)

午前0時

毎日午前0時に彼女の記憶はリセットされる。
そんな彼女を「いちにちさん」と子供達は呼んでいた。
「いちにちさん絵本読んで！」
ぼろぼろになったその絵本は子供達の宝物。
毎日読んで欲しいのに、大人は飽きたと嫌がるから。
「面白そうね」
昨日も読んだ絵本を捲り、子供に囲まれ彼女は笑う。

[#書き出し](#)

毒林檎

毒の入った林檎を食べよう。
林檎売りから買った林檎が毒入りなのは知ってるの。
あの林檎売りはお義母様。殺したいほど憎いのね。
お義母様、貴方の願いを叶えてあげる。私の命を捧げるわ。
綺麗な貴方への憧れを、母娘としては拒絶され、
恋に変換するしかなかった、哀れな私を忘れないで。

[#書き出し](#)

緑の血

「緑色の血を見たことある？」って彼女に聞いたら「あるわけないじゃん。」って。
「でも作る事ならできるのかな。青い血に黄色の血を混ぜたら。
黄色か。血小板輸血の時の濃厚血小板って確か黄色かったような。それならいけそう？」
いやいや、よくわかんないけどさ、青い血って普通なの？

[#書き出し](#)

玉ねぎを買いに

玉ねぎを買いに来て、10年経った。

そして次に人参を買うのに5年、肉を買うのに15年、

じゃがいも3年、トマト8年、スパイス各種を揃えるのに8年、

最後に米を手に入れる際には12年かかった。

さて、この材料を使ってできる料理は何か、そしてそれを食べるとどうなるか、答えなさい。

[#書き出し](#)

魔法使い

魔法使いになる代わりに手品師になった。

魔法使いと信じて師事した師匠は手品師だったのだ。

帽子から鳩をだす日々に小さなお客様。

「魔法使いさん弟子にして下さい」

あの日の僕みたいなキラキラの瞳。

「いいよ。毎日おいで。」

魔法は教えてあげられないけど、ドキドキな日々ならあげられる。

[#書き出し](#)

書き出し少女

この書き出しいかがですか。

街角には書き出し売りの少女。

籠一杯の書き出し。これが全て話になるまで帰れない。

辛くなって少女は1つ書き出しを手にした。優しい話を作った。次は勇気の出る話。

「面白そう1つ頂戴」

書き出しが売れていく。これが企業努力。

書き出し女王誕生の瞬間である。

[#書き出し](#)

300円の恋

その日僕は 彼女から恋愛感情を買ったのです。三百円で。

とりあえずメールのやり取りだ。だってあんまりよく知らない人だしね。

「電話番号も教えてよ」「うーん私欲しいバックがあるんだー」「贈るから教えてよ」「バックくれたらね(*・ω・*)v」

アイテム課金多そう。やっぱ三百円だな。

[#書き出し](#)

お伽話のお姫様

おとぎ話に出てくるお姫様になんかなりたくなかった。

私に恋した男の子はね、すぐに子供を卒業しちゃって絵本なんか読まなくなるの。

本棚の隅で埃だらけ。

「これだ。」「パパのご本？」「そうだよ。眠り姫。お前にあげるから大事にするんだぞ」
ご機嫌よう。

ね、目覚めのキスはまだかしら？

[#書き出し](#)

タグ違い

あっ、タグ間違えた。twrealに呟いてた。

「屋敷周りは雪で足跡はない。その屋敷に刺殺体と僕しかいない。このままじゃ僕が犯人にされる。誰か助けて。」twnovelタグに呟く推理ネタだったのに。

途端に矢のようなRT。「状況詳しく」リプまで。

今更タグ間違いですとか言えない。

[#書き出し](#)

蕾

蕾の桜もいずれ散る。

確かにそうねごもっとも。

けど散る前には花が咲くの。満開の桜。

そこに目を向けたらいいわ。

つまりえーと、花って言うのは私の事なんだけど。

ああもうっ。5歳児に嫌いって言われたくらいでそんな詩的に呪いの言葉吐かないでよね。

幼女なんかやめてこっち向きなさいよ。

[#書き出し](#)

忘れ物

午前0時にシンデレラが忘れていったものは、ガラスの靴だけではなく。

狡猾な彼女は手紙を落とす事を忘れない。

王子は未だ子供だった。

宝探しの謎解きが面白可笑しく書かれたその手紙、終着で待つ彼女を宝と信じ娶る事に疑問など持たない。

ハッピーエンドは勝ち取るもの。彼女は笑う。

[#書き出し](#)

世界と僕

どうも僕は、君に騙されている気がする。
最近まで知らなかった。空が青いって事。
最近まで知らなかった。太陽の輝きを。
最近まで知らなかった。彼女がこんなに可愛いって事。
ねえ世界。
君は僕を騙しているよね。
僕の目に嘘を映しているよね。
彼女が笑う。
ねえ世界、永遠に僕を騙し続けて。

[#書き出し](#)

貴方への手紙

貴方に手紙を書きたいの。

「元気ですか。私はそこそこ元気です。多くのものを失って、今も迷いは消えないけれど、とにかく歩みを続けてます。歩みがいつか貴方の糧になりますように。」

ねえ、貴方。歩み続けたその彼方、10年先の未来の私。

辿り着いたどこか遠くで笑って手紙を読んでいる。

[#書き出し](#)

赤毛のアン

赤毛のアンの三つ編みを燃やして、ティンカーベルの羽を筆る。

アリスの紅茶に毒を入れたら王子の薔薇を枯らしましょ。

醒めない夢から目覚める為に私は全てを捨て去った。

爪先立ちで大人になって貴方に腕を絡ませる。

隣で永遠に見てたいわ。

貴方のキスで目覚めた私に夢見る暇などもう無いの。

[#書き出し](#)

木之花咲耶姫

木之花咲耶姫はきっと風邪を引いてしまったのだろう。

満開に咲き誇る花々が次々と散り急いでいる。

姫の力でこの国の常は春。事態を憂い、姫は障子を開けた。

散りゆく桜が頬を撫でる。なんて、なんて美しい景色。これが移ろいというものか。

時々風邪を引くのもよいかもしれない。姫は笑った。

[#書き出し](#)

注文

「ご注文はお決まりですか？」

「翼折れし悪魔。黎明の瞳もな。」

「畏まりました。」

黒服の女はそう言うと姿を消し、程なくして現れる。

「召喚致しました。」

手には牛丼。ここは開店したばかりの牛丼悪魔屋。

「終焉だ。」「三百円です。」

[#書き出し](#)

悪魔→牛丼 黎明の瞳→半熟卵 翼折れし→玉葱抜

狐の嫁入り

青く澄んだ空から落ちてくる雨。「狐の嫁入りね」呟くと隣で彼が笑った。

今日は結婚式。白いベール越し目を細め旦那様を見つめる。

貴方はすっかり忘れたみたい。

あの日、罨に掛かった私を優しく逃がしてくれた事。

貴方に恋する私は狐。だけど尻尾は出さないわ。

「泣いてるの？」「幸せで。」

[#書き出し](#)

飴の日

「今日の天気は飴です」
キラーン。おかんの目が光った。
「傘の準備をお忘れなく」「ちょっと行ってくるわ」
傘を携えおかんは飛び出した。
外には既にたくさんのおかん達。
傘を広げる。勿論逆さに。
バラバラと降り注ぐ飴。
そして、その飴は、勿論おかん達の巾着に入る。
「飴ちゃんあげるわ」

[#書き出し](#)

クラムボン

クラムボンが結局なんだったのかなんて誰も未だに想像も付かない世界だけれど、かぷかぷ笑うのはわかるんだ。

君の気持ちなんて誰も未だに想像もつかない世界だけれど、僕の目を見て笑うのはわかるんだ。世界は謎に満ちているよね。

だから僕と一緒に、謎を1つずつ解き明かさない？

[#書き出し](#)

オリンピック

オリンピックが五輪から六輪になった。

大陸が6個になったわけではない。5大陸+1惑星となり、銀色の輪が増えたのだ。

新参者は宇宙人。彼らの運動能力の高さに参加を喜ぶ声は多いが、

実は裏で「金メダルを独占できたら地球は受け渡す」という密約が交わされていることを知る者は少ない。

[#書き出し](#)

金の糸

空から伸びる一本の金糸を掴んだ。
途端、すごい勢いで引き上げられる。
雲を抜け大気圏突破。まさかの宇宙、天の川。
ようやく糸が止まった時には僕は宇宙人に捕らわれの身。
今僕は動物園で暮らしてる。
贅沢な日々。近々繁殖をなんて言ってたな。
どなたか可愛い女の子、金糸を引いて僕と握手。

[#書き出し](#)

私とワルツを

ここが沈んでしまうまで、ワルツを。

彼女は手を差し伸べる。

「お久しぶりね。やっと救いが訪れた。でも1つだけ聞きたいの。私、彼の元へゆけるのかしら」
踊る為の機械の彼女。愛する彼は、僕が百年前に連れ去った。

「勿論同じ天国へ」微笑む彼女。

沈みゆく船の中、僕は彼女の魂を救済する。

[#書き出し](#)

やる気スイッチ凸

やる気スイッチが壊れた。

いやいや困るよ。病院に電話したら1週間後来て下さいって。

この1週間の損失を考えると恐ろしいぜ。

そしてとうとう、スイッチが治った。

「店長、俺やっとやる気スイッチ治ったっす。今日から本気だせました！」

「え、壊れたのも治ったのも気づかなかったよ？」

[#書き出し](#)

甘味

もしも「甘味」がなかったら、きっと「辛味」も「苦味」もない。

それはきっと、ひどく平等な無味の世界。

君の愛がないかわり、嫌悪や失望だってない。

それはきっと、ひどく優しい無関心の世界。

愛さず争わず笑わず泣かず。

そんな世界はくそ喰らえだ。

どうか僕の、美味なる愛を召し上がれ。

[#書き出し](#)

チーズ蒸しパン

チーズ蒸しパンに挟まれて眠る。

これが幼い頃母親に抱かれて眠った時の感触に一番近いらしい。

つまり、おっばいに包まれる感触に最も近いという研究結果がでた。

ネットでは面白がられ、TVでは馬鹿にされる。

だが翌日、店頭からチーズ蒸しパンが全て消えたことは言うまでもない。

パフパフ。

[#書き出し](#)

溶ける月

月が闇に溶けてしまってから、5年の月日が流れた。

かぐや姫は困惑する。迎えの気配もない。

姫は覚悟を決め帝に輿入れした。

富と権力を手に入れると、都中の天才をに月まで届く塔を。

「設計させたのですが残念ながら戦で断念。それを継いだのがスカイツリーです」

「嘘だ」

「お伽話ですから」

[#書き出し](#)

空の色

茜色と濃紺が混ざり始めた空。もうすぐ夜が始まる。

もっと紺色を塗りこめて、やがては黒へ。

あれ、黒が一本しかない。これじゃあ夜は満足に越せないって、わ、時間だ。

僕は空のキャンバスに向かう。

仕方ないな、今日はあの作戦でいこう。

「5時にはしては明るいな」「朝焼けがとても綺麗だよ」

[#書き出し](#)

習慣

一日の終わり、僕の秘密の習慣。

躊躇われてフォローできない大好きなあの子のツイートチェック。

「三日月鑑賞なう」僕も空を見た。

「猫の爪の月だね」届くはずもない自分のアカウントに呟く。

「お空をひっかくのにゃ」え？もしかして。僕は続ける。

「月が綺麗ですね」「君の側ならもっとね」

[#書き出し](#)

優しさ逃亡中

優しさが行方不明なんです。

血痕もあるしもしかして殺されてるんじゃない。

そう言うと依頼主は泣きだした。

探偵の俺は調査を進める。怪しいのは…

「この事件、殺人ではありません」「本当ですか」

「優しさなどはじめからいなかった。そうではありませんか？」

依頼主は悔しそうに顔を歪めた。

[#書き出し](#)

プラネタリウム

小さなプラネタリウムの片隅で宇宙人を見つけた。

隣に座る。きっとこの中に、住んでいた星があるんだね。

「帰りたい？」って尋ねたら「別に」って。

終了後、動こうとしない君。帰る場所がないの？

「お家どこ？」

「君、勘違いしてない？僕宇宙人二世。宇宙行った事ないし家都内だよ。」

[#書き出し](#)

連れ

長年連れ添ったパソコンが息を引き取った。

熱に浮かされ視力もままならない壮絶な最期だった。

君がいなけりゃ僕もきっとお役ご免。

すぐに君の側へ行くよ。

「新しいPC、付属のマウス使いにくい」「前のでいいよ」

まさかの、再婚？

僕は若いPCと繋がった。

「可愛いね。僕が君を導こう」

[#書き出し](#)

さじ加減

愛情がひと匙足りなかったかな。

最近大人気のパンケーキ君を作ったのだけれどイメージと大分違う。

愛情を大匙3杯足して焼くだけで、愛くるしいパンケーキ君ができるはずなのに。

「我はパンケーキ君。召喚に応じ灼熱より出でし悪魔。血の契約を」

「それ苺ジャム」

可愛いと言えば可愛いかも？

[#書き出し](#)

夕焼けも朝焼け

夕焼けも朝焼けも同じ色の空なのに夕焼けの方が綺麗な気がするの。
彼女が言うから、「夕焼けの方が多くの人に見られているからじゃない？」と答えた。
だけど本当はもう一つ、秘密の理由を知っている。
だって君、西に住んでいるでしょう。
君を照らす夕焼けが、綺麗じゃないわけないんだよ。

[#書き出し](#)

千の風

死んだように眠っていたら、うっかり死んでしまった。

うん、いい人生だった。妻と子が泣いてる。ごめんな。千の風になって見守るよ。

って俺の同僚が妻の肩を抱いてる。お父さんって呼びなさい？

そう言えば俺寝る前に奴の土産の饅頭食べた。

やられた！叫んでも千の風に発言権などなかった。

[#書き出し](#)

親子丼

君のために親子丼をマスターしたのに「ホントは嫌いなの」って。
どうやら彼女、僕の求婚を体良く断ろうとしてたらしい。
美味しい親子丼作れたら結婚考えるってまるでかぐや姫みたい。
親子丼が無理難題か。きっと料理苦手なんだね。
「次はオムライスよ。出来るわけない」
君の為なら頑張れる。

[#書き出し](#)

美しき世界

君に好きだと伝えることが出来たら、この世界に未練はないと思っていた。

いざ伝えると君の答えが気になった。答えを知ると一緒に居たい。隣にいと手を繋ぎたい。

それから先は。

僕の欲望は果てしない。

未練がましく僕は世界に居続ける。

この世界の美しさ、僕は知ってしまったから。

[#書き出し](#)

船

男は船を降りた。見上げた空は、彼の地と同じ色をしていた。

空は繋がっているわ。彼女の声が聞こえた気がした。

「お帰りパパ」「貴方ご無事で」家族が出迎える。愛しさに安堵する。

しかし彼はただ一つ、秘密を胸に秘める。

海の向こう、たった1日恋をした、あの美しく不思議な人魚の事を。

[#書き出し](#)

小悪魔ちゃん

寝顔は天使だけど、君はやっぱり小悪魔だ。

熟睡してるはずなのに、膝枕をやめるとどういわけか起きてしまう。

パチリ目を開けて僕を睨みグスリだす。

もう君2才だよ？体重、生まれた時の3倍だろ？

再びスヤスヤ寝入る君。

安心しきった顔に思わず微笑む僕は君の魔力にすっかりやられてる。

[#書き出し](#)

MP

君に思いを伝えよう「MPがたりない！」えっ、声がでない。

MP回復は精神の癒し。それって君なんですけど。

俺って奴は君の力を借りないと告白すらもできないのか、あ、眠っても回復したはず。それだ。

え何君も一緒に寝たいって？

とりあえず一緒に寝るし色々するけど、遊びじゃないからね。 [#書き出し](#)

天井

天井がゆっくり迫ってきた。気のせい？

いや。嫁のポスター、アホ毛が天井に食い込んでる。

許すまじ。

僕は考えて目を閉じる。

「だるまさんが転んだ」開眼。

嫁の愛らしい目も消えた。次で決めてやる。

「だるまさんが転んだ天井動いた！」

へらっと笑い天井は僕に駆け寄る。

僕は天寿を全うした。

[#書き出し](#)

繋ぐ

君が指差すあの星座。中々見つけられないわたしは、君と同じものが見たくて必死になる。君の事が知りたい。だけど星が繋がったって私達は繋がらないから。

「星座作る？」

一番光るあの星と一番綺麗なあの星と「3つ目は」君だよと指差す。「なら4つ目」私？同じ物はこれから沢山増えていく。

[#書き出し](#)

パスタくるくる

「パスタくるくる」僕の目の前にいる女の子は、唐突にそう言って、逃げていった。
この子が噂のパスタちゃん。
パスタちゃんにくるくるされたら3日で3人に くるくるしないと恥ずかしい目にあうってそりゃ
困る。

「パスタくるくる」ヒソヒソ。
これあと2回も？呪いを受ければ一度で済んだのに。

[#書き出し](#)

ついてない

ついてないなって彼が言う。

今日の彼は散々で、寝坊して遅刻、道は渋滞、買ったかった本は売り切れ、行くはずのゴハン屋は臨時休業、。

随分しょんぼりしてる。君はそうして悲しむけれど、私は実は少し嬉しい。

辛いときの君の顔、見るのが今日で初めてだから。

笑ってない顔だって愛したいの。

[#書き出し](#)

桜の雪

桜色の雪が降っていた。

雪は君の肩にはらり落ち、吸い込まれる。

異常気象なのかしら。君はそう言って笑うけど、僕は知ってる。

桜色の雪には死者の祈りが混ざってる。

「そろそろ行こうか」

墓の前、しゃがむ彼女の肩を守るように抱いた。

この雪はきっと彼の仕業。

僕は墓に眠る彼に嫉妬する。

[#書き出し](#)

かくれんぼ

子供の頃、かくれんぼが好きだった。

ひっそり隠れて息を潜め、見つかるその時を待つのが好きだった。

大人になって、かくれんぼなんかしなくなったけれど、私は今もあの時の感覚が好き。

待ち合わせ10分前、こっそり隠れる。到着した彼が私を捜す。

「みつけた」

鬼は今日も優しく笑う。

[#書き出し](#)

救済

僕には世界を救うことしかできない。

つまり彼女を救うことが来ない。だから魔王と契約した。

世界を救う事が彼女の救いに繋がるよう。

世界を救う、彼女おひとり様から救済僕と結婚みたいだね。

彼女の為に何度世界を救ったか。

現在末期癌に冒された彼女。救いたいけど僕80才。

戦局は厳しい。

[#書き出し](#)

to be continued

「お前、ワシの代わりにここの王様になれ」
勇者の僕に王様が言う。王様の命令は絶対。僕の旅は終了した。
退屈な日々。風の噂じゃまた魔王が生まれたとか。
するとあの日の僕のような勇者が現れた。
「お前、ワシの代わりにここの王様になれ」
再び僕は旅立つ。
to be continued

[#書き出し](#)

夜汽車

夜汽車は進む。まるで宇宙を走っているように、静かに。

車窓から見える美しい銀河。すれ違う宇宙船。

君の星までもう少し。

ガタンゴトン。

プラットホームに 佇む君は僕の愛しいエイリアン。宇宙を越えて逢いにきた。

ねえ、手を繋いで歩こうよ。

無重力で離れてしまうといけないから。

[#書き出し](#)

皇女

唇が離れた時、皇女の生温かい吐息が顔を撫る。

月光のように白く儂い貴女。やっと手に入れたこの夜よ永遠に続けと僕は願う。

翌朝、目覚めたのは見覚えのない廃屋。

見当たらない貴女。あの息づかいが夢であるはずが。

ふと隣に目をやると、貴方の愛した桔梗の花がひらり静かに花弁を落とした。

[#書き出し](#)

星吐夢

星を吐く、夢を見た。

喉が乾いてひきつれて咳こんだ先に手のひらに残るのは色とりどりの金平糖—それは確かに星なのだ。

そうだといいのに。私は思う。

いつも私が吐き出すものは、汚いだけの毒ばかり。私のまわりは死の世界。

金平糖のお星様、舐めてはみても、永遠に宇宙は生まれない。

[#書き出し](#)

カウンセラー

この世には二種類のカウンセラーが居る。

大丈夫だ、と思わせるカウンセラー。そして、大丈夫か？と思わせるカウンセラーだ。

前者が俺。

「友達できなくて」よくある悩み。

「友達っていらんよ。俺なんかさー（略）」

「あの私の方が大丈夫そうなので、先生の悩み聞きましょうか？」

今回も俺GJ！

[#書き出し](#)

おいてけぼり

置いてけぼりな感覚。

ツイートの向こう側、君はあの子と楽しそう。

君が側にいないとね、時間が止まった気持ちになるの。

だって私が刻みたいのは君との時間 だけだから。

ぼんやりTLを眺めていたら君からリップ。

「今から食事行こうよ」って。

早く私を迎えに来てね。止まった時計がまた進む。

[#書き出し](#)

飛べない天使

飛べない天使、飛ぶつもりなんてなかったのに。

「飛べないのは罪？」君は問う。恋と繋いだ綺麗な手、地と繋がる細い足。

負け惜しみじゃない。

君にとって、飛べない事はただの誇り。けれどそれはただの罪。

墮天使を裁きに僕はきた。

転落。

羽ばたきすらしない君は、お望み通り天使じゃない。

[#書き出し](#)

品川

下卑た町です。品川なんて。お店はちっとも美味しくないし、男はいつも千鳥足で譫言垂れて居る。

するりと抜けだす帰り道。ひっそり佇むこの部屋に私のあの子が住んでいる。

あの子がいるからこんな町でも思わず愛してしまうんだ。

私の気持ちを知ってか知らずか、隣であの子がにやあとなく。

[#書き出し](#)

種

話をタネに今日は何が育つかな。

楽しい話からは笑いが、悲しい話からは涙が育った。

今日植えたのは、恋の話。片想いの君への想い。

すくすく育って花が咲く。良かった。咲かずに枯れたら辛いから。

美しいダリア。花言葉なんか知ってるけれど、例えそれが未来でも、育つのならばそれでいい。

[#書き出し](#)

宛名のない手紙

想いを籠めたツイートが、また迷子になった。

当然と言えば当然だよね。宛名を書けなかったから。

迷子の迷子の恋心。探していると@がきた。

「君んちの迷子 保護してます」彼だ。何で辿り着けたの？

「ご迷惑おかけしました」

「貰っちゃダメ？」

え？

「可愛い君の恋心に僕は恋してしまいました」

[#書き出し](#)

第二ボタン

「先輩！第二ボタンください！」

「何で？」

まさかの質問。

「理由は言い難いっていうか察して欲しいっていうか」

「ボタン足りないとかじゃないの？」

「はい」

「ボタン足りなくて困ってるって言ってた子にあげるわ。ゴメン。」

先輩の後ろでライバルが舌をだす。

先輩天然すぎ。でもそこが好き。

[#書き出し](#)

作り話

私が唯一愛した作り話では、彼は彼女と恋に落ち、私は桜の花に変わる。

桜花は風にハラハラ散って、朽ちる時まで世界を愛でる。

お話ならば悲劇がいい。悲劇は時に美しい。

けれど今、桜の下、歩く彼と彼女と私。

桜花も彼女もとても綺麗。

なのに桜になれない私とこの気持ちだけが取り残される。

[#書き出し](#)

サカナ

音がサカナになってぼくの目の前を跳ねていく。

半透明十二色のサカナ達。

様々な大きさ、重なって離れて。新しい色が生まれる。

音楽はとうとう本当の自由を手に入れた。

サカナ達は街を泳ぐ。恋する二人にラブソングを。悲しみの彼には静かなジャズを。

そしてぼくには、なんて美しい鎮魂曲。

[#書き出し](#)

公共広告気候

さて、本日の公共広告気候は。

TVが伝える今日の広告予報。

「今日はこだま時々子宮頸癌の予報です」

だったら大丈夫。歩いて行けそう。

あら？なんだか雲行きが。

「こんにちは」これは。あれなの？

「魔法の言葉で」きたっ俄ぽぽぽ一ん。

予報外れは仕方ないけど、よりによってこれ？

[#書き出し](#)

AC~

優しい呪い

世界で一番やさしい呪いにかかった私は、変わり果てた姿でここにいる。

消えるはずだったあの日あの時、私は強く願ったのだ。

私の庇護する者達が、自ら滅ぶ その日まで、命を繋いで下さいと。

そして私は呪いを受けた。愛しい者を最期まで見守り続ける悲哀の呪い。

私は地球。不治の病の青い星。

[#書き出し](#)

メロンアンパン

メロンパンにあんこを入れると？

いやちょっと待て。そんなアンパンマン×メロンパンナみたいなことできない。

メロンパンナは天使だ。あの完璧な甘い微笑みに恋の甘さを足す必要はない。

アンパン野郎め。僕はアンパンを買って食ってやった。

あんこ美味い。

ん、メロンパンにあんこを入れると？

[#書き出し](#)

当選通知

当選通知を見て、俺は啞然とした。

妻はおひとりさま用宿泊券当たったから行ってくるって言ってたはず。

なのに通知にはペア宿泊券って。

何でそんな嘘を。あ、妻からメール。

「問題を解いて妻まで辿り着け！」

中身は暗号。ってこの通知のところにいるんだよねきっと。

仕方ない、のってあげよう。

[#書き出し](#)

埋葬

君を埋めた場所に行ってみると、たんぽぽの綿毛が一面に揺れた。

青い空、燦々太陽、翳雲。

僕は君を忘れないよ。綿毛の様な丸い君。

ちりと鈴の音、風が吹く。

一面の綿毛、今一斉に大空へ。

ああもしかして君は今、綿毛と共に旅立ったの？

にゃおん。

君のさよならが、聞こえた気がする。

[#書き出し](#)

神様

「神様が欲しいなら、俺がなってあげる」
悩める私に彼が言う。
生きてく理由が欲しかった。だから恋がしたかった。
私のこと、愛してる？何それ笑えるんですけど。
馬鹿みたい。私の手の甲に口付けて。
あんたなんか嫌い。大嫌いよ？
だからね、早く命令してよ。
ねえ、神様。私の望みをさあ早く。

[#書き出し](#)

つま先立ち

つま先立ちになって貴方に口付け。

これが貴方と私の距離。

制服のスカートふわり揺れる。

貴方の眼鏡が私のキスを拒んでも、気にしてなんかいられない。

私達を引き離す理由なんか山の様。貴方の余裕が腹立たしい。

宣戦布告。

もう手加減はしてあげない。桜舞う今日、貴方は私の担任を卒業した。

[#書き出し](#)

天使or悪魔

ねえ、天使と人間の違いってわかる？

君は難しいことばかり聞く。

あたしは、天使？それとも人間？

なに それ。そんなの決まってるのに。

君は天使。僕の天使。

だけどね、そんなホントの事を、僕が言うと思ったの？

甘いね君は。天使と人間の違いはね、嘘がつける かつけないか。

僕は君に嘘をつく。

[#書き出し](#)

地球滅亡

2099年、地球滅亡なう。

「地球がやられたようだ」

「フッフ...奴は太陽系最弱...」

「生物にやられるとは惑星の面汚しよ」

「これで最も美しい惑星はこの金星」

「戯れ言を」

ここから始まる星間戦争で太陽系惑星は全て滅びたと思われた。が。

「滅亡してなうが打てるか」

地球は静かに眼を開く。

[#書き出し](#)

紙飛行機

行き先の見えない紙飛行機を飛ばした。

飛行機は飛んだ。ぐんぐん飛んだ。そしてやがて見えなくなった。

月日は過ぎて僕は日々に追われてる。

痛い。後頭部にぶつかる、紙飛行機？

「夢を乗せて」翼に書かれた文字に赤面する。

これってあの日の。

そういえば昔、夢見てた。

もう一度、頑張ろうか。

[#書き出し](#)

カップ焼きそば

真夜中のカップ焼きそばの誘惑に逆らえず、付き合うことに。

「俺の女になれ」とか結構強引なのに、キスしたら照れるなんてギャップ萌えで可愛い。愛せそうな気がする。

美味しい彼。気がつくとき食べ終わって箱だけになった。彼はもはや何も言わなくない。

私は思い出を、未だ消化できずにいる。

[#書き出し](#)

ゆめみる

夢を見た、などと言えば笑われるだろう。

平和な世界、僕みたいのが要らない世界。

現実には、夢を裏切る命令ばかり。

ああ、だからこそ夢なのか。

この葛藤すらプログラムだとしても、僕は確かに夢を見た。

きっとこれは、僕を作った人の夢。

僕はいつか壊れるけれど、夢はきっと、誰かに繋がる。

[#書き出し](#)

癖

ペンを噛む癖。そろそろ詰まってきたのかしら。

物書きの苦悩など解らないけれど、彼の扱いは慣れてるわ。

そっと近寄って、甘い声。手を伸ばした彼に甘えて、膝の上にお座り。

唇を舐めて、そのあとは。解るわよね。

濃密な時間。

全く手の掛かる文豪なこと。大成したら、最高級の猫缶でいいわ。

[#書き出し](#)

神の国

なあんだ、かみさまなんていないじゃないか。

こんなにおいのりしてるのに。かみさまのうそつき。少年は天を睨む。

#書き出し

「はい待った？」息を切らして神様が来た。

「遅かったか」棺が運ばれる。享年90才。あの時の少年は天国へと旅立つ。

「自力で来るなら呼ばないでよね！」

神の国は遠い。

先生に聞いてみよう

あなたの心臓を盗みました。

何この手紙。心臓ないと生きられないじゃん。

俺生きてるし心臓だって動いて...あれ、ないよ？

困った時はグーグル先生だ！

「心臓なしで生きる」「もしかして：幽霊」

はっそういえば俺、事故にあって...

「成仏しましたね」「近頃の子はネットの情報なら信じますから」

[#書き出し](#)

カラスの恋

ある一匹のカラスは世界で一番美しい鳥に恋しました。
美しいその鳥は、唯一醜い自分の影を心底憎んでおりました。
ある日カラスは言いました。
「影さん私と 替わりましょう」
「責められるだけの日々ですよ？」
「それでも側にいたいのです」
斯くして二人は入れ替わり、カラスは恋を遂げました。

[#書き出し](#)

炭酸水

「貴方って炭酸水みたい。」 そう言った君に僕は理解ができなくて質問を投げかける。
「そんなにはじけてる？」 「まさか」 「じゃあどんな？」 「すぐに気が抜けちゃうとことか？」
ちょっと期待外れ。

[#書き出し](#)

こんな食いつくなんて。
甘くて刺激的で中毒性があって大好物とか言えないじゃない。ね。

過去への扉

素敵な昨日が僕を待っている。

僕は昨日の扉を次々開けた。

目眩く過去。辛かった事すら美しい思い出として僕を迎える。

そしてとうとう最後の扉。果てには何が。

ガチャ。

光に満ちた世界。僕は誰ですか。全ての記憶を使い果たした。

「おめでとうございます男の子です」

僕は不安に号泣する。

[#書き出し](#)

呼吸

エラ呼吸をしない人魚は、どうして溺れないのか？
尋ねる貴方に私は答える。
人魚は溺れているのです。
訝しげな貴方。そうは見えない。
不機嫌な唇を私は奪う。
人魚は幻想。ですから恋に溺れるの。
キスから始まる今宵は幻想。私は恋に、貴方に溺れる。
ねえ、王子様。恋に足など要らないわよね。

[#書き出し](#)

越える宇宙

あなたに会うためには、宇宙を越えなければいけない。
星占いが導き出した未だ見ぬ運命のあなたは遙か、辺境の星にいるみたい。
星間ワープを繰り返し、光の速さであなたの元へ。
それなのに。

[#書き出し](#)

彼はもう100年も前に死んだって。
おひとり様確定のお知らせに絶望した私は、その星を殲滅した。

思考停止

僕は考える事を止めた。

彼女との未来を導く数式。試行錯誤しても幸せになれる確率は低い。

計算の残骸を見て彼女が笑う。

「間違ってる」

指差したのは君の気持ち。

「バカにしないで。100倍よ！」

紅潮した頬。

それでも確率はさほど変わらないのだけど。

この数式、越えられそう。君とならね。

[#書き出し](#)

呪い

10分後かもしれませんし、ひと月後かもしれませんが、貴方は死にます。
魔女が僕に呪いをかけた。虜になればとける呪い、僕は彼女に傳いた。

[#書き出し](#)

悠久を生きる私。たまにこんな男もいい。

人は必ず死ぬものよ。

生まれた途端に受ける呪い。

愚かな男は気づくのかしら。

私は呪っていないって。

波の音

波の音が聴こえる。

海なんかいないのに、と思ったら壁に掛けられた絵からだ。

波が跳ねる。潮の匂い。キラキラ水面が美しい。

折角なので泳いでみる。透明な海。魚の戯れ。近くの島まで泳ぐと小屋が。入る。

ざわめきが聴こえる。

人なんかいないのに、と置いていたら壁に掛けられた絵からだ。

[#書き出し](#)

イケメン

僕は彼女の魔法でイケメンになった。

私と釣り合うにはそれくらいの顔じゃなきゃねって。

彼女はさらに僕に言った。

あとは性格も変えて、年収も変えて、引っ越して住所も変えて、携帯も変えて、戸籍もこの人の使ってね。

知らない名前で僕を呼ぶ。

ねえ、犯罪？犯罪なの？

[#書き出し](#)

あん○んまん

「アン○ンマン新しい顔よ!」「学べよ。」「アン○ンマン?」

「ゆとりパン屋。いつもこの展開だ。水、カビ、汚れ。これに対応すれば俺もっと戦えんだろう?」

「解った。」

アン○ンマン終了、カビ対応で次週より「それいけ!チーズまん!」お楽しみに!

[#twremix @chocolatesity](#)

ヒーローが子供に不人気など許されるのか。

いや待て。俺の座右の銘はなんだ。そう、愛と勇気だけが友達。

そろそろ愛とも仲良くすべきじゃないか。

「肴ほしー。」「僕の顔を。」「素敵。ワインとあうわ。私を酔わせてどうするつもり?」

夜もヒーロー。

[#twremix @chocolatesity](#)

[#twremix](#)

「ヒーローにはパワーを与えるヒロインが必要よ。さあ、私の顔を食べて!」

「もぐもぐ、ああ...なんか力が湧く。とろける上にジューシー...。ハッ!君はヒロインかと思ったらサーロイン!」

「グラム三千元よ。」

[@kusunokidan @chocolatesity](#)

「密室ですね。」探偵は宣言した。

この部屋は30階にあり、窓は開かない。発見時扉は施錠され、鍵は室内にあった。

「密室殺人未遂事件?犯人は、友人の愛か!」

「そう急くな。そもそも愛なんて人物は存在したのかね。愛なんてもんはいつも幻想だよ。」

[#twremix @chocolatesity](#)

猫と俺様

[@chocolatesity](#)

俺は天涯孤独の身。

家で迎えてくれるのは飼い猫只一匹...と思っていたが。

「お帰りなさい、ご主人様ご主人様ご略」

家には猫と猫と猫と猫だらけ。

おのれリア充猫。お前だけは仲間だと思っていたのに。

ねずみ算式に増えやがって。猫のくせに！猫のくせに！

[#twremix](#)

お前、阿呆だな。女なんか簡単じゃないか。

ぺろっと舐めて甘い声で囁けばいい。

気を許した際に膝枕でもさせれば、その後の展開なんか約束されてんだろ。

悪いがこの上玉は俺が貰ってくぜ。俺の出来の悪い飼い主は、阿呆面で俺を見送る。

元気でにや。

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

[@chocolatesity #twremix](#)

履歴書に「特技:空気を読む」と書いた女子大生に、

「では空気を読んでみてください」と面接官。

「今悪い空気が」

「20年前貴方と同じ特技書いて合格した子がいたの。

その武勇伝ゆえ恐れられ未だ結婚もせず面接官し続けてるわ。貴方それでもいい？」

[#twremix @1_dark](#)

「結婚志望動機書、どうしても書けないなら代筆屋さんに依頼すれば？最近是多いらしいよ」

「実は頼んだんだ。で、今さっき届いた。」「見せて。」「どうした。顔、赤いぞ」

「私の事は忘れて下さい。あと代筆屋さんの連絡先教えてね。」「何が書いてあったの。」

死神

「冥界の魂在庫が切れそうだ。新米死神、現世で魂を狩ってこい」

「畏まりました」と、エリート死神学校卒の彼女は考えた。

動くのだから。皆が自分から魂捧げてくれる方法は。

「嬉しい、待ってた♥」

気づけば銀座でNO1。

「あの、女の魂も……」

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

一歩

[#twremix @1_dark](#)

本を読んで音楽聴いて、好きとか嫌いとか言い合おう。

YouTubeみて笑ったり、ご機嫌になって歌ったり。

お風呂で温まって、美味しいご飯召し上がれ。

そしたらね、子供みたいに眠ろうか。

貴方が何かをする事は、必ず私に意味がある。

それはね、貴方の一歩なの。

キミガスキ

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「例えば、なにか一つ、その言葉教えてよ」「キミガスキ」「キミガスキ？」

「うん。練習してみて」「キミガスキ」

「できるな。じゃこれは？」「赤巻紙青巻紙黄巻紙。」

「すげー。じゃ次。」「生麦生米生卵。」

「お前神か？」「綺麗な言葉を一つでいんだけど。」

ゾンビのみる夢

「新入りさんこんばんわ。」

死体の一つに話しかけられ驚いて声もでない。

「脅かしちゃったかな？お詫びに貴方が知りたい事教えてあげる。」

知りたい事？

「ここはゾンビ製造工場。私達ゾンビになるのを夢見てるの。貴方はどんなゾンビになりたい？」

[#twremix @chocolatesity](#)

[#twremix @chocolatesity](#)

「あなたは愛のゾンビになりなさい。」先程の死体が嬉しそうに言う。

「ゾンビって中古品じゃない？一度生を終えて、それぞれにこだわりを持ってる。そのこだわりを能力に出来るの。」

連れも満足そうだ。

「ね、あなたは？」

ゾンビ嫌とは言えない空気。

食事と戦争

[#twremix](#) [@1_dark](#)

1日1回食事する人と、1日5回食事する人が言い争いになった。
1時間おきに食事する人と、1週間ほとんど食事しない人も加わった。
この後戦争が起こるとし、最も強い戦闘力を発揮するのは誰か。
但し1回の食事は500kcalとし、バナナはおやつに入らない。

迷子の

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「すみません、おまわりさん。道をたずねたいのですが」「はい、どちらまで？」

「天国。」「送らしましょうか？」「あ、でも忘れ物してるみたいで。次にします。」「ではまた。」

...

「いまのは？」

「悪霊。やっと話しかけてくれるまで懐いたよ。そろそろ送れるかも。」

喰われる

[@1_dark](#)

フォロワーに、ついのを喰われている。

対価として次々と [#twremix](#) をくれるが、答えるそばからまたガッツリ喰われていく。

とにかくにも、時間足りない。

まあ自分で望んだことなのだから幸せなのだけれど。

毎日楽しい物語を語るフォロワーが（愛しくも）憎い。

今日の対戦相手は [@chocolatesity](#)。

無抵抗です手も足も出ませんみたいな可愛い素振りを見せながら、実はこの残忍な戦いの創始者

。

どんな攻撃も即座に見つけ出し打ち返す鉄の防御壁、

防御と共に繰りされる真っ直ぐな攻撃は、[#twremix](#) 界で恐れられている。

いざ、勝負！

残雪

雪が残っている。

空一面に降っていたのに、残った雪はたったこれだけ。

ふと君を思い出す。

不治の病。その運命の非常さを。隣にいた者が消えるのに救えなかった僕。

天国の君へ祈る。

ゴミ置き場みたいな場所でだって、生きてさえいてさえくれたなら幸せにできたのに。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

[@1_dark](#) [#twremix](#)

カレーが残っている。

鍋一面にあったのに、残ったカレーはたったこれだけ。

ふと昨日を思い出す。

パン、饅頭、ドリア。その運命の多様さを。

カレーライスという生を全うできずに消えたカレーを笑うカレー達。

鍋の最も暗いその陰が、幸せの場所とは思えないけれど。

蒲公英の綿毛が残ってる。

空一面に飛んでいったのに、残ったのはたったこれだけ。

ふと姉を思い出す。3月のあの日、東京での結婚式を中止して、地元に残ると決意した。

その運命の非情さを。

幸運を祈って綿毛を飛ばす。

大安吉日。

姉は地元の教会で、今日、式を挙げる。

[#twremix@1_dark](#)

うさぎちゃん

彼女が私に言いました。

「あなたの名前を下さいな」

困って私は言いました。

「ご免ね。それはあげられないの」

困って彼女が言いました。

「名前を教えてくださいな」

私は彼女に言いました。

「ごめんね私のうさぎちゃん。通報されたら困るもの。私はあなたのストーカー。」

[#twremix@1_dark](#)

相談

[#twremix](#)

「ねえ相談なんだけど」「何？」

「好きな人がいたとして、でも恋愛の好きとは違って、そんな人いたとするじゃない」

「うん」

「それが恋愛に成長したらどうやって別れればいいのかと思う？」

「別れる？」「二股は嫌。」「え？」

「別れてって言うてるの。」

[@chocolatesity](#)

いいニュースわるいニュース

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

死神「いいニュースと悪いニュースがある。どちらを先に聞きたい？」俺「いいニュースで」

死神「喜べ。願い通りお前は死ぬ」俺「で、悪いニュースは」

死神「死に方が。」俺「苦しい？」死神「苦しまん」俺「じゃ良か」

死神「死ぬのは心だけだ」俺「」

在庫不足

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

ネタの在庫が切れてしまったので脳に新規発注したが、なかなか指先まで届かない。

おかしいと思って電話すると「おかけになった電話番号は現在使われておりません。」って何事？

よく見たら書き置きが。「労働条件が改善するまでストライキ。」いやん。

昨日世界は

[@hyuugahikage](#)

きのう、世界は滅びなかった。

電話をかける「もしもし魔王！？世界昨日滅ぼすんじゃないの？私あんたが言うから全財産使っちゃ、

え、責任？嫁にこい？何その浪漫のない求婚。え、嫌ってなんか。もう狡いよ。結婚します。」
計算通り。魔王はほくそ笑んだ。

[#twremix](#)

シンデレラ

[@kusunokidan](#) [@ce1039](#)

0時前に必ず帰る僕は、シンデレラ先輩と呼ばれている。

自分の欲望に忠実な僕、確かに似てるかも。

だけどシンデレラは彼女だ。0時に呪われているのは彼女なんだ。

ガラスの靴は1日分の記憶。

いっそ叩き壊せば楽になれるのかもしれない。

[#twremix](#)

勇者

[@chocolatesity](#)

俺の唯一の相談相手は姉が現れた。

「馬鹿ね。どうせ連れるなら彼女にしなさい。」

さすが姉。年の功。

「で、早速だけど、どの娘がいい？」

居並ぶお姉様方。年の離れたこの姉は、若くしてママである。

「どの娘もいい子よ。」

やっぱ仲間捜しは酒場から。

[#twremix](#)

[@chocolatesity](#) [#twremix](#)

俺、準備ばっか頑張っただけ何も出来ずに終わるよな。

今回はそれじゃいけない。何しろ俺は勇者なんだ。

そう言えば俺の使命って何？

王様に会わなくちゃいけないんじゃない？王様って誰？天皇？

翌朝俺は新聞にのった。「皇居侵入者（年齢不詳自称勇者）ご用」

[@chocolatesity](#) [#twremix](#)

スライムがあらわれた！どうする？ってそれ、勇者俺じゃん。

こういう時どうすんだ。看守さん、攻略本を。あざーす。

コマンド「|>はなす」

俺は無益な戦いを好まない。

奴は身の話 시작했다。

スライムは仲間になりたそうにこっちをみている。どうする？

[@chocolatesity](#) [@nayotaf](#)

「もう合体しかない」「///」「そこ赤くなんな」

脱出を目指し僕らはキング化を決めた。

「誰が一番上に」「俺だろ」「俺」「お前逆さだからダメ」「お前ら何してる」

看守だ！

「えとあの」

「あ悪かった恋愛は自由だ続けてくれ」

え？

[#twremix](#)

[@chocolatesity](#) [@nayotaf](#)

合体した俺達。脱獄に向け心は1つだった。

これだよこの一体感。パーティーって感じ。

そこで切り出す。

「俺実は勇者なんだ」「えー」「脱獄という目的ができた。皆ガンガン行こうぜ！」

「私あそびに一ん」「私も×α」遊び人だらけ。

[#twremix](#)

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

「俺、捕まってない」「え？」

「俺、逆さの国からきた。いいことすると刑務所入る。俺マジ天使」

もう意味がわからない。

「どうでもいいけど、脱走する？」

「ここが好きだから脱走する」

まあいい。盗賊便利そうだしもう合体しちゃったし。鍵を開けた。

[@chocolatesity](#)

歩くこともままならない俺達。看守に囲まれた。

「ガンガン！」「俺はやるぜ」「逃げろー」「パルプンテ」

意識統一できない俺ら。看守達は混乱した！

そうか、俺達の予測のつかない波状攻撃に恐れをなしているのか。

すごいぞ俺ら。だけど出口は遠い。

[#twremix](#)

[@chocolatesity](#) [#twremix](#)

経験値ゼロの俺らに出来る事。

それは「逃げることだ！」逃げる逃げる連打連打。

初めてみんなの息があう。俺らいい仲間になってきたな。

ん、おかしい。逃げられませんって？ボスだから？あー！

これは、セーブポイントまで戻されるってそれどこ？

戸惑っているとオカマAが言う。

「あたし、遊び人の前プログラマーだったの。」

だからなんだ。

「こんな事もあるうかと細工しときました！」

さすがオカマ、気が利く。

あれ？なら、ボス倒した風に修正すればいいんじゃない？

「えーつまんなーい」

オカマめ！

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

[@chocolatesity](#)

「って、この世界の結末は決まっている？」

赤くなった俺は興奮気味に言う。

「そう言っちゃもともこないけどお」

予定調和の世界。

「俺何すればいいの？」

「やだ説明書読まない方？」

「俺は読む方だけど捨てられたと思う」

オカンは説明書を読まない。

[#twremix](#)

いきなり母を訪ねて三千里。

だけどこれは取説を求めての旅、即ちプロログだよね？

壮大だな。

あ、って事はこの壮大な俺の関わりがただのサイドストーリーでしかないなおかんの物語って
いったいどんだけでっかいの？

おかん、まさかのゲーム廃人バレ。

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

世界の王に皆がひれ伏す。まさかの駄洒落？

しかし長いものには巻かれろなのだ。

「王様魔王とは一体」「例えるなら絶対に打たれないピッチャー」「例えじゃなく」「魔王は魔王だ」

どうやら魔王は駄洒落にできなかつたらしい

。「この地図を与えよう」

[@chocolatesity](#) [#twremix](#)

「つまりボスって名前言えないけどあのネズミ？」

さすがに手強そうだ。

「真向勝負で勝てるかな」

ギャラリーも多そうだし完全アウェイ。

「どうせ俺達ヒールだぜ。だったら俺にいい考えがある」

なになに。

「女をさらうんだ！」

俺達、勇者だよな？

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

俺は狸を仲間にした。感激する狸。

「これあげますハセヨ」今キムチとか貰っても。ん？

「魔王の弱点は髭」

キムチの壺に書かれた暗号。

「暗号てか、まんま髭じゃん？」

さすがにそのままって事は。

「あんた推理小説読み過ぎじゃない？」

何故知ってる。

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

「と言うことは、ヤツはネズミではない」

「そこ？」

「そしてヤツはボスじゃない」

ヒリリ。オカマが怪訝な顔をする。

「狸の情報信じるの？」俺は狸を見た。

「旦那仲間じゃないですか」「な、仲間///よし信じる！」

「えー」俺は仲間に飢えていた。

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

俺ら3人、千葉某所見参。

ボスもはっきりしないけど行くしかない！

パスポートを入手。王様の経済力はねっす。

貰った園内マップを眺める。パーティーらしく作戦会議！

「よし、ファストパスはこの順番でとってそれから」

王様、アトラクション乗る気満々。

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

王様はニヤリと笑った。

「想定内だ。お前に仲間は必要ない」

まさか俺、騙されて？

「あいつらはお前の事など思ってなかった」

ごもつとも。

「お前の事本当に考えているのは誰だ？」

え、誰？

「俺だけがお前を」

超展開。狸が白い目で見てる。助けてよ...

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

てか髭？

「魔王の弱点は髭」あの壺にはそう書いてあった。

「お前が弱点？つまり敵は韓国にあり？」

ニヤリと笑う狸。

こんな状況でも必死に俺にくらいつく貞治を怒鳴る。

「お前なんでここまでの地図を渡した」

「だってデートしたかったの><」

貞治！

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

「戻るか...王さん裏技知らない？」

「貞治って呼んでくれなきゃ嫌」

「あるの？」頷く王。

「貞治教えてくれ」

「カセット無理矢理引き抜いてこの呪文入力」

「おうさだはるあいしてるけっこんしてくれ」

「はい///」

信じていいの？ってかファミコン？

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

定規

[@ce1039 #twremix](#)

定規を貸してと言われ引き出しを開ける。

前にここ使ってた人のが残ってたはずって5本もある。

「あ、木村さんの混ざってます」

貸してと言った上司の名前が平仮名で記された古ぼけた竹製定規が混ざってた。

手渡すと彼は背をむけて、眩くように有り難うと言った。

[@ce1039 #twremix](#)

俺は全くもって竹定規を見習った方がいい男だった。

恋の温度や湿度に大変影響されやすくて、何度もアイツに失恋愚痴ったっけ。

その度にアイツ、俺に言ったよな。

「私は先輩のそういうところ好きですけどね」ってさ。

あれ、今気づいたんだけど、俺告白されてたかも？

[@solologue](#)

記念すべき2000ツイート目で創作クラスタの皆様に技巧を聞くとかどんだけ。

私は「」内の文章を文字数によっては句読点で止めない、かな。

あ、別にあんたの事好きだから教えたんじゃないんだからね。

それに私#twremix してるわけじゃないんだから。おめでとう!!!

@solologue

(やだあの時間半分眠ってて #twremix タグ打ち間違えたとか言えない。

クール女子で売ろうと思ってたのにドジっこ属性なんかついたら困るの。

財布を忘れて愉快的サザエさんになるくらいならツンデレ街道まっしぐらよ) タ

グを内容に組込むのはもはや技巧じゃなく常識。

悪魔

@chocolatesity @ce1039

寝顔は天使だけど君は小悪魔。

「ね、これ何？」外人男の名刺。

彼女は驚愕の表情。

「騙してごめんね」

まさか本物の悪魔だったとは...途端変貌を遂げる彼女。

「我が輩は悪魔である。」

よくみると名刺にはデーモン林暮閣下と書かれていた。

#twremix

日曜の朝

[@ce1039](#)

日曜の朝、いつものように家族の会話に水をさす。

この状況になって何年経ただろう。

娘にはパパ臭いと言われ妻には留守がいいと言われる。

孤立無援の成立。

一人ぼっちの家庭は辛い。

でも一番悲しいのは、家族の冷たい視線を気持ちがいいかもと感じ始めた自分自身だ。

[#twremix](#)

世界しか救えない俺

[#twremix](#)

僕、世界。何度も僕は救われる。

だけども危機ってそれ程多くはないんだな。

けれども彼が切実で、ついつい手助けしたくなる。

無駄に噴火、無駄に隕石召喚、無駄に未知のウィルス発見等々。

ああ、忙しい。

え、またなの？さすがにそろそろネタ切れですが。

[@kusunokidan](#)

[@solologue](#)

桜前線研究所では、只今臨時研究員を募集しております。

全国各地の桜の名所でお花見の場所取りの振りをしながら、思い思いに過ごしませんか？

誰にでもできる簡単なお仕事です。衣装住居は当方負担。

詳細はお電話で。サクラサクサクラサク！

[#twremix](#) [#twnovel](#)

お局様

給湯室では新人達がお局様の噂話。

声がどんどん高くなって、重い気配がぐんぐん近づいて、ピッと戦慄が走ったわ。

そう、鬼よ。もうすぐ恐ろしい鬼がくるの...!

新人達はすぐ口を閉ざしたわ。

怒りに満ちたお局様から逃げ出そうと、彼女達は必死に飛ぶように走ったの。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

いろいろという

<http://p.booklog.jp/book/36687>

著者：なほ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/nihosanpo/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/36687>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/36687>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.